
令和7年度 事業報告書

学校法人 村崎学園

目 次

I.	法 人 の 概 要	1
	1. 基本情報	
	2. 建学の精神、使命・目的	
	3. めざす大学像	
	4. 沿革	
	5. 設置学校等	
	6. 役員の概要	
	7. 評議員の概要	
	8. 教職員の概要	
II.	事 業 の 概 要	8
	1. 令和7年度の主な事業	
	2. 教育研究の概要	
	3. 3ポリシー	
	4. 就職状況	
	5. 管理運営の概要	
	6. 中期目標・中期計画	
	7. 特長ある取り組み	
III.	財 務 の 概 要	89
	1. 決算の概要	
	2. その他	
	3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	
IV.	学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統 制システム)の整備及び運用状況の概要	94
	1. 関係する決議の概要	
	2. 体制整備及び運用状況の概要	

I. 法人の概要

1. 基本情報

(1) 法人の名称

学校法人 村崎学園

(2) 学園本部の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス

住 所 〒770-8560 徳島市寺島本町東1丁目8番地

電話番号 088-622-0097

FAX番号 088-626-2998

ホームページアドレス

<https://www.bunri-u.ac.jp>

2. 建学の精神、使命・目的

本学の建学精神は「自立協同」である。

この建学精神は、学祖村崎サイが明治28(1895)年7月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和20(1945)年7月、学園は戦火に包まれて灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人元理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。

この建学精神の意味するところは、成長してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「自立」を具現化する方法、とするものである。「協同」は「力を合わせて物事をする」ことなので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「人」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。

爾来、学園はこのような歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、大学・短大、大学院併せて9学部28学科、6研究科、3専攻科、そして5研究所、1相談室を有する総合学園として発展してきた。

今後とも建学精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

大学の目的は「学則」第1条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」と定めている。大学院は学則第2条に、短期大学部は学則第1条にそれぞれの目的を定めている。また、教育研究上の目的についても大学は学則第3条2項に、大学院は学則第5条2項に、短期大学部は学則第4条2項に明記している。

このように、本学の使命は、建学精神の下、「学則」等に記した教育研究上の目的を達成することにある。本学の使命・目的は、学祖が女性の自立を唱えて建学したこと、村崎凡人元理事長が第2次世界大戦で軍役に服した経験を生かし、さらに、戦後の社会状況から芽生えた近代精神を取り入れたこと、村崎正人前理事長がドイツ留学において社会経済学を学んだ経験に基づき、新たな国際感覚を吹き込んだこと等から形作られている。

その目的は、「自立協同」の建学精神を基本に、高度な教養と専門的能力を身につけるための教育と研究を実践し、並びに、幅広い教養を身につけた社会人や、あるいは、研究心と独立心を持って社会の発展に寄与する人材を養成することである。また、本学は教育機関であると同時に研究機関でもある。研究機関としての本学の使命は、研究成果を社会に還元し、文化の創造と発展に貢献していくことである。

3. めざす大学像

(1) ブランドスローガン「あなたの未来を創る 徳島文理大学」

本学は、「あなたの未来を創る 徳島文理大学」をブランドスローガンに制定し、さらなるブランド力の向上を目指している。特に力を入れているのが“地域のニーズに応える特色ある教育・研究”で、9学部が連携し、地域の健康や福祉・教育・食料・災害・公共政策など、SDGsに寄与する教育・研究を展開している。それぞれの分野での取組を一層強化し、AI・データサイエンスに関する教育も文系・理系問わず積極的に導入して、新時代を先導する人材の育成を推進する。

(2) 文理融合の教育

本学は、人間教育の視点から、日常的な学生の交流をとおして成熟した社会人への成長を支援できるように、文系3学部（音楽学部・総合政策学部・文学部）、理系3学部（薬学部・理工学部・香川薬学部）のほかに、文理融合の2学部（人間生活学部・保健福祉学部）と短期大学部を設置し、総合大学の特性を生かした文理融合の教育をめざしている。

(3) 教育目標・方法等の明示と自立学修

本学は各学部・学科の教育目標・方法等を履修ガイド及びシラバスに明示し、目標達成のため教員と学生はともに努力している。

また、カリキュラムの充実のほか、国家試験、資格試験での合格率の向上と、資格取得に努めている。そのために、学生自らが課題を見つけ解決するいわゆる「自立学修」ができる教育も実践している。

(4) 教育への信頼（安心と安全）

～適切できめ細やかな教育と学生の成長を支援する充実した教育・研究環境～

本学が掲げる「安心」とは、学生に対し親切に接し、いい教育・わかる教育を行うことつまり教育の質を保証するものであり、「安全」とは、今後予測される南海トラフ地震の発生に備えた耐震化等、学生・教職員の教育環境を整えることである。

本学では、学年・学期の各段階で、学生に適切できめ細やかな教育を行うよう努めている。入学前教育は、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試に合格した段階から開始しており、学生の出身校と連携をとりながら、入学後の学修がスムーズに進むよう支援している。

また、新入生一人ひとりに各学部・学科のチューターあるいは担任が付き、平成25(2013)年からWeb化した「学習ポートフォリオ」をもとに面談を行い、教員とのきめ細かな連携を構築しながら、大学生活をサポートしている。

なお、新入生は、本学の特色である「文理学」を必修科目として履修している。「文理学」では、理事長の「徳島文理大学の建学精神と歴史」や学長の「考えるとは感動することだ」の講義に続いて、「学習ポートフォリオの使用説明」を行い、学生の自主学修を促している。

そのほか、全学共通教育センターでは、学生の個々の事情に合わせた各学部・学科教育の専門的な学修に備えるための支援として「学力充実講座」を開講している。また、eラーニングによる学修システムも導入し、個別メニューで効果的に独自学修が行えるようサポートをしている。それに加え、教員・保育士をめざす学生には「教員・幼保養成対策講座」、公務員をめざす学生に対しては「公務員試験対策講座」での指導を通じて、進路の実現を支援している。

さらに、「FD研究部会」は、FD(Faculty Development)研修会・講演会の開催、研究授業、全学授業アンケート、在学生対象・学修状況アンケート、卒業予定者対象・大学生活満足度アンケート等を行い、教育活動の質の向上に努めるだけでなく、学生と教員の連携を円滑に進めている。

教育・研究環境面では、メディアセンターにICT(情報通信技術)教育設備を設置し、語学や基礎学力向上を図るセンターや、生活面をサポートする施設等を置き、学生の自主的な学びの場や学生と教職員とのコミュニケーションの場として活用されている。

また、徳島及び高松駅両キャンパスにある図書館は、豊富な資料を揃えており、情報システムのもとDVD、CD、ビデオ等あらゆる視聴覚資料を学生に提供し、教育環境の完備に努めている。

さらに、徳島キャンパスには、世界最高水準の音楽ホール「むらさきホール」並びに「アカンサスホール」、「ボストンホール」を設置しており、学生のレッスン、学生による定期演奏会、OB定期演奏会等に利用している。同ホールでは、国際的に活躍している演奏家や指揮者による演奏も行われており、学生はそれらを直に聴くことができる。また高松駅キャンパスには、同様の機能を有した「ムラサキキネンホール」を設置している。

優れた教育を支える活発な研究活動は本学の特徴でもある。研究活動は学生の問題発見能力と問題解決能力の育成に役立ち、その成果を社会に発信できた時の喜びは学生と教員が共同して成し遂げた教育成果としても分かち合える。徳島・高松駅キャンパスには充実した教育・研究機器が整備され、最先端の研究が展開されている。

(5) 地域に密着した教育貢献

本学は地域に密着した教育貢献を心がけている。これは、本学が徳島の地で震災から復興し今日の発展に至ったのは、県民の教育への思いや、成功をおさめた多くの卒業生、多数の保護者、教育に尽力した教職員、地域住民等の限りない協力と支援に負うところが大きかったと考えるからである。

地域に密着する教育貢献としては、公開講座や公開講演会、定期演奏会、高等学校等への出張講義、児童・生徒を対象とした科学・工作教室等の開催、徳島・香川県等との地域連携事業の推進のほか、本学施設を一般の講演会と演奏会等の会場としても提供しており、地域住民の参加を歓迎している。

また、平成27(2015)年4月には、地域貢献・地域連携を担う中核として地域連携センターを設立し、社会的ニーズに対応した教育貢献に努めている。

(6) グローカル教育

本学は四国に位置していることから、日本や世界の流れを踏まえつつ地域とともに歩める人材を育成することを目的とし、グローバルに考え、ローカルに行動する「グローバル教育」を実践している。そして、そのために必要となるICT能力やコミュニケーション能力の向上を図れるように、メディアセンターの充実や、ICTの導入、総合大学の特色を生かした多様な講義の受講機会を設ける等、教育環境を整えている。また、地域を知り、厳しい社会環境を生き抜き活躍していけるよう、学生には地元企業や地域とのインターンシップに積極的に参加するよう推奨している。

(7) 国際交流

本学は総合大学である特徴を生かし、米国、カナダ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアなどの12ヶ国32大学と大学間の学術交流協定を締結している。また高大連携は9校となっている。

米国のマサチューセッツ工科大学との協定は日本で最初に締結したほか、音楽療法の先進校である米国のシェナンドー大学から日本の大学として初めて音楽療法教育を導入した。

このほか、オーストラリア・グリフィス大学、韓国・檀国大学校、水原大学校等、香港伍倫貢学院（旧香港城市大学）及び台湾の中山医学大学等とは、学生の短期・長期の滞在を含めた定期的な交流を行っている。さらに、令和6(2024)年度からは台湾中山医学大学との間で看護学科、理学療法学科間の交流を開始し令和7(2025)年度も相互交流を実施した。

これらの国際交流を通じて、本学の学生は、海外の教育を受けたり異文化に触れたりすることができ、異文化への理解や国際的な視野をひろげることにつながっている。また、本学の教員も国際シンポジウムに招待されることが多く、本学が高い研究レベルを維持し、国際的に活躍できる大学としての特色を備えている証左でもある。

また、平成26(2014)年度、国際交流グループと語学センターを統合し、国際部を新設した。現在、10名体制で運営を行っており、平成28(2016)年度、学内横断的な組織である国際交流委員会を設立し、国際交流・グローバル化を推進する体制を整備した。

4. 沿革

1895年(明治28年)	村崎サイ、私立裁縫専修学校創立 「女性の自立」を唱え、自立協同を建学の精神とする
1924年(大正13年)	徳島女子職業学校設置許可
1932年(昭和7年)	徳島女子職業学校経済科設置許可
1944年(昭和19年)	財団法人村崎女子商業学校認可
1947年(昭和22年)	財団法人村崎学園認可 村崎高等女学校と校名変更
1948年(昭和23年)	村崎女子高等学校と校名変更
1951年(昭和26年)	学校法人村崎学園認可
1958年(昭和33年)	徳島女子高等学校と校名変更
1961年(昭和36年)	徳島女子短期大学創立、家政科設置
1962年(昭和37年)	徳島女子短期大学家政科専修分離(家政専修、食物専修)
1963年(昭和38年)	徳島女子短期大学保育科設置
1966年(昭和41年)	徳島女子大学創立、家政学部家政学科設置 徳島女子短期大学文科(国文専攻、英文専攻)、音楽科設置
1967年(昭和42年)	徳島女子大学家政学部家政学科専攻分離(家政学専攻、管理栄養士専攻)
1968年(昭和43年)	徳島女子大学音楽学部音楽学科設置
1970年(昭和45年)	徳島女子大学家政学部児童学科設置 徳島女子短期大学商科設置
1972年(昭和47年)	徳島女子大学薬学部薬学科、衛生薬学科設置 徳島女子大学を徳島文理大学と校名変更
1973年(昭和48年)	徳島女子短期大学を徳島文理大学短期大学と校名変更 徳島文理大学附属幼稚園開設
1974年(昭和49年)	徳島文理大学短期大学家政科専攻分離(家政専攻、食物専攻)
1975年(昭和50年)	徳島文理大学音楽専攻科設置 徳島文理大学附属中学校開設
1976年(昭和51年)	徳島女子高等学校を徳島文理高等学校と校名変更 徳島文理大学附属中学校を徳島文理中学校と校名変更
1979年(昭和54年)	徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻[修士課程]設置
1980年(昭和55年)	徳島文理大学短期大学を徳島文理大学短期大学部と校名変更
1981年(昭和56年)	徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻[博士課程(後期)]設置
1983年(昭和58年)	香川キャンパスを開学 徳島文理大学文学部日本文学科、英米文学科設置(香川キャンパス)
1984年(昭和59年)	徳島文理小学校開設

- 1987年（昭和62年） 徳島文理大学短期大学部経営情報科設置（香川キャンパス）
- 1988年（昭和63年） 徳島文理大学短期大学部家政科を生活科学科（生活科学専攻、食物専攻）に名称変更
カナダ バンクーバー・コミュニティ・カレッジと姉妹校協定締結
- 1989年（平成元年） 徳島文理大学工学部機械電子工学科、情報システム工学科設置（香川キャンパス）
村崎サイメモリアルホール完成（香川キャンパス）
- 1992年（平成4年） 徳島文理大学文学部コミュニケーション学科設置（香川キャンパス）
徳島文理大学大学院文学研究科地域文化専攻〔修士課程〕設置（香川キャンパス）
- 1993年（平成5年） 徳島文理大学家政学専攻科設置
徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻〔修士課程〕設置（香川キャンパス）
学園創立100周年村崎凡人記念図書館、総合体育館完成（徳島キャンパス）
- 1994年（平成6年） 徳島文理大学家政学部生活環境情報学科設置
徳島文理大学大学院文学研究科地域文化専攻〔博士課程（後期）〕設置（香川キャンパス）
- 1995年（平成7年） 徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻〔博士課程（後期）〕設置
（香川キャンパス）
アメリカ マサチューセッツ工科大学〔MIT〕と大学間協定締結
カナダ ランガラ大学と姉妹校協定締結
- 1996年（平成8年） 徳島文理大学短期大学部文科英文専攻を英語文化専攻に名称変更
- 1997年（平成9年） 徳島文理大学大学院家政学研究科食物学専攻、生活環境情報学専攻〔修士課程〕設置
徳島文理大学短期大学部文科国文専攻を日本文学専攻に名称変更
- 1998年（平成10年） 徳島文理大学大学院家政学研究科児童学専攻（児童教育学コース、臨床心理学コース）
〔修士課程〕設置
徳島文理大学大学院薬学研究科医療薬学専攻〔修士課程〕設置
徳島文理大学家政学部人間発達学科設置
徳島文理大学文学部文化財学科設置
徳島文理大学工学部環境システム工学科設置
アメリカ インディアナ大学と学術交流協定締結
- 1999年（平成11年） 徳島文理大学大学院家政学研究科人間生活学専攻〔博士課程（後期）〕設置
ベトナム ハノイ国家大学と学術交流協定締結
徳島文理大学大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コース、臨床心理士養成の
指定を受ける
徳島文理大学短期大学部文科を改組し、言語コミュニケーション学科設置
- 2000年（平成12年） 徳島文理大学総合政策学部総合政策学科設置
学園創立110周年記念むらさきホール完成（徳島キャンパス）
オーストリア ウィーン国立音楽大学・アメリカ シェナンドー大学と姉妹校協定締結
- 2002年（平成14年） 徳島文理大学薬学部衛生薬学科を医療薬学科に名称変更
徳島文理大学家政学部家政学科管理栄養士専攻、生活環境情報学科を改組し、
食物栄養学科、生活情報学科、住居学科設置
徳島文理大学家政学部を人間生活学部に変更
徳島文理大学家政学部家政学科家政学専攻を人間生活学部人間生活学科に変更
- 2003年（平成15年） 徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科設置
徳島文理大学人間生活学部人間発達学科を心理学科に、文学部英米文学科を
英米言語文化学科に変更
香港大学と学術交流協定締結
徳島文理大学短期大学部経営情報科を地域ビジネス情報科に変更（香川キャンパス）
- 2004年（平成16年） 徳島文理大学工学部ナノ物質工学科設置（香川キャンパス）
徳島文理大学大学院総合政策研究科地域公共政策専攻〔専門職学位課程〕設置
徳島文理大学香川薬学部創薬学科設置（香川キャンパス）
韓国 檀国大と学術交流協定締結
- 2005年（平成17年） 徳島文理大学大学院香川薬学研究科創薬科学専攻〔博士課程（前・後期）〕設置
（香川キャンパス）
徳島文理大学家政学専攻科を人間生活学専攻科に変更
徳島文理大学大学院家政学研究科を人間生活学研究科に変更
徳島文理大学大学院人間生活学研究科児童学専攻臨床心理学コースを改組し、
心理学専攻〔博士課程（前期）〕設置
徳島文理大学大学院工学研究科ナノ物質工学専攻〔博士課程（前・後期）〕設置
香港城市大と学術交流協定締結
スロベニア ヨーゼフ・ステファン国際大学院と学術交流協定締結

- 2006年（平成18年） 徳島文理大学人間生活学部生活情報学科をメディアデザイン学科に名称変更
徳島文理大学薬学部薬学科[4年制]、医療薬学科[4年制]を改組し、薬学科[6年制]設置
徳島文理大学香川薬学部創薬学科[4年制]を改組し、薬学科[6年制]、薬科学科[4年制]設置
イタリア パヴィア大学と学術交流協定締結
- 2007年（平成19年） 徳島文理大学短期大学部地域ビジネス情報科廃止
徳島文理大学工学部臨床工学科設置（香川キャンパス）
- 2008年（平成20年） 徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科を改組し、人間福祉学部人間福祉学科設置
徳島文理大学文学部英米言語文化学科を英語英米文化学科に、工学部機械電子工学科を
機械創造工学科に、情報システム工学科を電子情報工学科に名称変更（香川キャンパス）
徳島文理大学保健福祉学部看護学科設置
オーストラリア グリフィス大学と学術交流協定締結
- 2009年（平成21年） 徳島文理大学工学部を理工学部に変更（香川キャンパス）
徳島文理大学助産学専攻科設置
徳島文理大学人間生活学部住居学科を建築デザイン学科に名称変更
イギリス グロスターシャー大学と学術交流協定締結
台湾 中山醫學大學と学術交流協定締結
台湾 新民高級中學と高大連携校協定締結
- 2010年（平成22年） 徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科設置
徳島文理大学大学院香川薬学研究科薬科学専攻[修士課程]設置（香川キャンパス）
台湾 台北醫科大學・大仁科技大學・台南應用科技大學と学術交流協定締結
台湾 台北市立南湖高級中學・樹德高級家事商業職業學校・新光高級中學と
高大連携校協定締結
- 2011年（平成23年） 台湾 嘉南薬理科技大學・義守大學・東海大學・国立台中教育大學・国立台湾師範大學と
学術交流協定締結
台湾 高雄市立三民高級中學と高大連携校協定締結
- 2012年（平成24年） 徳島文理大学保健福祉学部診療放射線学科設置、臨床工学科を理工学部から
保健福祉学部へ移行（香川キャンパス）
徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年課程)設置
台湾 中原大學・逢甲大學・開南大學と学術交流協定締結
- 2013年（平成25年） 中国 厦門大學と学術交流協定締結
韓国 水原大學校・水原科學大學と学術交流協定締結
台湾 康橋双語學校と高大連携校協定締結
- 2014年（平成26年） 徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻[修士課程]設置
韓国 安山江西高等學校と高大連携校協定締結
台湾 淡江大學と学術交流協定締結
- 2015年（平成27年） 中国 広東省外語芸術職業学院と学術交流協定締結
中国 北京語言大学附属大連高級中學と高大連携校協定締結
地域連携センター開設
2号館アカンサスホール完成（徳島キャンパス）
- 2016年（平成28年） 徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻〔博士課程(後期)〕設置
徳島文理大学大学院総合政策学研究科総合政策学専攻〔修士課程〕設置
- 2017年（平成29年） 徳島文理大学保健福祉学部口腔保健学科設置
- 2018年（平成30年） ポーランド ルブリン医科大学と学術交流協定締結
- 2019年（令和元年） トレーニングセンター完成(徳島キャンパス)
- 2025年（令和7年） 高松駅キャンパスを開学
徳島文理大学総合政策学部経営学科設置(高松駅キャンパス)

5. 設置学校等

理事長 村崎 文彦

徳島文理大学大学院 学 長 梶山 博司 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示180 (徳島キャンパス)
 〒760-8542 高松市浜ノ町8番53号 (高松駅キャンパス)
 〒769-2193 香川県さぬき市志度1314-1 (志度キャンパス)
 薬学研究科(博士課程)・文学研究科(博士課程)・工学研究科(博士課程)
 人間生活学研究科(博士課程)・看護学研究科(博士課程)・総合政策学研究科(修士課程)

徳島文理大学専攻科 学 長 梶山 博司 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示180
 人間生活学専攻科・音楽専攻科・助産学専攻科

徳島文理大学 学 長 梶山 博司 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示180 (徳島キャンパス)
 〒760-8542 高松市浜ノ町8番53号 (高松駅キャンパス)
 〒769-2193 香川県さぬき市志度1314-1 (香川キャンパス)
 人間生活学部 人間生活学科・食物栄養学科・児童学科・メディアデザイン学科
 建築デザイン学科・心理学科
 音楽学部 音楽学科
 薬学部 薬学科
 文学部 日本文学科・英語英米文化学科・文化財学科
 理工学部 機械創造工学科・電子情報工学科・ナノ物質工学科
 総合政策学部 総合政策学科・経営学科
 香川薬学部 薬学科
 保健福祉学部 人間福祉学科・看護学科・理学療法学科・診療放射線学科・臨床工学科
 口腔保健学科

徳島文理大学 学 長 梶山 博司 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示180
 短期大学部 生活科学科、保育科、言語コミュニケーション学科、音楽科、商科

徳島文理 学校長 竹内 薫 〒770-8054 徳島市山城町西4丁目20
 中学校・高等学校

徳島文理小学校 学校長 長井 明福 〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示68-10

徳島文理大学 園 長 西岡 純子 〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示2
 附属幼稚園

6. 役員の概要

(1) 定員数

理事	7
監事	2

(2) 理事

(令和7年5月1日現在)

氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
村崎 文彦	令和6年3月11日	常 勤	(学)村崎学園 理事長
梶山 博司	令和7年3月31日	常 勤	徳島文理大学 学長
村崎 和子	平成18年4月8日	常 勤	徳島文理大学 教授
中村 敏雄	平成31年4月18日	常 勤	(学)村崎学園 経理部長
竹崎 克彦	平成22年4月8日	非常勤	無職
高橋 淳	平成18年4月8日	非常勤	(株)高橋商店 相談役
早雲 洋一	平成29年4月25日	常 勤	(学)村崎学園 事務局長

(3) 監事

(令和7年5月1日現在)

氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
細溪 英一	平成14年6月18日	非常勤	池田屋(有)代表取締役
新見 延安	令和5年4月1日	常 勤	無 職

(4) 役員賠償責任保険契約及び責任限定契約の状況

1) 役員賠償責任保険契約

令和2年4月1日から私大協役員賠償責任保険に加入した。

- ① 契約者（団体） 日本私立大学協会
- ② 被保険者 記名法人：学校法人村崎学園
個人被保険者：理事・監事・評議員
- ③ 補償内容
 - ・記名法人に関する補償
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
 - ・役員（個人被保険者）に関する補償
法律上の損害賠償金、争訟費用等
- ④ 支払い対象とならない主な場合（免責事由） 法律違反に起因する対象事由等
- ⑤ 保険期間中総支払限度額 3億円

2) 責任限定契約

私立学校法及び学校法人村崎学園寄附行為に基づき、令和7年7月8日及び令和7年8月1日に責任限定契約を締結した。

- ① 対象役員等（非業務執行理事等）の氏名
 - ・非業務執行理事（2名）：綾田裕次郎、高橋淳
 - ・監事（2名）：新見延安、竹内圭三
 - ・会計監査人（2名）：大西均、山地圭二
- ② 契約内容の概要

非業務執行理事等が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金15万円と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする。
- ③ 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、非業務執行理事等がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の規定がある。

7. 評議員の概要

(1) 定員数

評議員	15
-----	----

(2) 評議員

(令和7年5月1日現在)

氏名	就任年月日	主な現職等
竹内 薫	平成21年4月1日	徳島文理中学校・高等学校 校長
長井 明福	平成30年4月1日	徳島文理小学校 校長
西岡 純子	令和5年5月13日	徳島文理大学附属幼稚園 園長
村崎 明子	令和6年4月16日	徳島文理大学 准教授
吉川 恵理	平成19年5月13日	(株)高砂家具 社員
田村 祥祐	平成26年5月13日	田村薬品(有) 代表取締役
村崎 文彦	平成30年12月20日	(学)村崎学園 理事長
原井 俊典	平成31年4月1日	徳島文理大学短期大学部 教授
戸川 友美	令和3年5月13日	(学)村崎学園 広報企画監
村崎 和子	平成3年4月1日	徳島文理大学 教授
竹崎 克彦	平成22年5月13日	無職
冨田羅勝義	平成22年5月13日	徳島文理大学 教授
早雲 洋一	平成25年4月1日	(学)村崎学園 事務局長
中村 敏雄	平成31年4月18日	(学)村崎学園 経理部長
佐々木和昭	令和3年5月13日	徳島文理大学 教授

8. 教職員の概要

(1) 教職員数

(令和7年5月1日現在)

	法人本部	大学	短期大学部	その他	合計
本務教員	0	312	34	75	421
兼務教員	0	104	81	70	255
本務職員	1	118	9	9	137
兼務職員	0	38	8	0	46

(注) 平均年齢は、本務教員 57.14 歳、本務職員50.61 歳です。

II. 事業の概要

1. 令和7年度の主な事業

(1) 協定等

1) 主な協定書締結

① 牟岐町と徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部との包括的連携に関する協定書

令和7(2025)年4月16日(水)、本学は、牟岐町と包括的連携に関する協定を締結した。本協定は、包括的な連携のもと、それぞれの資源を有効活用し、人的交流を促進することにより、相互に協力して地域の発展と人材育成に寄与することを目的としている。



② (株)穴吹カレッジサービス／TAC(株)、東京リーガルマインド(株)と徳島文理大学との国家資格等試験対策に係る連携協定書

令和7(2025)年4月21日(月)、本学は、高松駅キャンパスにおいて、(株)穴吹カレッジサービス／TAC(株)、東京リーガルマインド(株)と国家資格等試験対策に係る連携協定を締結した。本協定は、経営学・経済学・会計学・データサイエンスなどに精通する本学総合政策学部経営学科と連携し、税理士・中小企業診断士・基本情報技術者・国税専門官・財務専門官などの資格取得を目指す学生に向けた支援体制を構築することを目的とする。



③ マルコメ株式会社と徳島文理大学との産学連携に関わる共同研究協定書

令和7(2025)年4月23日(水)、本学は、マルコメ株式会社と産学連携による共同研究協定に調印した。本協定は、志度キャンパスの一部を本学とマルコメ株式会社との新たな研究開発拠点(植物工場や大豆の品種開発の関わる拠点)とし共同研究を行うことを目的とする。



④株式会社テレコムメディアと徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部との地域貢献に関する包括的連携協定書

令和7(2025)年10月30日(木)、本学は、株式会社テレコムメディアと地域貢献に関する包括的連携協定を締結した。本協定は、包括的な連携のもと、それぞれの資源を有効活用し、人的交流を促進することにより、地域の発展と人材育成に貢献することを目的としている。



⑤徳島県立城北高等学校と徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部との包括的連携協力に関する協定書

令和7(2025)年12月5日(金)、本学は、徳島県立城北高等学校との包括的連携協力に関する協定書を締結した。本協定は、包括的連携のもと、教育内容の充実と生徒及び学生の資質向上を図るとともに、地域社会に貢献することを目的としている。



(2) 教育研究関係

1) 公的外部資金の獲得

令和7(2025)年度の公的外部資金の獲得は、文部科学省科学研究費8,723万円(44件)となり全国の採択私立大学596校中99位であった。また、別途、文部科学省委託事業(心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭研修プログラム開発業務)21万円(1件)があり獲得額は合計8,744万円となった。

2) 文部科学省の補助金の獲得

○私立学校施設整備費補助金(私立幼稚園施設整備費)

文部科学省の私立学校施設整備費補助金(私立幼稚園施設整備費)に「特別防犯対策(幼稚園:東面フェンス設置工事、玄関オートロック化工事)」が採択された。
補助金:308万円

○教育支援体制整備事業費交付金(幼児教育の質の向上のための緊急環境整備)

文部科学省の教育支援体制整備事業費交付金(幼児教育の質の向上のための緊急環境整備)に「徳島文理大学附属幼稚園」が採択された。
補助金合計:8.1万円

(3) 施設設備関係

1) 徳島キャンパス

- ① 令和7(2025)年8月 7号館食堂2階ラウンジ 床修繕工事を行った。
- ② 令和7(2025)年12月 1号館の照明をLED化に更新改修工事を行った。
- ③ 令和8(2026)年2月 25号館の照明をLED化に更新改修工事を行った。

2) 高松駅キャンパス

①令和7(2025)年4月 高松駅キャンパス開学

- ・設計・監理委託会社 株式会社教育施設研究所
- ・建物建築請負業者 西松建設株式会社 ・建物設備請負業者 株式会社四電工



【令和7(2025)年4月開校 高松駅キャンパス】



【高松駅キャンパス 周辺マップ】

3) 徳島文理中学・高等学校の環境整備

施設改修工事

①令和7(2025)年8月 文理中高体育館3階 床修繕工事を行った。

4) 徳島文理小学校の環境整備

施設改修工事

①令和7(2025)年4月 小学校 4階 家庭科室・教育実習室 エアコン設置工事を行った。

②令和7(2025)年7月 小学校 体育館 空調新設工事を行った。

③令和7(2025)年8月 小学校 ランチルーム 床修繕工事を行った。

(4) 国際交流

「中期計画・中期目標」に基づく「行動計画」にしたがって国際交流の推進に取り組んだ。行動計画では「留学生の受入れを促進するとともに、海外留学・研修制度／留学相談の充実強化を図ること」及び「留学生受入れを促進するため、留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制を整備すること」の2項目に取り組んだ。

前者に関して、留学生(正規生)の入学人数は19名(前年度5名、前々年度10名、前々年度17名)であり近年の減少傾向に歯止めがかかった形となった。これは、コロナ禍収束によって国内の日本語学校の在学者数が回復してきたことと、定員管理方法が変更後2年が経過し、都市部大学による収容定員充足のための新生受入増が一巡したこと、さらに中国の進学事情の特性から日本への進学熱が高まっているためと推定される。

令和3(2021)年度から導入したオンラインによる海外研修や交流については引き続き計画・実施した。しかし、令和7(2025)年2月の台湾中山医学大学との学生とのオンライン交流「オンライン台湾留学」については応募者がおらずプログラム導入後初めて未催行となった。これは、実施時期をこれまでの8月から2月に変更したことによるものと考えられ、令和8(2026)年度から8月実施に戻す予定である。令和7(2025)年9月には「SDGs オンライン海外研修」を行った。このプログラムは授業の一部として行われるパートと自費参加となるパートから構成され、昨年は、12名が有料プログラム参加したものの令和7年度は、希望者が1名にとどまった。

令和6(2024)年度から看護学科・理学療法学科の中山医学大学との交流プログラムを新設し両学科の学生を同大学に派遣したが、令和7年度は派遣・受入の双方向のプログラムを実施した。また、人間福祉学科の交流プログラムも開始し、令和7(2025)年度は受入を行った。

後者(留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制の整備)については、広東省外語芸術職業学院(3年制大学)の卒業年度の最後の半年を交換留学生として本学で学び、その間に同学科に編入学試験を経て編入学し1.5年の在学後卒業するプログラムについて、募集を開始し、令和7(2025)年度にプログラム一期生となる6名を交換留学生として受入、うち、5名が編入学した。

また、10月には留学生(交換留学生を含む)を主対象とした文化・史跡研究を企画し、徳島県美波町で行われた日和佐八幡宮の例大祭に1泊2日で参加した。



2. 教育研究の概要

(1) 名称及び教育研究上の目的

1) 大学院

自立協同の建学精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、もって、文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することのできる人物を育成することを目的とする。

研究科名	教育研究上の目的
薬学 研究科 (4年課程)	医療薬学分野と基礎薬学分野を融合した教育・研究を通じて、高度な専門的知識・技術を修得し、医療人としての広い視野と能力、高い倫理観、並びに医療現場で提起される臨床的課題の解決に向けた優れた研究能力を有する指導的臨床薬剤師及び医薬品開発の中心的な役割を担える研究者を養成することを目的とする。
文学 研究科	文学、言語学、考古学、歴史学、文化史学、地理学などの教授研究を行い、地域文化の継承と創造的発展に寄与しうる探求心と学問的客観性を体得した人材を養成することを目的とする。
工学 研究科	システム制御工学及びナノ物質工学におけるより高度の専門学術の教授研究を行い、課題研究を遂行し、工学進展に寄与する研究者及び社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
人間生活学研究科	人間生活学、食物学、生活環境情報学、児童学、心理学における各専門分野の深い学識と学際分野の幅広い知識を習得し、学芸の進歩に貢献できる創造性豊かな人材を養成することを目的とする。
看護学研究科	看護学における学術性及び高度な専門性を教授・探究し、先駆的な研究・教育・管理能力、卓越した看護実践能力をもつ人材を養成することを目的とする。
総合政策学研究科	法律、行政、経済、金融、企業経営に関する高度な研究や、政策実施現場での経験を通じ、地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

2) 専攻科

精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。

専攻科名	専攻	教育研究上の目的
音楽 専攻科	器楽 専攻 声乐 専攻	音楽の領域に関する専門的な実技を、精深な程度において教授研究し、社会の要請に応えられる人材を養成する。
人間生活学専攻科	人間生活学 専攻 児童学 専攻	生活科学及びその隣接領域の学問分野並びに児童学の分野を、精深な程度において教授研究し、社会の要請に応えられる人材を養成する。
助産学 専攻科		周産期を担える専門職の実践教育を重視するとともに、助産学分野を精深な程度において教授研究し、女性のライフサイクルの総合的な助産ケアの能力を培った人材を養成する。

3) 大学

教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。

学部名	各学部における教育研究上の目的	学科名	各学科における教育研究上の目的
人間生活学部	最先端の知識・技能を教授研究し、かつ人間と生活環境との共生を総合的・学際的に追究して、より豊かで幸せな人間生活の実現のために、広く社会貢献をなし得る人材の養成を目的とする。	人間生活学科	健康で安全・快適な人間生活の実現のため、人と生活について科学的、総合的な教授研究を行い、専門的知識・技能を持ち、地球社会に貢献できる自立した人間性豊かな人材を養成する。
		食物栄養学科	人々の健康を、食から支える栄養のスペシャリストとして、必要な専門的知識・技能を涵養し、社会に貢献できる他人に優しい管理栄養士・栄養士を養成する。
		児童学科	教育・保育に対する使命感、教育愛、倫理観に裏付けされた豊かな人間性を涵養するとともに、高度な専門的知識やすぐれた指導技術を学び、子どもたちと共感的に向かい合える総合的人間力を備えた指導者を養成する。
		メディアデザイン学科	デジタルデザイン技術を学び、インストラクショナルデザイナーに関する知識・技能を身につけ、さらに分析、企画、プロデュースする能力及びプレゼンテーション能力を備えた人材を養成する。
		建築デザイン学科	建築デザインに関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、快適で安全な住まい、美しい住環境を創ることをめざし、「建築デザイン」に関する基礎的、専門的知識・技術を持った人間性豊かな人材を養成する。
		心理学科	心理学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、精神的危機をもたらす社会環境への適応に向けて、人間関係改善の相談支援並びに専門的サポートシステムの担い手となる人材を養成する。
音楽学部	音楽に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。	音楽学科	音楽の領域に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、音楽の表現・鑑賞並びに音楽療法にかかわる専門的知識・技能を備え、文化の昂揚啓発に貢献する人材を養成する。
薬学部	薬学に関して深い知識・技能・態度をもつ有能な人材を養成するとともに、最高最新の科学を教授研究することを目的とする。	薬学科	薬剤師として必須の知識・技能・態度を習得するだけでなく、問題解決能力を有した薬剤師を養成する。
文学部	各時代の文学を通じ、日本文学・語学及び文化を精究し、英語を駆使できる国際人、先人が残した多様な文化遺産を現代に創造的に生かせる人材を養成することを目的とする。	日本文学科	古代から近現代に至る文学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、巨視的な観点を保ちつつ、その時代特有の思想や態度を精研するとともに、日本語学を体系的に学び、日本語の運用能力を身につけた人材を養成する。
		英語英米文化学科	英米言語文化にかかわる学術の総合的、学際的な教授研究を行い、英語の運用能力のスキルを高め、欧米の文化についての知識を幅広く獲得することにより、広く国際社会に貢献できる真の国際人を養成する。

文 学 部		文化財学科	先人が残した多様な文化遺産の調査・分析方法を教授研究し、専門技能・学識や探求心・実践力を身につけ、文化・歴史・風土に対する知識や感性を社会の創造・発展に向けて活用できる人材を養成する。
理 工 学 部	「創造力のあるもの創り」、「情報通信」、「環境・バイオテクノロジー」、「ナノテクノロジー・材料」、「ライフサイエンス」をキーワードとして、理学的・工学的基礎のうえに、専門的学術を教授研究し、科学技術の進歩に柔軟に適應できる能力を身につけ、豊かな社会を創造する技術者を養成することを目的とする。	機械創造型工学	機械設計に必要な基礎知識を教授し、産業の基盤技術である「もの創り」の理解を深め、手法を会得し、創造性豊かな技術者を養成する。
		電子情報工学	電気・電子工学及び情報工学に関する学術を教授研究し、高度情報社会の発展に不可欠なコンピュータシステムを理解し、自由に使いこなせる能力を身につけた情報システム技術者を養成する。
		ナノ物質工学	応用化学・応用生物学・光工学分野における無機・有機・高分子・複合材料等、ナノ材料の基礎を教授し、資源・環境問題を認識したグローバルな視点から新素材開発に取り組み、豊富かつ高度なナノ構造解析機器と解析技術力を活用できる人材を養成する。
総合政策学部	法学・政治学・経済学・経営学・社会学など、社会科学の幅広い学問の教授研究を行い、広い視野を有するゼネラリストを養成することを目的とする。	総合政策学科	地域に立脚した総合政策を立案・推進する手法の総合的、学際的な教授研究を行い、複眼的志向を持つ問題解決型の人材を養成する。
		経営学科	幅広い分野の社会科学の教養と経営学の専門的知識技能を身につけ、他者と協同し地域社会や様々な企業・団体の課題を多面的・多角的な視点から発見・解決する人材を養成する。
香川薬学部	薬学に関する教育プログラムに基づき、薬の科学者としての技量・学識と医療倫理観を兼備した薬剤師及び探求心を有した薬の科学者を養成することを目的とする。	薬学科	基礎及び専門教育をとおして、薬にかかわる科学を教授研究し、病院・薬局での臨床実習をとおして、医療人としての自覚と技量を養い、探求心と人間性を兼備した質の高い薬剤師を養成する。
保健福祉学部	医療・保健・福祉に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。	人間福祉学科	社会福祉学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、社会福祉にかかわる幅広い専門的知識・技能、豊かな人間性を兼ね備え、地域の要請に応えられる社会福祉士、精神保健福祉士を養成する。
		看護学科	医療・保健衛生・健康の分野にかかわる学術の総合的、学際的な教授研究を行い、保健衛生・健康にかかわる専門的知識・技能、豊かな人間性を兼ね備え、社会の要請に応えられる看護師、保健師、助産師を養成する。
		理学療法学科	生命を尊重し、人間の尊厳と権利に関する深い洞察力を持ちながら、健康と福祉の向上に貢献できる質の高い理学療法士を養成する。
		診療放射線科	放射線技術に関する諸科学・医学及び高度医療機器・設備等に精通し、チーム医療に貢献するとともに教育・行政、医療機器関係の企業等の諸分野において活躍できる診療放射線技師を養成する。
		臨床工学科	高度先端医療に対応できる工学的・医学的知識を教授研究し、臨床工学に係わる専門的知識・技能を身につけ、豊かな人間性を兼ね備え、高度先端医療に対応できる臨床工学技士を養成する。

学部名	各学部における教育研究上の目的	学科名	各学科における教育研究上の目的
保健福祉学部		口腔保健学科	人々の健康増進の担い手としての使命感を常に持ち、修得した口腔保健に関する高度な知識・技術及び問題解決能力を、保健・医療・福祉等の現場で多職種と連携して十分に発揮できる、福祉マインドを持った専門性の高い歯科衛生士を養成する。

4) 短期大学部

教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し、中正穏健なる人格を涵養するとともに、我が国文化の高揚と地域の発展に貢献する有為な人材を育成することを目的とする。

学科名	教育研究上の目的	専攻	教育研究上の目的
生活科学科	生活、すなわち衣食住に関する学術を教授研究し、健康で快適な暮らし方に関わる専門的知識・技能を身につけ、時代や地域のニーズに応えられる人材を養成する。	生活科学専攻	衣食住における「ものづくり」とおし、創造力、問題発見・解決能力を身につけ、「生きる情熱」と「素の考える力」のある人材を養成する。
		食物専攻	食生活に関する領域の学術を教授研究し、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、フードサイエンティスト（食品科学技術認定証）の資格を取得し、食のスペシャリストを養成する。
保育科	次世代を担う子どもの成長と幸福を支援できる専門的知識・技能を習得し、保育を創造する能力、豊かな感性と総合的実践力を備えた人材を養成する。		
言語コミュニケーション学	プレゼンテーション技術を身につけることを教育の核にし、日本語・英語の表現能力、情報機器の効果的な利用法を習得し、地域社会に貢献できる人材を養成する。		
音楽科	音楽学に関する学術を教授研究し、音楽にかかる専門的知識・技能、豊かな教養を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。		
商科	ビジネスにかかわる学術を教授研究し、情報処理技能をはじめ、商業の領域にかかる専門的知識・技能、企業で生かせる豊かな教養、コミュニケーション力を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。		

(2) 教育研究上の基本となる組織並びに教員数

1) 大学院

教員数には助手、実験助手、副手を含む

令和7年5月1日現在

研究科名	専攻科名	課程	教員数
薬学研究科[4年制課程]	薬学専攻	博士課程	63(63)
文学研究科	地域文化専攻	博士前期課程	13(13)
		博士後期課程	8(8)
工学研究科	システム制御工学専攻	博士前期課程	13(13)
		博士後期課程	13(13)
	ナノ物質工学専攻	博士前期課程	8(8)
		博士後期課程	8(8)
人間生活学研究科	人間生活学専攻	博士後期課程	10(10)
	食物学専攻	博士前期課程	8(8)
	生活環境情報学専攻	博士前期課程	6(6)
	児童学専攻	博士前期課程	7(7)
	心理学専攻	博士前期課程	9(9)
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	16(16)
		博士後期課程	12(12)
総合政策学研究科	総合政策学専攻	修士課程	13(13)

() 内は兼務

2) 専攻科

専攻科名	専攻	教員数
音楽専攻科	器楽専攻	9(9)
	声楽専攻	3(3)
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	8(8)
	児童学専攻	7(7)
助産学専攻科		6(2)

() 内は兼務

3) 大学

学部名	学科名	教員数
一般総合科目		15
人間生活学部	人間生活学科	7
	食物栄養学科	16
	児童学科	14
	メディアデザイン学科	6
	建築デザイン学科	6
	心理学科	12
音楽学部	音楽学科	9
薬学部	薬学科	46
文学部	日本文学科	6
	英語英米文化学科	8
	文化財学科	5
理工学部	機械創造工学科	9
	電子情報工学科	9
	ナノ物質工学科	9
総合政策学部	総合政策学科	12
	経営学科	10
香川薬学部	薬学科	35
保健福祉学部	人間福祉学科	12
	看護学科	26
	理学療法学科	13
	診療放射線学科	12
	臨床工学科	10
	口腔保健学科	8

4) 短期大学部

学科名	専攻	教員数
一般総合科目		3
生活科学科	生活科学専攻	4
	食物専攻	7
保育科		8
言語コミュニケーション学科		5
音楽科		4
商科		6

5) 専任教員数

職位	徳島文理大学	徳島文理大学 短期大学部
教授	162	15
准教授	77	13
講師	53	4
助教	18	2
助手	2	0
実験助手	7	2
副手	0	1
計	319	37

6) 教員1人当たりの学生数 (S T比)

	ST比
徳島文理大学	11.6
徳島文理大学短期大学部	2.9

7) 研究所他

生薬研究所
比較文化研究所
健康科学研究所
未来科学研究所
神経科学研究所
臨床心理相談室

徳島文理高等学校
徳島文理中学校
徳島文理小学校
徳島文理大学附属幼稚園

8) 各教員の業績及び保有学位

本学のホームページをご参照ください。

<http://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/edu-info/teacher/>

9) シラバス

本学のホームページをご参照ください。

<https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/edu-info/>

(3) 学生に関する情報

1) 入学者、在学者、卒業（修了）者等の状況

① 大学院

(令和7年5月1日現在)

研究科名	専攻科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	進学者数	就職者数
薬学研究科	薬学専攻（博士後期）	6	3	24	10	6	0	6
文学研究科	地域文化専攻（博士前期）	6	0	12	0	1	0	1
	地域文化専攻（博士後期）	3	0	9	0	0	0	0
工学研究科	システム制御工学専攻（博士前期）	8	4	16	13	7	0	7
	システム制御工学専攻（博士後期）	4	0	12	0	1	0	1
	ナノ物質工学専攻（博士前期）	8	5	16	6	2	0	1
	ナノ物質工学専攻（博士後期）	4	0	12	1	0	0	0
人間生活学研究科	人間生活学専攻（博士後期）	3	0	9	2	0	0	0
	食物学専攻（博士前期）	6	0	12	2	1	0	1
	生活環境情報学専攻（博士前期）	6	0	12	0	0	0	0
	児童学専攻（博士前期）	8	2	16	2	2	0	2
看護学研究科	心理学専攻（博士前期）	10	8	20	17	9	0	8
	看護学専攻（博士前期）	7	2	14	5	1	0	1
看護学研究科	看護学専攻（博士後期）	3	1	9	3	0	0	0
	看護学専攻（博士後期）	3	1	9	3	0	0	0
総合政策学研究科	総合政策学専攻（修士課程）	5	6	10	7	5	0	5

② 専攻科

(令和7年5月1日現在)

専攻科名	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	進学者数	就職者数
音楽専攻科	器楽専攻	4	2	4	2	1	0	1
	声楽専攻	2	0	2	0	0	0	0
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	8	0	8	0	0	0	0
	児童学専攻	6	0	6	0	0	0	0
助産学専攻科		10	9	10	9	8	0	7

③ 大学

(令和7年5月1日現在)

学部名	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数	就職者数
人間生活学部	人間生活学科	40	21	160	101	30	1	28
	食物栄養学科	90	36	360	167	52	0	49
	児童学科	70	34	370	155	60	2	56
	メテオリアテマサイエンス学科	30	10	120	87	17	0	13
	建築テマサイエンス学科	45	22	180	130	45	1	37
	心理学科	80	54	380	275	66	6	45
音楽学部	音楽学科	20	12	110	35	8	2	6
薬学部	薬学科	150	44	900	353	72	2	40
文学部	日本文学科	30	40	120	109	28	0	26
	英語英米文化学科	30	27	120	73	17	0	17
	文化財学科	30	37	120	107	20	0	19
理工学部	機械創造工学科	30	19	120	73	12	0	10
	電子情報工学科	40	47	160	187	41	5	35
	ナノ物質工学科	40	15	160	66	20	4	15
総合政策学部	総合政策学科	80	53	380	283	60	1	50
	経営学科	80	108	80	108			
香川薬学部	薬学科	90	53	540	253	30	0	23
保健福祉学部	人間福祉学科	30	16	120	53	9	0	9
	看護学科	100	67	400	302	83	3	75
	理学療法学科	70	71	280	268	62	0	62
	診療放射線学科	60	71	240	278	53	0	35
	臨床工学科	45	38	180	133	26	0	20
	口腔保健学科	40	13	160	58	14	0	14

④短期大学部

(令和7年5月1日現在)

学科名	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数	就職者数
		生活科学科	生活科学専攻	20	8	60	13	13
	食物専攻	20	19	60	25	8	1	4
保育科		40	11	110	23	18	1	9
言語コミュニケーション学科		10	5	30	9	3	1	8
音楽科		10	2	30	4	0	3	3
商科		40	18	80	34	20	3	23

2) 社会人受入

(令和7年5月1日現在)

大 学	正 規 学 生	21
	科 目 等 履 修 生	3
	専 攻 科 生	2
短 期 大 学 部		4

3) 収容定員充足率

(令和7年5月1日現在)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
大 学	71.69%	70.84%	68.14%	62.75%	63.44%
短 期 大 学 部	35.87%	33.26%	30.43%	23.70%	29.19%

(4) 学修の成果に係る評価及び卒業及び修了の認定に当たっての基準

m

1) 単位の認定 (履修要綱)

- ① 授業科目の単位は、授業時数の3分の2以上出席履修し、かつ試験に合格したときに認定される。試験は必ずしも筆記試験によらないで、演習成績、学修態度、報告書などをもってその全部又は一部に代えることができる。
- ② 授業科目の単位は、45時間の学修をもって1単位とする。ただし、この学修時間には教室外における自学自習も含めて計算する。その割合は授業形式によって異なり次のように定められている。したがって残余の時間は自宅、図書館等における自主学習にあてねばならない。
 - ・ 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ・ 実験・実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ・ 芸術等の分野における個人指導による実技の単位については、別に定めるところによる。

2) 成績評価 (履修要綱)

- ① 各科目において每学期末成績は、100点法によって評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。
 - ・ 学生に通知する場合の成績は100点法で示される。
 - ・ 学外に発行する成績証明書については、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、いずれも履修単位を認定する。59点以下は記載しない。
- ② 学修の成果を示す指標として、学期末に学生に通知する成績通知書に「当期f-GPA」「年間f-GPA」「累積f-GPA」を、学外に発行する成績証明書に「累積f-GPA」を記載する。

- ・ GP(グレード・ポイント)は次の計算式により算出する。
 $GP = (\text{各科目の成績評価の得点} - 55) / 10$
- ・ f-GPAに算入する科目は卒業に必要な単位とする。
- ・ 「当期f-GPA」「年間f-GPA」「累積f-GPA」の算出方法は次のとおりとする。

評語	得点	GP
秀	90~100	3.5~4.5
優	80~89	2.5~3.4
良	70~79	1.5~2.4
可	60~69	0.5~1.4
不認定/再試	0~59	0
追試/保留/通年科目の途中評価	対象外	

$$\text{当期f-GPA} = \frac{\{ (\text{当該学期に履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \} \text{の合計}}{\text{当該学期に履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{年間f-GPA} = \frac{\{ (\text{当該年度に履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \} \text{の合計}}{\text{当該年度に履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{累積f-GPA} = \frac{\{ (\text{当該学期までに履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \} \text{の合計}}{\text{当該学期までに履修登録した科目の総単位数}}$$

3) 修了の認定に当たっての基準

① 研究科

研究科	専攻	課程	修業年限(年)	必要修得単位数(単位以上)	科目区分ごとの修得単位数(単位以上)		修得可能な学位及び専攻分野の名称	備考
					必修	選択		
薬学研究科	薬学専攻	博士課程	4	34	16	18	博士(薬学)	博士前期課程及び修士課程は、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 博士後期課程、4年制博士課程は、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。
文学研究科	地域文化専攻	博士前期	2	32	0	32	修士(文学)	
		博士後期	3	8	8	0	博士(文学)	
工学研究科	システム制御工学専攻	博士前期	2	30	12	18	修士(工学)	
		博士後期	3	8	0	8	博士(工学)	
	ナノ物質工学専攻	博士前期	2	30	16	14	修士(工学)	
		博士後期	3	8	8	0	博士(工学)	
人間生活学研究科	食物学専攻	博士前期	2	30	14	16	修士(食物学)	
	生活環境情報学専攻	博士前期	2	30	8	22	修士(生活環境情報学)	
	児童学専攻	博士前期	2	30	8	22	修士(児童学)	
	心理学専攻	博士前期	2	34	24	10	修士(心理学)	
看護学	看護学専攻	博士前期	2	32	6	26	修士(看護学)	
		博士後期	3	18	12	6	博士(看護学)	
総合政策学	総合政策学専攻	修士	2	30	10	20	修士(総合政策学)	

②専攻科

専攻科		修業 年限 (年)	必要修得 単位数 (単位以上)	科目区分ごとの 修得単位数 (単位以上)	
				必修	選択
音楽専攻科	器楽専攻	1	30	12	18
	声楽専攻	1	30	26	4
人間生活学 専攻科	人間生活学専攻	1	30	6	24
	児童学専攻	1	30	10	20
助産学専攻科		1	36	36	0

4) 卒業の認定に当たっての基準

①大学

学部	学科	修業 年限 (年)	必要修得 単位数 (単位以上)	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な学位 及び専攻分野の名称
				一般総合科目 (単位以上)		専門教科科目 (単位以上)		
				必修	選択	必修	選択	
人間生活学部	人間生活学科	4	124	14	12	22	76	学士(人間生活学)
	食物栄養学科	4	124	14	12	30	68	学士(食物栄養学)
	児童学科	4	124	14	12	6	92	学士(児童学)
	メディアデザイン学科	4	124	14	12	8	90	学士(情報)
	建築デザイン学科	4	124	14	12	44	54	学士(住居学)
	心理学学科	4	124	14	12	6	92	学士(心理学)
音楽学部	音楽学科							
	ピアノ・声楽・管弦 打楽器・音楽リコーダー &アーティストコース	4	124	14	12	38	60	学士(芸術学)
	音楽療法コース	4	124	14	12	44	54	
薬学部	薬学科	6	186	19	0	161	6	学士(薬学)
文学部	日本文学科	4	124	14	12	28	70	学士(文学)
	英語英米文化学科	4	124	14	12	44	54	学士(文学)
	文化財学科	4	124	14	10	18	82	学士(文学)
理工学部	機械創造工学科	4	124	14	12	55	43	学士(工学)
	電子情報工学科	4	124	14	12	36	62	学士(工学)
	ナノ物質工学科	4	124	14	12	42	56	学士(理工学)
総合政策学部	総合政策学科	4	124	14	12	14	84	学士(総合政策学)
	経営学科	4	124	14	12	16	82	学士(経営学)
香川薬学部	薬学科	6	186	13	6	158	9	学士(薬学)
保健福祉学部	人間福祉学科	4	124	14	12	48	50	学士(社会福祉学)
	看護学科	4	127	14	0	108	5	学士(看護学)
	理学療法学科	4	124	14	0	109	1	学士(理学療法学)
	診療放射線学科	4	124	14	2	107	1	学士(放射線学)
	臨床工学科	4	124	12	8	91	13	学士(臨床工学)
	口腔保健学科	4	124	14	6	91	13	学士(口腔保健学)

②短期大学部

学科	専攻	修業 年限 (年)	必要修得 単位数 (単位以上)	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な学位 及び専攻分野の名称
				一般総合科目 (単位以上)		専門教科科目 (単位以上)		
				必修	選択	必修	選択	
生活科学科	生活科学専攻	2	62	8	0	2	52	短期大学士(生活科学)
	食物専攻	2	62	8	0	36	18	短期大学士(食物)
保育科		2	62	8	0	23	31	短期大学士(保育)
言語コミュニケーション学科		2	62	8	0	4	50	短期大学士(言語文化)
音楽科		2	62	8	0	2	52	短期大学士(音楽)
商科		2	62	8	0	8	46	短期大学士(商科)

(5)校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境

1) 徳島キャンパス

【学部等名】

大学院	専攻科	大学	短期大学部
薬学研究科 人間生活学研究科 看護学研究科 総合政策学研究科	音楽専攻科 人間生活学専攻科 助産学専攻科	人間生活学部 音楽学部 薬学部 総合政策学部 保健福祉学部	生活科学科 保育科 言語コミュニケーション学科 音楽科 商科

【所在地】

徳島県徳島市山城町西浜傍示180番地

【主な交通手段】

J R	徳島駅下車
スクールバス	スクールバス発着場から本学まで約15分
路線バス	JR徳島駅前から徳島市バス山城町行き「徳島文理大学前」下車徒歩1分
タクシー	JR徳島駅前から約10分

【主要施設】

施設名・号館	主要用途
1号館	管理棟・人間生活学部研究棟（調理室、実習室、実験室、共同機器センター、チャレンジラボ）、健康科学研究所
2号館	アカンサスホール（大講義堂）、保健センター、地域連携センター
3号館	保健福祉学部棟（看護学科実習室）
5号館	音楽学部棟、学園創立110周年記念むらさきホール（音楽ホール）、児童学科ピアレッスン室
6号館	総合体育館（卓球場、柔・剣道場、トレーニングルーム、アリーナ）
7号館	研修センター、学生食堂、レストラン、売店、部室
8号館	トレーニングセンター
9号館	人間生活学部棟
10号館	附属幼稚園、教育実習室
13号館	薬学部実験棟
14号館	文芸棟、給食経営管理実習室、保育科ピアレッスン室
21号館	薬学部研究棟（NMR測定室、国際会議室、生薬研究所、ハイテクリサーチセンター、情報処理センター）
23号館	総合政策学部棟（プレゼンテーション室）
24号館	薬学部研究棟（機器分析センター、RI実験センター、電子顕微鏡室、共焦点レーザー顕微鏡室、動物実験センター）
25号館	メディアセンター（情報センター、学生部、就職支援部、全学共通教育センター、メディアラボ、語学センター、コンビニエンスストア）
図書館	村崎凡人記念室、ラーニングcommons、ブラウジングコーナー、AVホール、グループ学習室、書庫、茶室
学生寮	寄宿舎
エネルギーセンター	省エネルギー発電装置
弓道場	弓道練習場
運動場	野球場、サッカー場
テニスコート	オムニコート
実習支援センター	臨地実習施設
クラブハウス	テニスコート、グラウンド利用学生専用

【課外活動の状況】

体育系クラブ (18部)	硬式テニス部、ソフトテニス部、バレーボール部（男・女）、バスケットボール部（男・女）、バドミントン部、卓球部、ダンス部、剣道部、弓道部、日本拳法部、空手道部、準硬式野球部、サッカー部（男・女）、フットサル部、陸上競技部
文化系クラブ (14部)	人形浄瑠璃部、HOT STAFF部、軽音楽部、コミックアート部、茶道部、写真部、将棋部、書道部、手話部'Friends'、箏曲部、和太鼓部'億'、BBS部、とくしま思春期ピアサークル部、吹奏楽部
郷土芸能振興 (2団体)	エイサー団体'ニライカナイ'、徳島文理大学連（阿波踊り）
同好会・サークル (10部)	籠球同好会、心理サークル'KOKORO'、BUNRIハンドベルクワイア、バレーボールサークル、薬学部テニスサークル、サッカー・フットサルサークル、地域防災研究会、ボードゲーム同好会、LIGHTサークル、赤十字ボランティアサークル

2) 高松駅キャンパス

【学部等名】

大学院	大学
香川薬学研究科 工学研究科 文学研究科	香川薬学部 総合政策学部 保健福祉学部 理工学部 文学部

【所在地】

香川県高松市浜ノ町8-53

【主な交通手段】

J R	JR高松駅下車徒歩2分
ことடன்	ことடன்高松築港駅下車徒歩5分
路線バス	高松駅バスターミナル下車徒歩3分

【主要施設】

施設名・号館	主要用途
18階	展望デッキ・茶室
17階	香川薬学部
16階	香川薬学部
15階	香川薬学部
14階	総合政策学部
13階	理工学部
12階	理工学部
11階	DXファクトリー・屋上運動場
10階	香川薬学部・アリーナ
9階	香川薬学部・理工学部・アリーナ
8階	香川薬学部・理工学部・アリーナ・トレーニング室
7階	保健福祉学部・講義室・理工学部・文学部・図書館
6階	保健福祉学部・図書館
5階	保健福祉学部・講義室
4階	保健福祉学部・大講義室・ムラサキキネンホール
3階	大講義室・ムラサキキネンホール
2階	管理部門・大講義室・ムラサキキネンホール
1階	エントランス・食堂・コンビニエンスストア、実習工場、駐輪・駐車場
B1F	駐車場

【課外活動の状況】

体育系クラブ	弓道部、男女硬式テニス部、トレーニング部、男女ソフトテニス部、バスケットボール部、バドミントン部、総合競技部（陸上・水泳）、卓球部、バレーボール部、ダンス部、軟式野球部、フットサル部
文化系クラブ	軽音フリーミュージック部、茶道部、書道部、文芸部、パソコン・TRPG部、漫画研究部、レインボーの会（ボランティア）、ロボットクラブ、アニメ研究部
同好会・サークル	麻雀同好会
愛好会	家政愛好会

3) 志度キャンパス

【学部等名】

大学院	大学
文学研究科 工学研究科	文学部 理工学部 香川薬学部 保健福祉学部

【所在地】

香川県さぬき市志度1314-1

【主な交通手段】

J R	志度駅下車徒歩25分
タクシー	JR志度駅前から約5分

【主要施設】

施設名・号館	主要用途
3号館	管理棟
4号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
5号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
6号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
7号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
8号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
9号館	体育館
10号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中 一部理工学部実験室として利用中
11号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
12号館	村崎サイメモリアルホール（音楽ホール）
13号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
14号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
15号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
16号館	図書館
17号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
18号館	マルコメ㈱との共同研究にて利用中
20号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
21号館	教具器具・備品等の倉庫・物置として利用中
運動場	野球場、サッカー場
テニスコート	オムニコート

(6) 学生納付金に関すること

(単位：円)

学部・研究科等名		入学金	授業料	施設設備 拡充費	実習 図書費	その他	合計	
大学院	薬学 研究科	博士 課程	※2 200,000	600,000	※1 ※2 200,000	-	※3 ※4 37,300	1,037,300
	人間生活学研究科	博士前期課程	200,000	450,000	※1 200,000	-	※3 37,300	887,300
		博士後期課程	※2 200,000	450,000	※2 200,000	-	※4 37,300	887,300
	看護学研究科	博士前期課程	200,000	600,000	※1 200,000	-	※3 37,300	1,037,300
		博士後期課程	※2 200,000	600,000	※2 200,000	-	※4 37,300	1,037,300
	工学 研究科	博士前期課程	200,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	937,300
博士後期課程		※2 200,000	500,000	※2 200,000	-	※4 37,300	937,300	
文学 研究科	博士前期課程	200,000	300,000	※1 200,000	-	※3 37,300	737,300	
	博士後期課程	※2 200,000	300,000	※2 200,000	-	※4 37,300	737,300	
総合政策学研究科	修士 課程	200,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	937,300	
専攻科	音楽専攻科		250,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	987,300
	人間生活学専攻科		200,000	400,000	※1 200,000	-	※3 37,300	837,300
	助産学専攻科		200,000	800,000	※1 300,000	200,000	※3 37,300	1,537,300
大学	薬学 学部	薬学 学科	400,000	1,120,000	500,000	250,000	37,300	2,307,300
	人間生活学部	食物栄養学科	280,000	670,000	200,000	100,000	89,300	1,339,300
		児童学科	280,000	670,000	200,000	100,000	89,300	1,339,300
		心理学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
		メディアデザイン学科	280,000	670,000	200,000	120,000	89,300	1,359,300
		建築デザイン学科	280,000	670,000	200,000	120,000	89,300	1,359,300
		人間生活学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
	保健福祉学部	口腔保健学科	280,000	850,000	300,000	200,000	37,300	1,667,300
		理学療法学科	280,000	850,000	300,000	200,000	37,300	1,667,300
		看護学科	280,000	920,000	300,000	200,000	37,300	1,737,300
		人間福祉学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
	総合政策学部	総合政策学科	280,000	700,000	200,000	120,000	89,300	1,389,300
		経営学科	280,000	700,000	200,000	120,000	89,300	1,389,300
	音楽学部	音楽学科	300,000	1,110,000	500,000	170,000	37,300	2,117,300
	香川薬学部	薬学 学科	400,000	1,120,000	500,000	250,000	37,300	2,307,300
	保健福祉学部	診療放射線学科	280,000	920,000	300,000	200,000	37,300	1,737,300
		臨床工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
	理工学部	ナノ物質工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
		機械創造工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
		電子情報工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
	文学 部	文化財学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
		日本文学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
		英語英米文化学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
短大	商 科		200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	言語コミュニケーション学科		200,000	630,000	200,000	100,000	37,300	1,167,300
	生活科学科	(生活科学専攻)	200,000	630,000	200,000	100,000	37,300	1,167,300
	生活科学科	(食物専攻)	200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	保育科		200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	音楽科		250,000	860,000	300,000	130,000	37,300	1,577,300

※1本学大学卒業生は免除

※2本学大学院博士前期課程・修士課程修了者は免除

※3本学大学卒業生は研修部入会金(1,000円)を免除

※4本学大学院博士前期課程・修士課程修了者研修部入会金(1,000円)を免除

○入学検定料は15,000～30,000円

○人間生活学部食物栄養学科・児童学科・メディアデザイン学科・建築デザイン学科及び総合政策学部総合政策学科・経営学科は学科特別費として、前・後期 各26,000円を納付する。

○短期大学部商科・生活科学科食物専攻及び保育科は学科特別費として、前・後期 各26,000円を納付する。

○学費等の金額は卒業年度まで据置き

【入学手続き時に納める金額】

「入学金」と「学費（半期）」及び「その他の納付金」の合計となる。なお、納付された「入学金」は理由を問わず返還しない。

【入学手続き等における分割納入について】

公募制推薦入試Ⅰ・Ⅱ期，指定校制推薦入試Ⅰ期・Ⅱ期及び大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期については入学金と学費等の分割納入ができる。その他の入試区分では、一括納入を原則とする。

【学費等の転用について】

入学手続き完了後に、その後の入学試験で合格し、改めて入学手続きをする場合は、すでに納入されている入学金・学費のうち、入学金を除く入学手続き時納付金を、振り替えることができる。ただし、差額がある場合は、追加徴収する。振替を希望する場合は、振替手続き書類にて行う。

【入学手続き完了後の入学辞退について】

本学への入学手続き（A 入学金納入、B 入学手続き書類提出、C 学費等納入）を完了した後に、入学を辞退する場合は、2026年3月31日（火）までに、本学が定める手続きにより申し出た場合に限り、入学金を除く納付金を返還する。学費等を納入しない場合、入学の意思がないものと判断するため、入学辞退手続きの必要はない。

(7)学生支援と奨学金に関すること

1)学生支援組織

項目	組織名	機能
就職支援	就職支援部 就職支援委員会 インターンシップ推進委員会 教員養成対策室 全学共通教育センター	<p>1.組織 本学では、創立以来「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を育成することを目標に、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしている。学生の就職支援については、学長を委員長に、各学部代表委員からなる就職支援委員会とインターンシップ推進委員会を連携軸に、各学部学科担任・チューターをはじめ、就職支援部、全学共通教育センター、教員養成対策室が連携し、全学を挙げたの支援を行っている。</p> <p>2.取組みの概要 本学では特色ある学科で取得した資格や知識を生かした就職に向けた支援を充実させるため、一般企業・公務員・教員に分けた支援を行い、全体をととした支援は就職支援部で実施している。 また、保護者に対しては、夏季休業中を中心に全国15カ所で開催の教育懇談会で担任及び就職支援部の就職相談を実施するとともに徳島・高松駅両キャンパスで保護者向け就職セミナーを実施している。 さらに採用活動のオンライン化にも適切に対応し、急激に変化する就職活動に即した柔軟な取組みを推進している。</p> <p>(1)一般企業対策支援 各種支援策を就職支援部が中心となって実施している。一人一人の学生のニーズや各学科の特質に対応するため、学科担当を決め入学時から継続したきめ細やかなサポートを行っている。この他、学生の就職先を中心に新たな企業も含めた事業所訪問・求人開拓等の支援を行っている。 また、卒業後も随時の就職相談に対応したり、卒業後1年間の学内就職支援システムの学外からの利用の便宜も図っている。</p> <p>○キャリア推進プログラム ・全学部の1年生全員を対象にキャリアガイダンスを実施。 ・大学2年生を対象にキャリア支援のためのガイダンスを実施 ・インターンシップ推進委員会による各学科におけるインターンシップ推進。</p> <p>○就職支援プログラム ・就職ガイダンス、独自作成の「就職活動の手引き」による学科別就職説明会を、卒業前年度の学生に対し年3回実施。採用活動の早期化に対応して2年生にも拡大して実施。 ・就職セミナーの実施(就活サイト登録と活用、インターンシップ対策、企業研究と就職情報の収集、就職活動のマナー、自己分析、自己PR文の作成、SPI・筆記試験対策、論作文対策、応募書類の書き方、面接試験対策、模擬面接演習、集団討論対策、企業説明会への参加、就活直前対策、後期スタートアップ講座) ・就職試験の内容に対応した就職試験対策集中講座を年2回実施 ・就職常識・能力の模擬試験の実施、適性検査の実施 ・就職状況調査を年3回実施 ・就活ツアー(大阪)の実施と事前説明会の実施 ・学生と企業等との交流会の実施と事前説明会の実施 ・個別の企業説明会の実施 ・学内就職支援システム及び求人受付NAVIIによる就職情報のインターネット提供 ・いつでも対応する個別面談による常時相談の実施と面接・マナー・書類添削指導、カウンセリング</p> <p>(2)公務員対策支援 全学共通教育センターが筆記試験対策として、e-ラーニング教材ベーシックウイングの中で「公務員試験対策プログラムオンデマンド講座」を開講しており、学内・学外を問わずログインして、講座を受けられるようになっている。また、就職支援部で公務員模擬試験の実施や各種公務員説明会の開催、公務員就職体験発表会等を行っている。総合政策学部では、大手予備校LECとタイアップした公務員受験講座(有料)を開講しており、学部・学科を問わず公務員志望の学生は受講することができる。</p> <p>(3)教員・保育士対策支援 全学共通教育センターでは、教員・保育士採用試験対策として、次のような取組を行っている。 ○教員・幼保養成対策講座(通年)、レベルアップ講座(2月) ・本学教職員による筆記、論作文、実技、面接等の採用試験対策に特化した講座 ○教員・幼保教職ガイダンス(年4回) ・教員、保育士の魅力ややりがい、試験対策等についてのガイダンス ○集中面接講座(6月) ・本学教職員30名以上が面接官になり、本番に準じた形式で直接指導 ○本学OBの現職教員・保育士によるパネルディスカッション(11月) ○大手予備校の外部講師を招いての採用試験対策セミナー ○教員・幼保合格者体験発表会・交流会(12月) ・現役合格を果たした学生の体験発表と、校種や自治体別に分かれての交流会 ○教員・保育士採用試験の模擬試験や大手予備校による有料講座 ○教育委員会等の自治体の担当者による教員採用試験説明会 ○採用試験対策全般における個別指導・相談、情報提供(常時随時)</p>

項目	組織名	機能
アルバイト	学 生 支 援 課	アルバイトは学生にふさわしい職種を選び、学業に支障のないようにしている。 1.手続き アルバイト求人票でアルバイトの申込みがあれば、内容を検討して受け付け・掲示をし、学生に申込みをさせている。(派遣会社からの受付はしていない) 2.留意点 下記のようなアルバイトは禁止している。 ・身体的危険を伴うもの。 ・風俗営業に類するもの。 ・遊興の場所(パチンコ、ゲームセンター等)に類するもの。 ・学業に差し支える時間帯に及ぶもの。 ・その他学生として適当でないと思われるもの。
修学支援		1.修学上の相談(履修相談等) 2.各種証明書発行
生活支援		1.生活相談 2.事故対応 3.学生駐車場 4.下宿・アパートの相談・紹介
経済支援		1.奨学金 2.授業料の分納・延納 3.アルバイトの紹介
課外活動支援		1.クラブ・サークル活動 2.山城祭 3.賞罰
ボランティア活動		1.情報発信(ボランティアパスポート含む) 2.企画
なんでも相談窓口	1.合理的配慮の提供等	
保健・衛生	保 健 セ ン タ ー	1.各種健康診断 2.健康相談 3.救急・応急処置 4.健康の保持増進及び予防啓発 5.健康診断書の発行 6.各種調査・報告 7.学研災・付帯賠償保険への加入および保険金請求
メンタルヘルス		1.精神疾患の相談 2.対人関係の相談 3.心理・性格の相談 4.修学上の相談 5.発達障害の相談 6.ハラスメント相談 7.保護者からの相談 8.学生に関する教職員の相談 9.専門機関への紹介

2)奨学金

種類	条件及び給付金額	申込み
村崎さい奨学金	全学部・学科の本学学生で学費担当者の事故(死亡等)により修学困難となった学生で成績優秀にして学業継続の意志のある学生。当該年次1ヶ年の授業料相当額を給付する。	奨学金給付願、戸籍謄本、家庭の所得証明書及び担任等による奨学金給付推薦書を添付のうえ、学生支援課に提出。
徳島文理大学就学奨学金	本学への入学、編入学生及び在籍学生で徳島文理大学提携教育ローンを利用している学生。申請年度より最短修学期間まで利息相当分(含む保証料)を奨学金として給付する。	保護者と連名して給付申請書を学生支援課長に提出。
創立130周年記念徳島文理大学特待生選考試験 <small>(薬学部・香川薬学部、音楽学部・短期大学部音楽科を除く)</small>	対象の入試受験者で成績優秀な入学者に対して、大学で80万円(4年間)、短期大学部で40万円(2年間)給付する。	一般入試Ⅰ期A日程出願時
薬学部・香川薬学部特待生選考試験	薬学部・香川薬学部で入学試験の成績優秀者に対し、学費を減額する。Ⅰ型(6年間で810万円減免)、Ⅱ型(6年間で300万減免)の2種類がある。	公募制推薦入試Ⅰ期出願時 一般入試Ⅰ期A日程出願時 大学入学共通テスト利用入試出願時
兄弟姉妹在籍入学サポート	新年度入学生(大学・短期大学部)で、本学の大学及び短期大学部に兄弟姉妹が在籍している者に対して、入学後に10万円を給付する。 兄弟姉妹の同時入学者も対象。	入学後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課長に提出。
スポーツ・音楽特待	スポーツ・音楽特待生の入学者に対して、大学で100万円(4年間)、短期大学部で50万円(2年間)を上限として給付する。	スポーツ・音楽特待生の入学者が対象、学園本部入試事務局へ提出
短期大学部専願入試入学サポート	短期大学部の専願(総合型選抜、指定校制推薦、資格利用)入試の入学者に対して、入学後に10万円を給付する。	合格通知受取後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課に提出。
アカンサス会奨学金	本学卒業生で、アカンサス会員(本学同窓会会員)のお子様に対して、入学後に10万円を給付する。	入学後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課に提出。
「ミライのわたし」予約型応援奨学金	本学での学びに強い意欲を持ち、「自立協同」の建学精神に基づき「ミライのわたし」の実現をめざす学生を応援する制度。大学は80万円(4年間)、短期大学部は40万円(2年間)を給付する。	総合型選抜入試Ⅰ期のエントリー時に「ミライのわたし」設計シートを提出し入試面接を受け内定した者で、入学手続きを行った者が対象。
徳島文理大学短期大学部修学支援制度	学習意欲が高く、経済的に修学が困難な学生に対して、国が行う「高等教育の修学支援新制度」と同等の支援を行う。 日本学生支援機構給付奨学金及び授業料等減免制度の支援区分に準じる金額	入学後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課に提出。

3. 3ポリシー

(1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の教育課程において、厳格な成績評価のもと、所定の単位を修得し、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。

- ①「自立協同」の精神を基本に、幅広い教養と専門的知識を身につけ、健全な価値観と倫理観をもった良き市民として、幸せな人生を追求することができること。
- ②修得した知識と技能を活用しながら他者と議論し、問題の解決に取り組み、それを評価して次の思考と行動に活かしていくことができること。
- ③新しい知識や経験に関心をもつとともに、立案した企画について、目的達成を目指し、家庭・地域・社会における協働を通じ、実践していくことができること。

【大学院】

研究科名	専攻名	博士前期課程	博士後期課程
薬学研究科 (4年課程)	薬学専攻		医療の高度化により、医療現場における本博士課程修了者の活躍の場は広く、本研究科独自の研究に基づく専門教育システムの成果である高度な知識と問題解決能力を生かし、医薬品の研究・開発など製薬企業や関連業界で活躍する専門家となることが期待されます。例として、高度な専門的技量を備えた指導的役割を果たせる薬剤師、地域医療の先導的役割を担う薬剤師、治験コーディネーター、薬学分野の大学教員、製薬企業の医薬品研究・開発従事者及び創薬研究者、食品・栄養関連分野の研究者・教育者となることなどが挙げられます。
文学研究科	地域文化専攻	歴史学、地理学、国語学、英語学、日本文学、英文学などの専攻分野を研究し、精深な学識と研究能力を体得している。	左記専攻分野について、研究活動を行うことができる高度な研究能力及びその基礎となる学問的客観性を養い、学術的に地域社会の創造的発展に寄与しうる豊かな学識を体得している。
工学研究科	システム制御工学専攻	1.「機械工学」、「電気・電子工学」、「情報工学」、「制御工学」、「システム工学」の分野において、問題点の抽出から得られた成果の文書化までを総体として取り組むことの必要性・重要性が十分に体得できるようになる。 2.科学や技術が社会に及ぼす影響を理解しつつ、身につけた問題解決能力を通じて社会の発展に貢献できるようになる。	1.「機械工学」、「電気・電子工学」、「情報工学」、「制御工学」、「システム工学」の複合分野における高度な専門知識を持ち、その分野の研究成果を正確に評価理解できるようになる。 2.「機械工学」、「電気・電子工学」、「情報工学」、「制御工学」、「システム工学」の複合分野において、独創的な技術を創出することができるようになる。
	ナノ物質工学専攻	1.ナノ物質工学に対する基礎知識を背景に、ナノ物質工学の最先端の成果を理解できるようになる。 2.ナノ物質工学の諸課題を積極的に見出し、その内容を論理的に検討・説明できるようになる。 3.ナノ物質工学の諸課題を抽出分析し、自立協同の精神のもとに身につけた問題解決能力により、高度な技術者として社会に貢献できるようになる。	1.ナノ物質工学の高度な専門知識を持ち、最先端の研究成果を正確に評価理解できるようになる。 2.ナノ物質工学の諸課題を積極的に見出し、的確に対処し、解決法を粘り強く探求できるようになる。 3.ナノ物質工学の最先端の課題を抽出分析し、新しい考えに基づいて、技術を創出できるようになる。
人間生活学研究科	人間生活学専攻		1.人間生活学（臨床人間学・食生活学・生活環境学）の専門分野において博士の学位を取得できる研究者であることを、学識と能力と研究成果の発表により証明することができる。 2.自立して研究活動を行い、創造性豊かな研究を成就し、専門分野において社会に貢献することができる。
	・食物学専攻 ・生活環境情報学専攻 ・児童学専攻 ・心理学専攻 (臨床心理学コース)	1.人間生活学（食物学・生活環境情報学・児童学・心理学）に関する学術的理論と応用を深く究め、学位を取得するに足る研究能力及び実践力をそなえている。 2.人間生活学の高度な専門知識と問題解決能力を生かし、文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することができる。	

看護学研究科	看護学専攻	看護学研究科に所定の期間在学し、本研究科の開設科目を履修して修了要件単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けて高度な看護実践者、看護教育者、看護管理者として従事するために必要な研究能力およびその基盤となる豊かな学識を身につけ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位、修士（看護学）を授与する。	専攻分野（各自の研究課題）について基準となる単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けて研究者として自律して研究活動を行い、同時に高度な看護研究者・教育者・管理者、高度看護専門職の指導者として従事するために必要な研究能力およびその基礎となる哲学的基盤となる豊かな学識をそなえ、博士論文の審査および最終試験に合格した者に、博士（看護学）を授与する。
総合政策学研究科	総合政策学専攻	総合政策学研究科は、以下のような「知識」「技能」「姿勢」が身につけていると判断したときに、「修士（総合政策学）」の学位を授与する。 【知識】 複雑化・多様化する地域社会の問題を、学際的かつ総合的な視点に立って理解し、問題の原因が分析できるようになる。 【技能】 その分析結果を用いて、問題の本質を見抜き、問題解決策を具体的な政策案として立案できるようになる。その政策案を実施する組織において、政策案を記述し、関係者を説得し、意思決定者に助言し、最適な方法を実施又は実施できる。 【姿勢】 常に、地域や組織に課せられた課題を認識し、解決策に向けて行動できる。	

【専攻科】

音楽専攻科		音楽専攻科の教育課程において、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に修了証書を授与します。 〔器楽専攻器楽コース・声楽専攻〕 1. 学部教育の基礎に立ち、より高度で専門的な音楽の歴史、理論、様式、体系を総合的に理解し、身につけている。【知識・理解】 2. 上記の専門的知識と理解により、さらに高度で実践的な演奏能力、創作能力を身につけている。【思考・判断】【技能・表現】 3. 上記2を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、リーダーシップや協調性、社会性を身につけ、社会で求められる様々なニーズに応えることができる。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 4. 深い教養を身につけ、演奏、音楽教育、創作活動など地域社会、国際社会における様々な音楽活動に能動的に参画することができる能力を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 〔器楽専攻音楽療法コース〕 1. 人々の健康と幸せのために、理論、実践、研究を結び合わせた“Best Practice”が実践できる音楽療法士である。【知識・理解】【思考・判断】【関心・意欲・態度】 2. 地域（Local）のヘルスケアニーズに気づき、世界基準（Global）の音楽療法の知識を生かして、問題の解決にあたる“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】 3. 音楽療法の独自性とその効果を生かしつつ、高度なレベルで、学際チームの一員として他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】 4. 自分自身の教育の続行のために、また社会での音楽療法の普及のため日々の実践や過去の研究からテーマを選定し、音楽療法研究をおこなう能力を身につけている。【知識・理解】【思考・判断】【関心・意欲・態度】	
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	1. 各専門分野において、自らの研究課題に対する研究方法や、実践方法等を身につけているとともに、専修免許状の取得に相応しい専門的知識や、教育的実践力が培われていること。 2. 食・衣・住・養護・教育の分野にわたる専門的知見のもとに、より高い人間生活向上のための探究心、応用力、創造力があること。 3. 望ましい教員、社会人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、自己表現できること。 4. 建学の精神を会得し、豊かな人間性、倫理観、使命感をもって、主体的に社会貢献できること。	
	児童学専攻	児童学専攻では、以下の4つの観点に示された事項を修得したと判断されると、小学校教諭と幼稚園教諭の専修免許状を授与します。 【知識・理解】 児童学・保育学分野の知識・理解に基づき、教育・保育活動が科学的に実践できる。 【思考・判断】 科学的・合理的な思考ができ、子どもと円満なコミュニケーションを構築できる。 【技能・表現】 多様な教育・保育技術を身につけ、身体的並びに言語的な表現が豊かにできる。 【関心・意欲・態度】 児童に関わる諸問題（貧困、虐待等）を深く理解し、チーム力で解決しようとする。	
助産学専攻科		1. 妊娠・出産・産褥各期において正常経過の診断及びケア、正常からの逸脱の診断及びケアができる。 2. リプロダクティブ・ヘルスの視点から見たライフサイクル各期の女性の健康を支援することができる。 3. 思いやりを大切にし、助産師としての自覚と倫理感性を磨き、対象者ひとりひとりを尊重し、自らの役割と責任を果たすことができる。 4. 専門職業人として継続して学び続けることができる。	

【大学】

■人間生活学部

<p>多様な6学科から構成されており、人々の生活に欠かせない食・衣・住に加えて、教育、心理、さらには高度化する情報化社会などについて総合的かつ専門的に学ぶとともに、現代社会が抱える様々な課題に柔軟に対応し、21世紀の豊かな生活を切り開いていく能力・資格を身につけることを目指します。</p>	
人間生活学科	<p>【知識・技能】 【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衣食住や保健に関する最新技術・知識、柔軟な思考力を持った専門性を身につけ、健康で安全・快適な人間生活の実現に向けて寄与することができる。 2. 免許や多様な資格の取得を通して、幅広い知識と豊かな教養を身につけ、自他の幸せな人生を創造することができる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 地域の課題に関心を持ち、その解決に向けて情報発信力や他者と協働する力を働かせ、地域社会の発展に貢献しようとする事ができる。
食物栄養学科	<p>【技能・知識】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の専門家として、生体内で起こっていることを説明することができる。 <p>【技能・知識】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 食の専門家として、食品の3機能や加工法、安全性について説明することができる。 <p>【思考・判断】 【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 管理栄養士として、地域集団の健康増進や疾病予防に貢献したいという意志を持ち、かつ実践できる。 <p>【技能・知識】 【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 管理栄養士として、疾病予防および健康増進のための適切な栄養アセスメントと栄養マネジメントを実践するために必要な基礎・専門分野の知識を修得している。 <p>【関心・意欲・態度】 【技能・知識】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 管理栄養士として他職種と連携し、保健・医療の分野に携わることができる。 <p>【関心・意欲・態度】 【技能・知識】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 管理栄養士として他職種と連携し、給食・福祉・教育などの分野に携わることができる。 <p>【思考・判断】 【技能・知識】 【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 栄養の専門家として健康を増進するために、個人の行動の変容を起こすことができる。 <p>【思考・判断】 【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 専門職業人として常に科学の進歩に対応できるよう、生涯学び続ける意志を持っている。
児童学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長・発達に関する幅広い教養を修得している。 <p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 教育・保育制度を知り、小学校・幼稚園・保育所等の意義と役割を理解している。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 物事を科学的・論理的に思考し、判断して、真理を主体的に追究することができる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 柔軟な思考力と判断力を持ち、他者と協働しながら常に学び続ける向上心がある。 <p>【興味・関心・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 常に新しい知識や技能の修得に関心を持ち、変化する社会に対応できる自己教育力がある。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 教育・保育の内容や諸課題に対して、創意工夫し、問題を解決していく技能を身につけている。地域の保護者に対する支援活動のあり方や、地域の専門機関との連携方法を把握している。
メディアデザイン学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報通信技術を活用し、現代社会のさまざまな問題解決のために企画立案・実践を行うことができる。 <p>【関心・意欲】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 現代社会が抱える問題について、情報通信技術を用いて分析する能力を生かし、積極的に情報発信することで社会に貢献できる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し、的確な分析力を基に思考・判断を行うことができる。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 専門的職業人としての責任感、指導力及びコミュニケーション能力を身につけ、適切な行動ができる。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 学科で定めた基本4領域（情報領域・データサイエンス領域・コンテンツ領域・共通領域）に関する技能を修得しており、問題解決の手段を「デザイン」することができる。
建築デザイン学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築計画を進めるための基本的な知識や、歴史・文化などが修得でき、また建築を構成する素材や構造形式、さらには力学的な知識を応用展開することができる。 2. 建築設備や建築を取り巻く環境について、経済性、機能性などの幅広く知識を得ることができる。 <p>【技術・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 専門的な知識において、製図など具体的な形にするための技術や技能、应用能力を身につけ、美しく機能的に創造する能力を身につけることができる。 4. 建築構造・設備を表現し、構造計算、材料試験、また測量などの技術・技能などを修得し、専門知識とその実应用能力および科目を通じて物事の問題解決の手法を身につけることができる。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 工事現場の見学や実務担当者との交流により、実社会をより実践的な教育ができることや、他学科・自治体などとの融合の教育が実践でき、責任感や協調性を身につけて、是非の判断ができるようになる。 <p>【表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 研究発表・プレゼンテーションなどを行うことにより、より自分を表現でき、コミュニケーション能力を身につけることができる。またリーダーシップを発揮でき協働できる人間性が備えられる。 7. 建築高度情報化に対応するようになり、他者へ提案・説明ができ、社会に奉仕ができるようになる。また、かたちや色彩の効果的なデザインについての能力、さらにはデジタル化とその活用能力が身につけられる。

心理学科	<p>【知識・理解】 1. 心理学の専門家として、必要な基本的知識を修得し、社会の多様な心の問題に対して、心理学の専門的知識に基づいて、多面的で柔軟な理解ができる。</p> <p>【思考・判断】 2. 心理学の専門家として、心の問題・課題について実証的なデータに基づいて科学的に思考するとともに、他者への共感的理解に基づいた判断をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 3. 心理学の専門家として、社会から寄せられる多様なニーズを敏感に読み解き、積極的に専門的知識を活かそうと努力し、科学的で冷静な判断と他者への思いやり・共感的な理解とのバランスをとることができる。</p> <p>【技能・表現】 4. 心理学の専門家として、実証的データを用いた研究、心理テスト等を用いたアセスメント、エビデンスに基づき各種心理療法等を用いた介入を実施することができ、かつそれらを分かりやすく他者に対して説明することができる。</p>
------	---

■音楽学部

<p>本学部の教育課程において、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。</p> <p>[ピアノコース・声楽コース・管弦打楽器コース・音楽クリエイター&アーティストコース]</p> <p>1. 音楽の歴史、理論、様式、体系を理解し、身につけている。【知識・理解】</p> <p>2. 上記1に則した演奏能力、創作能力を身につけ、自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】【技能・表現】</p> <p>3. 上記2を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、協調性、社会性を身につけている。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】</p> <p>4. 専門分野のみならず幅広い教養を身につけ、演奏家、教育者など様々な音楽分野で活躍する能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】</p> <p>[音楽療法コース]</p> <p>1. 幅広い教養を身につけ、芸術と科学の融合である音楽療法について理解し、人々の健康と幸せのために働くことができる。 【知識・理解】【関心・意欲・態度】</p> <p>2. 世界基準 (Global) の音楽療法を学び、地域 (Local) のヘルスケアニーズに応えられる“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】【技能・表現】</p> <p>3. 音楽療法の独自性とその効果を生かしつつ、他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】</p> <p>4. 自らの関心や提議された問題について探索し、知識を得ること、またセラピーの実践を積み重ねることにより、学問において、また人間的に、生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】【関心・意欲・態度】</p>	
--	--

■薬学部

<p>「自立協同」の精神のもと、科学的根拠に基づいた創造的思考により人類社会の抱える様々な薬学的課題の解決に取り組み、医療・福祉・公衆衛生を實踐できる能力を有する人材を育成する。定められた教育課程を修めて所定の単位を修得し、下記の基本的な資質・能力を身につけた者に学士（薬学）を授与する。</p> <p>1. プロフェッショナリズム</p> <p>1) 薬剤師として必要な豊かな人間性と倫理観、医療・福祉・公衆衛生に貢献する精神を備えている。</p> <p>2) 薬剤師に関わる法規範を理解し、職務を果たすための責任感を備えている。</p> <p>2. 専門的知識</p> <p>1) 物理・化学・生物系に関する基礎薬学の知識と技術を修得している。</p> <p>2) 基礎薬学の知識を基盤とした薬理・病態、医薬品情報、薬物動態・製剤に関する医療薬学の知識と技術を修得している。</p> <p>3) 基礎薬学と医療薬学の知識を基盤とした衛生・公衆衛生に関する衛生薬学の知識と技術を修得している。</p> <p>4) 基礎薬学、医療薬学、衛生薬学の知識を基盤とした医薬品研究開発、先端医療薬学、漢方・セルフケアのいずれかに関する専門知識と技術を修得している。</p> <p>3. 情報・科学技術活用能力</p> <p>1) 保健医療に関する統計情報・データから医療における課題を的確に見出し、その対応策を立案することができる。</p> <p>2) 医療や科学に関するデータベースから医薬品情報や薬学的課題に関する文献情報を収集・解析し、その結果を適切に活用することができる。</p> <p>4. コミュニケーション・多職種連携能力</p> <p>1) 患者や医療人の言動をその文脈を踏まえて理解ことができ、共感的なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>2) 地域医療やチーム医療に関連する多様な職種と信頼関係を構築し、連携・協同して医療を實踐する意欲を備えている。</p> <p>5. 科学的探究力</p> <p>1) 最先端の薬学に関する学術論文を読解し、その内容について評価することができる。</p> <p>2) 薬学的課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた創造的思考により課題に取り組む探究心（研究マインド）を備えている。</p> <p>3) 自ら行った研究成果を解析・理解するとともに、学術的な報告・発表とこれに基づいた討論を行うことができる。</p> <p>4) 最先端の薬学・医療を生涯にわたって学修することの重要性について説明できる。</p> <p>6. 社会貢献力</p> <p>1) 患者や生活者の身体的・社会的背景を総合的に把握して、医療・福祉・公衆衛生を實踐する意欲を備えている。</p> <p>2) 社会における医療のあり方について、地域社会から国際社会にわたる幅広い視野に立って理解することができる。</p> <p>3) 社会における環境・衛生上の問題について、科学的知見に基づいた解決策を立案することができる。</p> <p>7. 薬物治療実践能力</p> <p>1) 医療薬学を基盤とした薬物治療を實踐するために必要な知識を修得している。</p> <p>2) 薬物治療における具体的な症例や事例の問題点に対し、その改善や解決策を立案することができる。</p>	
--	--

■文学部

<p>伝統文化の上に立ち、国際化の時代を生きる人間として必要な考察力を身につけ、あわせて情報化社会に適応した取捨選択能力を獲得することで、文学や文化遺産を創造的に生かす人材となることを目的とします。</p>	
日本文学科	<p>【知識・理解】 1. 古代から近現代に至る文学に関する学術の総合的、学際的な学習及び研究を行い、巨視的な観点を保ちつつ、その時代特有の思想や態度を理解している。</p> <p>【技能・表現】 2. 日本語学を体系的に学び、優れた日本語の運用ができる。</p> <p>【思考・判断】 3. 伝統文化の上に立った新たな思考ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 4. 日本文学・日本語学に関する専門知識を生かした幅広い分野で活躍できる。</p> <p>5. 高度な専門知識を生かした国語科教育を實踐でき、併せて教育に対する熱意と強固な意志を保持している。</p>

英語英米文化学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語での適切な意思疎通や相互理解を可能とする英語力及び英語圏の文化・歴史・社会事情に関する知見が理解できる。 2. 第二言語習得や英語教育に関する体系的・理論的知識が獲得できる。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. プレゼンテーション力やディベート力を含む高度な英語コミュニケーション能力を獲得している（TOEIC Bレベルを目標とする）。 4. 英語科教員及び幼児・児童への早期英語教育や、社会人の学び直し・スキルアップに対応できる英語教育能力が獲得できる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 英語圏の文化、歴史、社会に関する専門的な知識と深い理解に基づいた豊かな知性によって論理的な思考や判断ができる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 広く世界に関心を持ち、自らの課題に主体的に取り組み、学び続ける態度を養うことができる。
文化財学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化財に関する知識を深めるとともに、史料などに基づく歴史を正しく理解している。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 文化財の調査と分析及び発信、さらにコンピュータ等を用いた高度な情報処理や表現ができる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 文化財の観察と分析を通じて物事を深く洞察する力や、知識を得る方法を理解している。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 様々な時代・地域の文化を通じて、多様な価値観や伝統を理解し広い視野を持つことができる。 5. 文化財に直接触れ、探究心や自主性を鍛えることができる。 6. 文化的資産を活かした地域づくりの企画・立案ができる。

■理工学部

<p>本学部の教育課程を経て、学士としての一般的な教養、理学と工学に関する基礎的知識、各学科の専門科目に関する【知識・理解】、【関心・意欲】、【思考・判断】、【態度】、【技術・表現】を修得しておくことを求めています。</p>	
機械創造工学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. めまぐるしく流動する科学・技術社会において、物づくりを目指す専門家として機械工学の基礎知識を修得している。 <p>【関心・意欲】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 機械工学及びコンピュータ支援技術を利用して物づくりに対応できる課題発見能力・問題解決能力を習得して、たゆまぬ努力を惜しまず生涯にわたって学習を継続することができる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 機械技術者として自分の意見を明確に表現できるコミュニケーション能力を具備し、人と協調して物づくりを遂行できる。 4. 平和を希求し、地域社会に愛着を持ち、国際化に対応できるなど、バランス感覚を備えて行動できる。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 機械技術者としての倫理観をもって、責任を持った行動ができ、指導力を発揮できる。 <p>【技術・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 技術の進歩に関心を持ち、向上心を持って自分の役割を認識し、寛容な態度をもって人と交わり、協同して対処できる。
電子情報工学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「電子工学」、「情報工学」の分野における専門的基礎を身につけている。 2. デジタル改革（DX）、データサイエンス・人工知能（AI）の仕組みを理解し、応用することができる。 <p>【関心・意欲】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 問題を解決するために必要となる専門的知識を継続的に学習する能力を持つ。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 科学や技術が及ぼす影響を理解しつつ、社会、文化、環境の視点から、その役割と責任を判断できる。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 職業に関して十分な理解力を持ち、社会に貢献することができる。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 皆と協調し、相互にコミュニケーションを図りながら率先して行動することができる。
ナノ物質工学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「生命科学」、「材料科学」のいずれかの分野において幅広く深い知識を身につけている。 <p>【関心・意欲】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 持続可能な社会を実現するための課題を見つけ出し、それを解決するために必要となる専門的知識を、自ら生涯にわたって継続的に学習し、課題解決に取り組むことができる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 科学や技術が社会、文化、環境に及ぼす影響を理解し、その役割と責任を考え、技術の活用を図ることができる。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 重層的に体系化された専門的知識を駆使して、職業人として社会に貢献することができる。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 「生命科学」、「材料科学」に必要な分析技術を身につけ、自立協同の精神に基づき、相互にコミュニケーションを図りながら率先して技術者として行動することができる。

■総合政策学部

<p>総合政策学部は、「法学・政治学・経済学・経営学・社会学など、社会科学の幅広い学問の教授研究を行い、広い視野を有するゼネラリストを養成する」ことを人材養成の目的とする。総合政策学科は、「地域に立脚した総合政策を立案・推進する手法の総合的、学際的な教授研究を行い、複眼的志向を持つ問題解決型の人材を養成する」ことを人材養成の目的とする。経営学科は、「幅広い分野の社会科学の教養と経営学の専門的知識技能を身につけ、他者と協同し地域社会や様々な企業・団体の課題を多面的・多角的な視点から発見・解決する人材を養成する」ことを人材養成の目的とする。これらの人材養成の目的に基づき、学生に学位を授与するにあたり学生が修得しておくべき能力を明らかにした「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）を定め、その基準を満たす学生に、学位を授与する。</p>

総合政策学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法学・政治学・経済学・経営学・社会学など社会科学の幅広い学問の知識の中核をなす原則的な知識について十分に理解していること。またその知識を応用し、社会問題の解決のための対策案を考案できる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 聴く。 社会問題の解決策を立案するために、専門性の高い人材の意見を聴き、必要な情報を得て整理できる。 3. 表現する。 自分の問題意識、解決策の思考過程、解決案を組織の人々に理解されるよう表現することができる。 <p>【意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 常に、社会における問題、組織の抱える問題を発見できるよう行動する。社会における多様な価値観や個人の差異を理解し、問題発見のきっかけを見逃さないよう行動する。問題解決に向けて努力を惜しまないで行動する。 5. 自らが考案した問題解決策を組織の人々に説明し、同意をえるよう説得する積極的なコミュニケーションをとることができる。
経営学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文科学・社会科学・自然科学及び外国語の基礎的知識を修得し、幅広い視野で理解できる。 2. 経営、経済、会計、法律・行政などの社会科学の基礎的知識を修得し、社会の問題を多面的・多角的な視点から捉え理解できる。 3. 経営、経済、会計に関する専門的知識を修得し、社会の問題を発見・分析・解決できる。 4. 情報に関する基礎的知識・専門的知識を修得し、必要な情報を収集・分析し、結果を表現・活用できる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 経営、経済、会計、情報に関する専門的知識を用い、様々な人々と協同して社会における課題を多面的・多角的な視点から分析・判断し、解決策を思考できる。 <p>【意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 健全な価値観と倫理観を持ち、経営学科での学びから得た知識を活かし、社会のウェルビーイングの向上と持続可能な発展に貢献できる。 7. 常に知識技能を更新しようとする主体的な学修の姿勢を持ち、生涯にわたって学び続けようとする姿勢が修得できている。

■香川薬学部

<p>教育理念に基づいた学修の成果として所定の単位を修得し、以下に示す能力を備えた学生に「学士（薬学）」の学位を授与する。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としてふさわしい豊かな人間性と使命の尊厳に関する深い認識をもち、高い倫理観と使命感を身につけている。 2. 患者や生活者を全人的、総合的に捉えて、一人ひとりに寄り添う姿勢を身につけている。 3. 自己研鑽と共に教え合いながら、自ら到達すべき目標に向かって学ぶ姿勢を身につけている。 4. 薬学的視点から課題を的確に見出し、その解決に向けて科学的探究を計画・実践する能力を身につけている。 5. 薬のスペシャリストとして化学物質と生命や環境に関する専門的知識と技能を習得し、これらを統合的に活用する能力を身につけている。 6. 先端技術に関心を持ち、専門性を活かし、倫理・法律等を遵守して、情報・科学技術を活用・可視化する能力を身につけている。 7. 薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、医薬品の適正使用を推進する能力と、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方提案等の患者本位の薬学的管理を実践する能力を身につけている。 8. 患者や生活者の意思決定を支援するために、患者や生活者、医療者と良好なコミュニケーションをとり、的確かつ円滑に情報を共有・交換する能力を身につけている。 9. 患者や生活者中心の医療・福祉・公衆衛生を実践するために、関係する多職種と互いの役割を理解し、連携・協働する能力を身につけている。 10. 地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、人々の健康の維持・増進、質の高い医療、公衆衛生の向上に貢献する意欲を身につけている。 	

■保健福祉学部

<p>人間福祉学科、看護学科、理学療法学科、診療放射線学科、臨床工学科、口腔保健学科より構成されている。 ・4年の課程を修了して、卒業に必要な単位数を修得する。 ・生命に対し深い畏敬の念を抱き、豊かな人間性と良識を持つ。 ・保健、医療あるいは福祉の専門家として必要な論理的思考、問題解決能力、協調性、コミュニケーション能力を身につけている。</p>	
人間福祉学科	<p>【知識・理解】 人々の生活の質を向上させるための知識を有し、人間と社会について多角的な視野から理解を深めることができる。</p> <p>【技能・表現】 他者の価値観を理解するとともに、自らの考えを他者に示すことができる。</p> <p>【思考・判断】 様々な福祉課題を多角的な視点から分析することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 様々な福祉課題を持つ人びとに共感し、専門的技術を身につけ、課題の解決に取り組むことができる。</p>
看護学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の基盤となる幅広い教養を修得している。 2. 看護の基盤となる人の健康と健康障害に関する知識を修得している。 3. 看護の目的や理念の理解のもと、看護専門分野の学問内容を修得している。 4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割、及び他職種の役割を理解している。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的根拠に基づき計画的に看護を提供する思考を身につけている。 2. あらゆる対象と健康レベルに対し、論理的な思考に基づき判断することができる。 <p>【興味・関心・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を愛し生命に対する畏敬の念を抱き、看護専門職者として倫理観が定着している。 2. 看護専門職者として自己の責務を自覚している。 3. 看護の向上とともに、地域社会の発展に寄与しようとしている。 4. 看護専門職者として、生涯にわたり自律して学び続け、専門的能力を向上させようとする自覚している。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的根拠に基づいた技能を対象特性に応じて提供できる。 2. あらゆる対象と健康レベルに対応できる基本的技能を身につけている。 3. 看護専門職者として必要なコミュニケーション能力を身につけている。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働できる基本的技能を身につけている。

理学療法学科	<p>【知識・理解】 リハビリテーション（理学療法）の専門家として必要な基本的知識を修得している。また、健康と障がいに関する知識、情報収集の手段を修得している。更に、最新の知識に対する関心とその情報収集を心掛けることができる。</p> <p>【汎用的技能】 高度で多様化するリハビリテーション（理学療法）に対応するための基本的な技能（技術）を修得している。また、その技能（技術）を一般の人たち、関連する分野の人たちに、的確に、分かり易く伝達することができる。更に、最新の知識（技術）の修得のために、その技能（技術）を活かすことができる。</p> <p>【態度・指向性】 理学療法（士）に関する基本的な「理念（ideology）」と「哲学（philosophy）」を思考している。また、論理的思考、問題解決能力、協調性及びコミュニケーション（意思疎通）能力を身につけている。更に、健康に関わる専門職（allied health profession）として「根拠に基づく理学療法（evidence based physical therapy, EBPT）」を思考することができる。このような観点から生涯を通して学習に対する意欲を継続的に持ち続けることができる。</p>
診療放射線学科	<p>【知識・理解】 1. 診療放射線技師として、豊かな人間性と良識・学識を持つ医療人になるために必要な基礎学力を養う。 2. 放射線診療を実施するために必要とする人体解剖・生理学・倫理学などの基礎的な基本知識を学ぶ。</p> <p>【関心・意欲・態度】 1. 医療で利用される診療用放射線に関する基礎的な専門知識・法令等を習得する。 2. 優れた診療放射線技術を応用して、患者に安全に放射線診療を実行し、画像診断に貢献できるように学習する。</p> <p>【技能】 診療放射線技師として必要とする工学的な専門知識を習得し、医療用X線画像の生成過程を習得する。</p> <p>【思考】 診療放射線技師として、臨床で必要とする実践能力を習得し、チーム医療としての協働活動に、責任感と使命感を持って参加できるようになる。</p> <p>【判断】 診療放射線を利用して人体を画像化する各モダリティの基本原則を理解して、画像診断の補助ができるように体得する。</p>
臨床工学科	<p>【知識・理解】 1. 医療機器の専門家としての安全かつ質の高い医療を遂行できる臨床工学の基礎知識を修得している。</p> <p>【関心・意欲】 2. 医療の進歩に対応できる課題発見能力・問題解決能力を修得し、生涯にわたって学習を継続する意欲を保ち、医療の発展に寄与できる。</p> <p>【思考・判断】 3. 高い倫理観、豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し、医療人としての的確な判断を行うことができる。 4. 対象となる人体や機器の様々な現象を多様な情報から科学的に評価するとともに総合的な判断を下し、行動することができる。</p> <p>【態度】 5. 専門的職業人としての責任感、指導力、及び、多世代にわたる対人関係能力を身につけ、医療人として適切な行動ができる。 6. 科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化に対応し、患者の立場に立った医療を推進できる。</p> <p>【技能・表現】 7. 自立協同の精神を理解し、チーム医療の一員として主体的に行動することができる。 8. 医療人としての自覚や責任と幅広い知識を背景として臨床工学の役割を正しく理解し、表現することができる。</p>
口腔保健学科	<p>【知識・理解】 1. 人の健康及び口腔の健康に関する基本的な知識をベースとし、口腔保健に関する幅広い専門知識を修得している。 2. 各ライフステージにおける健康基盤形成、疾病・介護予防及び介護などを、口腔保健と関連付けた知識として理解・修得している。 3. 地域の医療・保健・福祉システムにおける多職種連携の意義及び口腔保健の専門職として自らの果たすべき役割を理解している。</p> <p>【技能】 1. 歯科衛生士の3大業務である歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導に関する基本的な技能を確実に修得している。 2. 高度で多様化する歯科診療における診療補助ならびに周術期の患者や要介護高齢者など特別な配慮を必要とする患者に対する専門的口腔ケアが実践できる。</p> <p>【思考・判断】 1. 適切な思考・判断力に裏付けられた問題発見及び問題解決能力を備え、科学的根拠に基づいた計画的な口腔保健業務を担うことができる。 2. 歯科疾患の予防と食（咀嚼・嚥下）の支援を通じて、口腔の健康を全身の健康につなぐ視点を常に有している。</p> <p>【態度・意欲】 1. 人を尊重し、他者を思いやる心を常に持ち、医療専門職の一員としての自覚と倫理観が身についている。 2. 生涯にわたって学ぶ姿勢を持ち続け、口腔保健に関する新発見や情報を的確に選別・収集し、自らの専門業務に反映させることができる。</p>

【短期大学部】

生活科学科	生活科学専攻	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 生活に関する基礎知識を学び幅広い視野を身につけている。 生活に必要な「ものづくり」の知識と、企業や社会で求められる「ものづくり」の知識を身につけている。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 身につけた「ものづくり」の知識・技能を活用し、表現することができる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 独創性のある発想を生み出す努力ができる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 目標を実現するための計画を立て主体的に行動することができる。 他者と協力し合って目標に向かって取り組むことができる。
	食物専攻	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 栄養と健康と食に関わる基礎および専門分野の知識を獲得している。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> ひとひとの健康管理に携わる技術を修得し、栄養士・食のスペシャリストとしての実践力や表現力を身につけている。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 修得した知識や技能をもとに思考・判断を行い、課題発見・解決をすることができる。 チームの一員として個々の役割を理解し、協調性を持ちかつ主体的な行動がとれる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 食や健康について自主的に探究し、向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を示すことができる。
保育科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会人として必要な教養を身につけている。 保育者として求められる専門知識・技能を体系的に修得している。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 保育に関する専門知識・技術をふまえた保育実践力を身につけている。 保育者としてふさわしい豊かな感性と表現力を身につけている。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもや子どもを取り巻く状況の理解に基づいて保育を構想し、実践できる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会の一員としての自覚を持ち、他者と協働して主体的に問題解決に取り組むことができる。 	
言語コミュニケーション学科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 言語に対する分析的な視点が形成されている。 文学・音楽・絵画・動画など、さまざまなジャンルの芸術を通じ、自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めている。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 書かれている文章を論理的に読み解く技術を習得する。 対話型コミュニケーション能力、すなわち、情報を正確に理解する能力に加え、自己の主張によって相手を説得できる表現能力が備わっている。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 意見・評価・批判の交換といったプレゼンテーションの練習によりチームで働く力を身につけている。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 異文化に対する理解・知識をもとに、自分が暮らす国や地域のものとは異なる文化を許容し、将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立している。 	
音楽科	<p>短期大学部音楽科の教育課程において、所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。</p> <p>●音楽療法コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養を身につけ、芸術と科学の融合である音楽療法について理解し、人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】 【関心・意欲・態度】 世界基準 (Global) の音楽療法を学び、地域 (Local) の高齢者のヘルスケアニーズに応えられる、“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】 【技能・表現】 高齢者を対象とした音楽療法について理解するとともに、他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】 【関心・意欲・態度】 自らの関心や提議された問題について探索し、知識を得ること、またセラピーの実践を積み重ねることにより、学問において、また人間的に、生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】 【関心・意欲・態度】 <p>●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 音楽の歴史、理論、様式、体系を理解し、身につけている。【知識・理解】 上記1)に則した演奏能力、創作能力を身につけ、自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】 【技能・表現】 上記2)を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、協調性、社会性を身につけている。【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【技能・表現】 専門分野のみならず幅広い教養を身につけ、音楽関係、教育関係、一般企業など様々な分野で活躍する能力を身につけている。【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【技能・表現】 	
商科	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会人としての一般常識やビジネス活動の基本となる専門知識を習得している。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> ビジネスの現場で求められる実践的能力を修得し、自分の意見を表現できる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自律的な思考力や状況判断能力を身につけている。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 広い視野で社会の動きに関心を持ち、現状と課題について自主的に探究できる。 主体性を持って自分の役割を果たすとともに、キャリア意識を持ち続けることができる。 	

(2)教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーの提示する学位取得の要件を満たすことを目指す学生に対して、本学は次のような科目から成る教育課程を提供します。

- ①社会に適応しつつもそれを改革できる人物に必要とされる、専門性ととどまらない教養を涵養するために、本学が、多様な専門教育機関を有する総合大学であるがゆえに提供できる「共通教育科目」を配置する。
- ②文化・文明の進歩に貢献する、高度に専門的な知識・技能を開拓・活用できる人物となるために、本学の各学部学科が提供する「専門教育科目」を配置する。

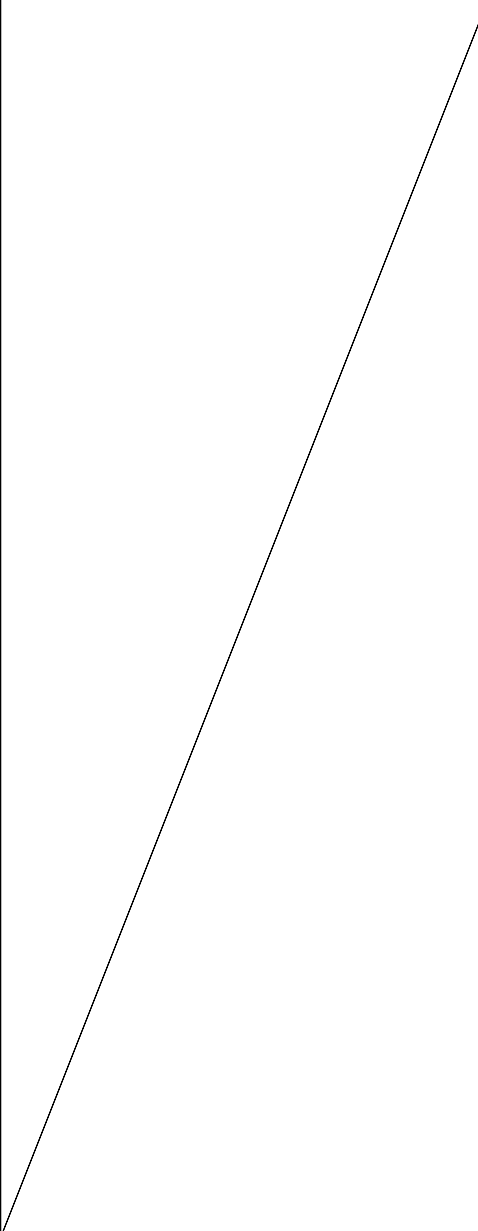
【学修成果の評価】

- ①各授業科目において、到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。
- ②成績の評価は到達目標への到達度を目安とし、成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
- ③ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、学修成果の全体を評価する。

【大学院】

研究科名	専攻名	博士前期課程	博士後期課程
薬学研究科 (4年課程)	薬学専攻		<p>高度な専門知識と問題解決能力を生かし医療分野及び関連業界で活躍する専門家を育成するため、本研究科に①～⑤分野を設置し、ディプロマ・ポリシーに基づき学位を授与すべき人材を養成する教育プログラムを編成した。</p> <p>①医療・薬物療法分野：薬を用い医療の現場で高度な知識を駆使できる人材を養成する。 ②健康・高齢者医療分野：高齢化社会に備え、健康科学をリードする人材を養成する。 ③医薬品開発・高度医療分野：新薬開発の中心的役割を担える人材を養成する。 ④医療解析・医療安全分野：副作用情報を解析し、薬物療法の安全性を高める人材を養成する。 ⑤がん詳しい薬剤師を養成するために、中国・四国がんプロ臨床腫瘍薬剤師コースを設定する。</p> <p>1年もしくは2年次に専門的学識を深めるため分野ごとに必要な専門科目を選択し、履修し、同時に「薬学演習」及び所属研究室において設定された「薬学専門研究」が進行するプログラムを編成している。2年次では、選択専門科目の履修及び「薬学演習」と「薬学専門研究」を継続履修し、研究の途中成果を各種シンポジウム及び各種学会で発表する。3年次も2年次と同様に研究を中心とするカリキュラムを設定し、4年次に研究を完成、成果発表に至るプログラムを編成している。</p> <p>④の医療解析・医療安全分野のために高知大学医学部・附属病院と大学間連携して、創薬（新しい医薬品を開発）教育だけでなく、育薬（新しい薬効や適用法を開発）教育を展開できる体制を構築し、医薬共同研究を推進する。また、徳島赤十字病院とも連携し、薬物治療等の最新の動向を学ぶこともできる。臨床課題の研究には、徳島赤十字病院の隣接地に設立した徳島文理大学実習支援センターが活用できる。さらに香川大学医学部・附属病院、香川県立保健医療大学と、高度な医療人養成のための地域連携型総合医療教育研究コンソーシアムを形成している。</p>
文学研究科	地域文化専攻	文学研究科のディプロマ・ポリシーに基づき、「文化と地域」と「言語・文学と地域」の研究区分を設けている。それぞれの研究領域において歴史・地理分野や言語・文学分野などの研究を行い、特講では精深な学識を身につけ、演習では研究能力を体得する。	左記の二つの研究区分において前期課程で学修した成果を一層掘り下げ、特別研究では学術的に地域社会の創造的発展に寄与しうるテーマの追究に努め、特別研究課題演習及び博士論文の作成により研究活動を行うことができる高度な研究能力と学問的客観性を体得する。

工学研究科	システム制御工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 問題点の抽出から得られた成果の文書化までを総体として行うことを体得するため、必修科目としてシステム制御ゼミナールとシステム制御特別研究を履修する。 選択科目では、個々の専門技術習得に加え、複合分野の技術も修得するために他分野の講義・演習も履修する。 	<ol style="list-style-type: none"> 基礎的研究、応用的研究のいずれにおいても、より高度な研究を推進するためには、その分野に問題の把握、最新の研究動向の把握が重要になる。そのために、システム制御工学基礎特別研究あるいはシステム制御工学応用特別研究のいずれかを必ず履修する。 複合領域におけるより高度の技術も修得するために、基礎領域と応用領域のそれぞれの領域から1科目ずつ履修する。
	ナノ物質工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 必修科目は、生命科学、材料科学の分野で、研究課題の立案、実施、考察までを能動的におこなえることを到達目標とする。そのために、1年次にナノ物質工学ゼミナールⅠ、2年次にナノ物質工学特別研究Ⅰを履修する。 選択科目は、ナノ物質工学の高度な専門知識を修得し、各自の研究に活用できることを到達目標とする。そのために、1年次、2年次に光物質工学、ナノ材料工学、微生物工学、薬科学に関する授業科目を履修する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生命科学、材料科学の分野で、ナノ物質工学の幅広い専門知識を系統的に醸成させることで、社会に貢献できる独創的な研究を遂行し、結論にむけて十分に考察できる能力を到達目標とする。そのために、1年次から3年次まで、指導教員が個別指導形式で実施するナノ物質工学ゼミナールⅡとナノ物質工学特別研究Ⅱを履修する。
人間生活学研究科	人間生活学専攻		<ol style="list-style-type: none"> 自立協同の建学精神のもと、人間と生活に関する先端知識の習得と研究能力の涵養のために、各分野の専門科目を置く。 研究計画に基づいて体系的に適切な研究指導を行い、研究の集大成として博士論文を課す。
	<ul style="list-style-type: none"> 食物学専攻 生活環境情報学専攻 児童学専攻 心理学専攻 (臨床心理学コース) 	<ol style="list-style-type: none"> 人間生活学の発展のために、食物学・生活環境情報学・児童学・心理学について深い学識及び高度な職業能力を培うことを目的とした各分野の専門科目を置く。 自立協同の建学精神に基づき、適切な研究指導の下で本学学位規程に定められた学位論文を課す。 	
看護学研究科	看護学専攻	<p>高度な看護実践や課題解決する研究能力、看護職の人材育成、看護管理能力を培う素地となる能力育成のための土台として共通科目を開講する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 共通科目は、大学院生の興味・関心のある研究テーマによって必修科目と選択科目で構成する。 専門科目は、教育目的・目標を達成するために、「基盤機能看護学」と「実践看護学」の2区分とする。専門領域は、「基盤機能看護学」は「理論看護学」「看護管理学」「看護教育学」を開講し、「実践看護学」は「療養支援看護学(臨床)」「療養支援看護学(地域・在宅)」「母子健康看護学」を開講する。 履修する専門領域を決め、専門領域の理論と研究の幅を広めるために、「特論」で基礎理論を深め、「演習Ⅰ」で論文クリティク力を培えるよう1学年次に履修する。 専門領域の高度な実践や研究に関連する理論と文献を探究し、修士学位論文への取り組みを支援するため、演習Ⅱでは研究分野に関するフィールドワークを必要に応じて行う。 博士前期課程から博士後期課程へ一貫して発展的に学べるように、共通科目を土台に、「基盤機能看護学」と「実践看護学」の2分野で組み立て、博士前期課程を修了後、博士後期課程へ進学できるカリキュラムを構築している。 	<p>専攻分野(各自の研究課題)について、研究者として自律して研究活動が行えるよう、また高度看護研究者、看護教育者、看護管理者、高度看護専門職の研究的・教育的指導ができるために必要な研究能力の育成およびその基礎となる哲学的基盤となる学識を養うことを目的に教育課程を編成して、教育・研究を推進する。</p>

<p>総合政策学 研究科</p>	<p>総合政策学 専攻</p>	<p>本総合政策学研究科の教育課程は、地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材の養成、グローバルな視点も踏まえた適切な解決策を立案し、政策決定者へ提言できる人材の養成、また、そうした人材を養成するための学問的・理論的に深く独立して研究活動が続ける人材の養成を旨とした教育課程を編成するものである。</p> <p>そこでの基本的な考え方は、地域社会の抱える様々な問題を解決するための政策立案能力を持ち政策決定者へ提言できる人材を養成するためには、法律、行政、経済、金融、企業経営等、社会科学の理論的基盤が必要であること、加えて、学問的・理論的に深く独立して研究活動が続ける人材を養成するためには、創造性豊かな研究開発能力が必要であることを重視している。</p> <p>問題解決策を考案するときに必要な理論や知識を、既存の「法学」「経済学」「社会学」「経営学」といった社会科学の各学問分野に求め、そのなかから理論や知識を「総合的に」「組み合わせる」、問題解決策を考案するところに「総合政策学」の特徴があると考えている。「総合政策学」には、問題解決を実際に主体となっておこなう部門として「公共部門」と「民間部門」があり、その区分にしたがって「公共政策」「企業政策」として問題解決策を観念としてとらえる場合がある。従って、教育課程では、「公共政策分野」と「企業政策分野」の2つの大きな専門分野とし、「公共政策分野」に、法学関係、経済・経営学関係、社会学関係の科目を、「企業政策分野」に、法学関係、経済・経営学関係の科目を、専門科目及び専門演習科目として設定している。更に、基礎的素養を修得し、専門分野の専門科目や専門演習科目で扱った理論を深め、広い視野を身につけ、高度な専門的知識・能力を修得するための関連科目（13科目）を設定した教育課程としている。</p> <p>更に、「公共政策分野」と「企業政策分野」の専門分野を超えた研究をおこない、公共部門と民間部門が一体となって、地域社会の問題解決にあたる政策を策定するとともに、政策決定者に提言できる能力を持った人材養成を目指すために、社会科学全体を見渡す「体系講義科目」と、複数の教員と複数の大学院生による議論を中心とした「総合政策学特別研究」を設定している。</p>	
----------------------	---------------------	---	---

【専攻科】

<p>音楽専攻科</p>	<p>音楽専攻科は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。</p> <p>【器楽専攻器楽コース・声楽専攻】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽の歴史、理論、様式、体系に関する「作品研究」、「音楽特論」等の科目を配置し、より高度で専門的な知識と、それらの総合的な理解力の修得を図る。 2. より高度な演奏能力、創作能力を修得するため、上記理論系科目の上に立つ「専攻実技」を配置する。 3. より高い協調性、社会性、リーダーシップを身につけ、社会の様々なニーズに応えられる人材育成のために、「室内楽」、「管弦合奏」等、学部学生との交流を図る授業を開講する。 4. 修了時には、1年間の研究成果を発表する場として「修了演奏」を開講し、リサイタルを実施する。 <p>【器楽専攻音楽療法コース】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（専修）養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を配置する。 2. 「専攻実技」では、Functional Piano（ピアノによる機能音楽）について学び、療法的な目的のために音楽を創造し、演奏する技術の修得を図る。 3. 「音楽療法インターンシップ」では、就職を希望する施設を含めた複数の事業所において就業体験の場を提供する。過去の音楽療法研究及びその他の関連する学問分野の最新の知識からなるEvidence-based Practice（根拠にもとづいた療法の実践）の実施とドキュメンテーションが求められる。 4. 「音楽療法インターンシップ」において自身がこなったセラピーから研究テーマを設定し、過去の文献ならびに「心理統計学」、「心理療法」で得た知識ももちいて発表をおこなう「修了プレゼンテーション」を開講する。 <p>【学修成果の評価】</p> <p>音楽専攻科は、全学カリキュラム・ポリシーに基づき、学修成果を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業科目において、到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。 2. 成績の評価は到達目標への到達度を目安とし、成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。 3. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、学修成果の全体を評価する。 	
<p>人間生活学専攻科</p>	<p>人間生活学専攻</p>	<p>人間生活学専攻においては、学士課程等で修得した知識・技能を踏まえて、さらなる学問研究の意欲を高め、人間生活の質的向上と専修免許状（養護教諭，中・高の家庭科）取得に必要とされるより高度な知識修得のための科目を設けるとともに、課題解決力及び実践力を確かなものにしていく教育課程を編成している。</p>
	<p>児童学専攻</p>	<p>学部で学んだ基礎教育から発展するよう、広い視野に立って専攻分野を研究し、精深な学識と研究能力を養うことに重点を置き、児童学及び児童教育学並びにその関連分野における科目を設定して、教員の専修免許状取得にも対応できるように教育課程を編成している。</p>
<p>助産学専攻科</p>	<p>助産学専攻科は、看護学を修得し看護師免許を保有する学生を受け入れるため、看護学で修得した基礎学力を基盤とし、高度な専門知識と技術を持った助産師を育成する学科である。</p> <p>助産学専攻科のディプロマ・ポリシーは、「1. 妊娠・出産・産褥各期において正常経過の診断及びケア，正常からの逸脱の診断及びケアができる。」「2. リプロダクティブ・ヘルスの視点から見たライフサイクル各期の女性の健康を支援することができる。」「3. 思いやりを大切にし、助産師としての自覚と倫理感性を磨き、対象者ひとりひとりを尊重し、自らの役割と責任を果たすことができる。」「4. 専門職業人として継続して学び続けることができる。」であり、これらを実現するために、次の教育を実施する。</p> <p>助産師として必要な実践力・判断力を身につけるために、講義・学内演習・臨地実習・課題研究発表の順序で、系統的に学習できるカリキュラムを構築している。</p> <p>具体的には、基礎助産学7単位（うち1単位は選択）、助産診断・技術学9単位、地域母子保健3単位（うち1単位選択）、助産管理2単位、課題研究2単位、助産学実習12単位の計35単位（うち2単位選択）となっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎助産学や助産診断・技術学（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児乳幼児期）において、女性の健康を支える知識・技術を修得するとともに、助産及び周産期の母子と家族のケアに必要な助産診断・技術の基礎を修得する教育としている。 2. 基礎助産学の「ウィメンズヘルス」や「地域母子保健」、「地域の健康探索」などからライフサイクル各期の女性の健康生活のニーズを把握し、産後の家庭訪問や在宅育児家庭相談室などの実習、各種母子イベントなどへの積極的な参加を通して地域の母子や女性と家族及び地域の健康に貢献できる教育としている。 3. 学内演習は、充実した設備で妊婦診察・指導技術や分娩助産技術を修得し、より臨床に近い形で実習を行い臨地実習に臨むことができるような教育としている。 4. 「助産学実習」は、12単位で総合病院、クリニック、助産所での実習を通して分娩助産10例以上を達成する。実習では、産婦の状況に合わせて夜間実習を行い、一人の産婦の入院から退院まで継続的に関わり、どのような援助が必要か、どのように関わっていくかを学び、やさしさと包容力を持ち、対象者との信頼関係を構築し、対象者に寄り添いその人に合った安全で安楽なケアを提供できる教育としている。 5. 基礎助産学の「助産学概論」、「助産生命倫理学」、「プロフェッション論」、課題研究などから専門職業人として必要な倫理感性、責任感、生涯学び続ける必要性を養うとともに研究的視点で物事を捉えることのできる教育としている。 6. 「健康教育論」を学び、臨地実習で健康教育の運営・実施を通して、対象者に分かりやすい講義を行う。また、卒業前の課題研究発表会では、研究した内容を簡潔にまとめて発表するなど、分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける機会を設定している。 	

【大学】

■人間生活学部

	<p>6学科から構成されている。一般総合科目、専門的基礎分野の開講を出発点として、教育実習等の関連性にも配慮しつつ、順次高度な専門分野を加えるように体系的に編成している。なお、講義科目や実験・実習科目等の配分には細かい注意を払っている。</p>
人間生活学科	<p>人間生活学部及び人間生活学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「幅広い知識、豊かな教養、衣食住や保健に関する最新技術・知識、柔軟な思考力を持った専門性を身につける」とともに「家庭科・保健科教論、養護教諭、フードスペシャリスト、二級建築士、上級情報処理士などの資格・免許を取得し、地域社会の発展に貢献できる」人材の輩出を実現するため、次の教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康で安全・快適な人間生活の実現につながる知識・技能を幅広く学ぶため、「家庭経営学」、「衣生活論」、「食品学」、「栄養学」、「調理学実習」、「住生活論」、「保育学」、「衛生学」など、人間の豊かな生活づくりに関する多様な科目を1年次から順次開講する。 地域課題を自分のこととして捉え、地域共生社会の担い手として、他者と協働し主体的に行動する力を育成する。そのために、1年次は、地域社会を取り巻く環境や歴史の変遷などを学ぶ「生活と環境」、「生活文化論」、2年次は、地域の具体的事例や身近な地域が地球社会へつながりを持つことを学び、フィールドワークを経験する「コミュニティ・デザイン」を開講する。 教育への強い情熱を持ち、よりよい生活の実現に向けて主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成や生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成に資することができる中・高の家庭科・保健科教論を育成する。実践的指導力の育成に向けて、衣食住や保健に関する専門性の高い各分野の知識・技術を基盤に、3年次に「家庭科教育法」、「保健科教育法」、「事前・事後指導」、4年次に「教育実習」、「教育実践演習」を開講する。 教育への強い情熱を持ち、心と体のケアができ、学校保健推進に必要な高度な指導力と的確な救急対応ができる看護能力を備えた養護教諭を育成する。そのために、1年次は、「養護概説」、「基礎看護学」などの基礎的な科目を、2年次は、救急処置能力の向上と看護・保健に関する専門分野を学ぶ科目を開講する。2年次後期には、「臨床看護実習」、3年次には「事前・事後指導」、「養護実習」を開講する。また、教職科目において1～4年次に履修し、保健室の職務の実際を体験する「学校ボランティア実践」を開講する。 多彩な資格取得に向け、フードスペシャリスト、二級建築士、上級情報処理士、社会福祉主事任用資格、医療秘書の資格取得要件として指定される科目や、ファッションビジネス能力検定、福祉環境コーディネーター、防災士など、資格取得のための学びを支援する科目を開講する。 人と生活について最先端の知識・技能を研究するため、3年次に「専門ゼミナール」を開講し、各教員にゼミナール生として数名程度を配属する。さらに4年次の「卒業研究」では、科学的根拠に基づいて課題を考え、解決方法を探究する。 担任は4年間を通じて学生と面談を重ね、学修指導、資格取得や進路決定の支援を行う。また、主体的な学びを促し、他者との協働を取り入れながら将来の進路を自ら開拓することのできる力を育成するため、学年を超えての学科交流会や就職活動・教員採用試験報告会などの機会を設ける。
食物栄養学科	<p>人間生活学部及び食物栄養学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「食と健康の専門家として地域社会や医療現場での健康増進や疾病予防に貢献する」とともに「生涯、学び続ける意志を持つ」人材の輩出を実現するために、特定非営利活動法人日本栄養改善学会より提唱された「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠して下記の教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年次では、「管理栄養士としての将来」についての具体的な目標を新入生に持たせるための初年次教育として「健康管理概論」「食生活論」「文理学・地域学」「調理学実習」を設置する。また、ヒトに対する栄養学を学修する上で欠かすことができない「解剖生理学」と「基礎栄養学」を前期から開講する。後期からは、これらの授業科目を基礎において、「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠した科目を順次、設定する。 1年次・2年次を通して、身体を鍛えるための「健康スポーツ」、人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び、一次情報入手に欠かせない「語学」を開講する。 本学科の特長である「栄養教諭(1種)」及び「家庭科教諭(中・高1種)」免許取得のための講義、実習は、各学年において受講生の過剰負担とならないようにバランスよく配置する。 1年生からの学修指導や生活指導は担任教員が中心となっており、3年生後期からは、指導内容をより濃密にする目的で各教員にゼミ生として10名程度を配属する。 4年次では、前期に管理栄養士が実際に活躍している現場を体験するために、臨地校外実習として「臨地公衆栄養学実習」「臨地給食運営実習」「臨地給食経営実習」及び「臨地臨床栄養学実習」を各1週間、設定する。実習期間中、教員による実習現場への巡視を実施し、現場からの大学への要望を聞き取るとともに、実習中の学生の状況を把握する。また、教員免許取得を希望する学生は、この時期に教育実習を行うことで、教員志望の自覚を高めた上で、教員採用試験対策講座に参加する。後期には、能動的学修を促す目的で、学生が「自分で課題を設定し、プレゼンテーションを行い、質問に答える」という演習科目を設定することで、4年間の学修効果を総合的に評価する。 4年間を通じて、「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠した教育に加え、徳島文理大学の独自教育を加えることにより、学生が管理栄養士として必要な「知識」「態度」「意志」を身につけるべく、すべてのカリキュラムを設定する。
児童学科	<p>人間生活学部及び児童学科のディプロマ・ポリシーにもとづき、豊かな教養と人間性を培うとともに、教育学と児童学に関する専門的知識のうえに立った確かな実践力を身につけることのできるカリキュラムを編成して運営するため、以下の教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年次では、「児童に関わる指導者としての将来」についての具体的な目標を新入生に持たせるための初年次教育として「児童学原論」「教育原理」「保育原理」「教育方法論」「児童心理学」「教科内容・方法に関する科目(4科目)」「保育内容・方法に関する科目(4科目)」を開講する。また、教育・保育実践力の向上を目指すために、1つには「教科内容・方法に関する科目」「保育内容・方法に関する科目」で観察授業・保育を取り入れる。2つには総合科目(ボランティア)の受講を必修化すると同時に、種々のボランティア活動への学生の積極的な参加を促す。 1年次・2年次を通して、身体を鍛えるための「健康スポーツ」、人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び、一次情報入手に必要なとされる「語学」を開講する。

児童学科	<p>3. 2年次以降から4年次に至る専門教育では、児童に関わる指導者としての資質能力を高めるための順次的・系統的なカリキュラムの配置を行う。また、学生の主体的態度、課題発見・問題解決能力を養うために、アクティブ・ラーニングを有効に活用した学修方法を導入する。</p> <p>4. 教員・保育士の免許・資格取得のための講義・演習、実習は、各学年において受講生の過剰負担にならないようにバランスよく配置する。学生はこれらの授業を通して、教員・保育士の自覚を高めたうえで、教員採用試験対策講座に参加する。</p> <p>5. 2年次から4年次にかけては、臨床への応用のため事前・事後指導・保育実習指導の科目、教育実習・保育実習・介護等体験を順次、配置する。また、教科教育法・保育方法演習等を通じて、模擬授業・模擬保育及び授業・保育の参観=分析を実施する。</p> <p>6. 1年次からの学修指導や学生指導では、担任・チューターが中心になり、HR活動、面談、学習ポートフォリオ、教職履修カルテや「保育・教職実践演習（幼・小）」を活用して学生の主体的な学びができるように支援を行う。3年次後期からは、指導内容をより濃密にするために各教員にゼミ生として10名程度を配属し、原則としてゼミ担当教員が継続して4年次前期・後期の卒論指導を行う。</p> <p>7. 各科目を担う教員が児童に関わる指導者養成の使命を自覚し、児童に関わる指導者としての実践力についての視点や内容を互いに共有して協働する体制を組織し、教育を進めていく。また、学科の教職員が連携し、課外活動、就職支援等を通じて、学生が互いに学び合う学修環境のもとで社会人としての自覚を高め、児童に関わる指導者に求められる資質能力を身につけることができるように支援体制を整える。</p> <p>8. 各科目で、到達目標を定め、到達目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知する。また、学生が各科目・課外活動等で身につけた知識・技能を統合して、児童に関わる指導者にふさわしい資質能力の育成についての評価基準を設ける。そして、その評価結果に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることにより教育の質の保証に努める。</p>
メディアデザイン学科	<p>人間生活学部及びメディアデザイン学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「情報通信技術を活用して、さまざまな問題解決のために企画・立案・実践を行うことにより、社会に貢献しうる人材」の輩出を実現するために、下記の教育を実施する。</p> <p>1. 本学科の特長である5つの領域を、各学年でバランスよく配置する。具体的には、システムデザイン領域である「プログラミング」「情報システム論」「コンピュータネットワーク論・演習」、マーケティングリサーチ領域である「応用統計学」「社会調査研究」「生活と情報」、コンテンツデザイン領域としての「メディア制作論」「Webデザイン論」「CGアニメーション」「コンピュータグラフィックス論・演習」、ライツマネジメント領域の「情報社会論」「メディアと制度」、インストラクショナルデザイン領域の「メディア教育論・演習」「インストラクショナルデザイン」を設置することで、5つの領域を系統的に学ぶ。</p> <p>2. 1年次では、初年次教育として「情報技術」についての基礎科目である「コンピュータ概論」「情報処理論」「コンピュータグラフィックス論・演習Ⅰ」「応用統計学」を設置する。</p> <p>3. 基礎的な知識・技術が養われた3年次以降は外部講師を積極的に招き、専門的な経験談や業界第一線の知識・技術に触れることで、より一層のスキル向上を図る。</p> <p>4. 1年次・2年次を通して、身体を鍛えるための「健康スポーツ」、人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び、一次情報入手に欠かせない「語学」を開講する。</p> <p>5. 2年次では、職業人として必要な指導力・コミュニケーション能力を養うため、「プレゼンテーション論・演習」を設置する。</p> <p>6. 3年次の専門ゼミナール及び、4年次の卒業研究は、各教員にゼミ生として配属する。他学部や地域・行政と関わりを持ちながら、課題解決にむけた能動的学修を行う。</p> <p>7. 1年次からの学修指導や生活指導は担任教員とチューターが中心となり、学生とともに学修成果の評価を行う。</p> <p>8. 4年間を通じて、学生が学士(情報)として必要な「知識」「態度」「技能」を身につけるべく、すべてのカリキュラムを設定する。</p>
建築デザイン学科	<p>将来の建築技術者として専門分野の基本的な知識を身につける。そして学んだ知識を生かし、社会の要求に応え、自己の考えを適格に表現し、コミュニケーションを円滑にできるよう、建築におけるコアカリキュラム(計画、構造、設備、環境、生産、インテリア)を中心にして、ディプロマ・ポリシーを実現するために以下のような教育を実施する。</p> <p>1. 1年次は、人類が生活を始めてからの建築の歴史や文化をはじめ、建築の一般構造、建築物の創造に必要な製図・造形・色彩計画など基本的な知識や表現技術を重視した学修を設定している。</p> <p>2. 2年次・3年次は、住生活についての基本的な知識、つまり、建築の意匠や関連法規、都市計画などの基礎的分野にはじまり、インテリア、環境など幅広い教科を設定し、将来建築技術者として、新たな創造や課題に対応できる知識や技術を身につけさせることを目標とする。さらに幅広いモノづくりに取り組む資質や姿勢を持たせることをテーマとし、建物の安全・快適性を重視した人間の生活を取り巻く環境に配慮できる建築技術者の養成を目指している。また、高品質なソフトウェアや最新の機器を積極的に導入し、その利用により、実社会での仕事に抵抗なく駆け込む力を養う教育を設定している。</p> <p>3. 4年次は、1年次から3年次までの一貫したカリキュラムツリーを基に、総仕上げ的な学修を設定している。</p> <p>4. 3年次から4年次にかけて、過去に学修した知識を基に、学習意欲のある学生を中心に、卒業研究を行うとともに、地域社会との連携事業に積極的な参加を実践する。</p>
心理学科	<p>人間生活学部及び心理学科のディプロマ・ポリシーに基づき、「現代心理学の知見に基づく科学的な知識と思考(冷静な頭)と、臨床心理学の基本である他者への共感的理解(暖かい心)を持った人材を育成」する。さらに、児童生徒の心理に強い「養護教諭」、高い専門性と実績で社会に貢献する「臨床心理士」、国家資格「公認心理師」各取得援助のために、下記の教育を実施する。</p> <p>1. 1年次では、主体的に考え学ぶ態度を獲得させるために、まず強力なオリエンテーションを行うとともに、社会人として必要な基本的知識と教養を身につけるために一般総合科目を中心として学ばせる。一方、専門科目領域においては、心理学の全体的体系を理解させるために、基礎科目として、「心理学概論」とともに、科学的理解の基礎となる「心理学研究法」を設置する。また、養護教諭免許取得を目指す者に対し、その基礎となる「教職概論」「養護概説」等を配置する。さらに、「建学の精神」をより深く理解し、学修目標を持ち意欲的に勉学・研究活動に取り組めるようになるために「文理学」を配置する。</p> <p>2. 2年次では、語学等を中心とした一般総合科目の履修により、大学生としての教養の充実を図る。専門科目においては、基礎から応用へと体系づけられた科目設定に従い、「心理学実験」から「臨床心理学概論」、さらに心理学各領域科目を配置する。また、養護教諭免許取得のために、以上の科目に加えて「教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)」等の基礎的科目の充実を図るとともに、「救急処置及び看護法」等の実践的科目を設定する。</p>

心理学科	<p>3. 3年次では臨床心理学の実践的、応用的理解を深めるために「心理学検査法実習」「心理療法演習」等の実習・演習科目を設置する。また、教職科目においても、養護教諭としての実践的能力の向上を目指し病院実習・教育実習を配置する。後期からは、卒業研究単位取得のための研究室単位での指導として専門ゼミナール指導を設定する。</p> <p>これらの指導を通じて、目指す資格取得への意思を明確化させるとともに、チューター指導による援助を行う。</p> <p>4. 4年次では、前期に専門科目の履修とともに、専門ゼミナールによる卒業研究指導によって主体的研究態度と論理的思考を涵養する。また、養護教諭免許取得のために、後期に教職実践力の向上を図る「教職実践演習」を配置する。</p> <p>さらに4年次を通じて、これらの指導に加えチューター・担任等の指導により、就職活動、養護教諭免許取得、さらに臨床心理士及び公認心理師受検資格取得のための大学院進学等を援助する。</p> <p>カリキュラムは、以上の実践結果や、教育的要請により適時見直され、各教員は、より効果的かつ適切な教育活動が実施されるよう連携し努力する。</p>
------	--

■ 音楽学部

音楽学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。

【ピアノ・声楽・管弦打楽器・音楽クリエイター&アーティストの各コース】

- 1年次は、音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に、音楽に対する学修意欲を高めるため、「基礎ゼミナール」と基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。また、幅広い知識を身につけるための一般総合科目を配置する。
- 一部の演習系科目と実技系科目においては、習熟度別のクラス編成を行い、一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。
- 全学年を通して、「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」において、基礎的な内容から、より高度で専門的な内容の科目まで、順次配置する。
- 高等学校教員免許・中学校教員免許（1種）を取得するため、また音楽指導者をめざすための科目として、全学年を通し、「教育系科目」を順次配置する。
- 音楽療法士（1種・2種）を取得するための科目として、全学年を通し、「音楽療法系科目」を配置する。
- 4年次修了時には、卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し、4年間の研究成果を評価する。
- 「卒業演奏会」を開催し、卒業試験における成績優秀者には、発表する機会を提供する。

【音楽療法コース】

1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（1種）養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。
2. 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。
3. とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論Ⅱ」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準（AMTA Standards of Clinical Practice）にもとづき、1) 紹介と受け入れ、2) アセスメント、3) 治療計画、4) 実施、5) ドキュメンテーション、6) 終結、という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。
4. 2年次の「音楽療法実習」では、「音楽療法総合演習」、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を大きく受けながら、地域の病院、福祉施設等の高齢者のニーズを特定し、グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。
5. 3年次の「音楽療法実習」では、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を受けながら、地域の病院、福祉施設等の障がい者のニーズを特定し、音楽療法サービスを実践する機会を提供する。
6. 4年次の「音楽療法実習」では、少人数の学生グループが、自立して、地域の病院、福祉施設等のクライアントのニーズを特定し、音楽療法サービスを実践する機会を提供する。実習での教員の援助は最小限にとどめられるが、「音楽療法総合演習」において実習の内容を取り扱い、より高度なメソッド、テクニックの利用についてアドバイスを与えることによって、自身のセラピーがさらに豊かなものになるようにしている。
7. 4年次の「音楽療法実習」において、地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し、プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより、自らの探求する力、また音楽療法を他者に伝え、説明する力を養う機会を創出する。

【学修成果の評価】

音楽学部は、全学カリキュラム・ポリシーに基づき、学修成果を評価する。

1. 各授業科目において、到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。
2. 成績の評価は到達目標への到達度を目安とし、成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
3. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、学修成果の全体を評価する。

■薬学部

ディプロマ・ポリシーを達成するため、体系的なカリキュラムを1年次から6年次にわたって段階的に構築・実施する。カリキュラム実施方針ならびに学修成果の評価方法を以下に示す。

1. プロフェッションナリズム

薬剤師として必要な人間性と倫理観を醸成するための科目を1年次から各学年にわたり受講する。幅広い視野で判断ができる能力を身につけるため、1年次に医療・福祉・公衆衛生・製薬に関わる施設・企業を訪問する早期体験学習を受講する。また一般総合科目において人文科学・社会科学系の授業科目を履修する。2年次と4年次に医療倫理と法規・規範について学修する授業科目をそれぞれ受講する。さらに4年次開講科目にて参加・実践型の実務実習前教育を学修した後、5年次の実務実習において人間性豊かな医療を実践する態度を体系的に身につける。また3～6年次の卒業研究活動を通じて薬剤師として必要な人間性を育むとともに、医療や研究に係る倫理観を身につける。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「関心・意欲・態度」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

2. 専門的知識

医薬品に関する科学的知識について体系的に学修するため、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学の知識と技術を修得する講義・演習・実習科目を1年次から学年進行に応じて受講する。1,2年次では物理・化学・生物系薬学に関する科目を中心に履修する。3,4年次では薬理・病態、医薬品情報、薬物動態・製剤、衛生・公衆衛生に関する科目を中心に受講する。また3年次より本学独自の3つのコース（医薬品研究開発、先端医療薬学、漢方・セルフケア）のいずれかを選択し、より実践的で専門性の高い知識と技術を修得する。

【学修成果の評価方法】

筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。また2～4年次の特別演習および6年次の総合薬学演習における試験により、その総合的な学修成果の評価を行う。

3. 情報・科学技術活用能力

情報・科学技術を医療・薬学に活用するために必要な科目を1年次から受講する。1年次では基本的な情報技術を学修する演習科目と、データサイエンスに関する基礎知識を修得する科目を履修する。3,4年次では、保健医療における統計資料、デジタル技術やビッグデータの活用状況を把握し、その情報・科学技術を利活用して医療や公衆衛生上の課題発見・解決につなげるための学修に取り組む。5年次の実務実習では医療機関や地域における医薬品情報を活用した医薬品の適正使用について学修する。また3～6年次の卒業研究活動を通じて、科学系・医療系データベースからの情報収集・解析と活用について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「技能・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

4. コミュニケーション・多職種連携能力

薬剤師として必要なコミュニケーション能力と多職種連携能力を醸成するための科目を1年次から各学年にわたり受講する。1年次は体験学習、学部間連携科目などを通して多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築する。2年次からは、患者や医療従事者と適切なコミュニケーションをとれるよう、医療コミュニケーション学、チーム医療論、実務実習事前教育などの科目において参加型学修に取り組む。5年次の実務実習では患者との面談・指導の実践や、医療に関連する多職種との連携を実践する学修に取り組む。また1～3年次の薬学専門領域の各実習や3～6年次の卒業研究活動を通じて、同僚や先輩・後輩と連携・協同して実験や研究に取り組む意欲を培う。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「意欲・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

5. 科学的探究力

科学的探究力と問題解決能力を身につけるための体系的なカリキュラムを1年次から6年次にわたって段階的に受講する。研究マインドの基礎を築くため、1～3年次において薬学専門領域の各実習を受講する。また低学年次より自主的に研究活動に取り組むことのできる学部内インターンシップ制度を選択・参加する。主体的な学習態度、課題発見・問題解決能力を養うため、3年次から研究室に配属して卒業研究に取り組む。卒業研究の一環として薬学に関する学術論文を読解し、その内容について紹介する。6年次の卒業研究発表会において、自ら行った研究成果について発表・討論する。また学術集会や学会などに積極的に参加し、研究成果を発表する。5年次の実務実習では卒業生や先達薬剤師とともに医療現場で活動し、医療の質的向上に貢献するため、エビデンスの再現性・信頼性・具体性を理解する。また医療人としての心構えや行動規範について学び、生涯にわたって研鑽を積み続ける意義や姿勢について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「技能・意欲・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。また6年次の総合薬学研究4において、その総合的な学修成果の評価を行う。

6. 社会貢献力

社会における医療の役割について理解し、総合的に患者をみる姿勢を醸成するための科目を1年次から受講する。1年次では薬剤師として必要な資質について学修する薬学概論と、医療・福祉・公衆衛生に関わる施設を訪問する早期体験学習を受講する。2～4年次では社会と薬学および臨床薬学に関する科目において、患者の身体的・社会的背景を総合的に把握して医療を実践する意欲を培う。また社会・地域における薬剤師の活動や医薬品の規制、医療マネジメント・医療安全の実践について学修する。衛生薬学に関する科目において、社会における公衆衛生、食品衛生、環境衛生上の課題発見と解決策の立案について学修する。国際的な視野を広げるため、2,3年次の英語科目において医療現場や薬学で用いられる専門英語について学修する。5年次の実務実習ではこれまで学修した知識を活用して、医療や福祉、地域社会の現場における薬剤師の役割について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「意欲・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

7. 薬物治療実践能力

薬物治療を実践できる能力を身につけるため、薬物治療に必要な知識を修得する医療薬学の科目と、薬物治療の実践力を培うための臨床薬学の科目を、2年次から体系的に受講する。2～4年次における医療薬学系の科目では疾患ごとの薬物治療について学修し、薬物治療を実践するための基盤を作る。4年次の臨床薬学系の講義・演習科目において薬物治療の個別最適化について学修した後、5年次の実務実習において臨床現場における患者個々の状況を把握した薬物治療の実践について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。また3,4年次の特別演習および6年次の総合薬学演習における試験により、その総合的な学修成果の評価を行う。「思考・判断」に関する学修成果は、プレゼンテーションやSGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。また6年次の実務実習事後学習において、その総合的な学修成果の評価を行う。

■ 文学部

<p>文学部のディプロマ・ポリシーに基づき、自立協同の建学精神を体得した社会人として活躍するために、5つの領域の基礎科目群を履修し、基本的力量を修得するカリキュラムの編成をしている。即ち、3学科共通の専門科目として、多様な情報を比較・検討した上で自らの考えをまとめ、それを的確な日本語で表現し、情報機器を駆使して分かりやすくプレゼンテーションできる力を養成する。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次では、日本語及び情報の基礎から応用力を体得し、併せて日本文化や欧米の歴史を学び、幅広い教養を身につける科目を設置している。 ・2・3年次では就職試験に役立つ基礎から応用力を身につける科目を設置している。 	
日本文学科	<p>文学部・日本文学科のディプロマ・ポリシーに基づき</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1・2年次では、文学・語学の概論・概説、及び古典から近現代の文学史を学びつつ、日本文学・語学全般を俯瞰し、理解を深めるようにしている。 2. 1～3年次では、文学・語学（表現を含む）の演習、及び時代別文学の講読を学びつつ、調査力、読解力、思考力、表現力の段階的涵養を行うようにしている。 3. 3・4年次では、専門分野に特化した文学・語学の講義を学びつつ、主体的に問題点を提起し解決を目指す態度を育成するようにしている。 4. 4年次では、それまで積み重ねた調査力、読解力、思考力、表現力を動員し、独自の視点から卒業研究を推進するようにしている。研究成果である卒業論文においては、厳格な執筆条件を設け、なおかつ審査は主査と副査の複数体制で客観的評価を行うようにしている。 5. 資格科目である国語科教科教育法は2年次から3年次に配当し、複数年掛けて教案作成から実践的な授業運営までを修得し、教員資質の養成に備えるようにしている。
英語英米文化学科	<p>文学部・英語英米文化学科のディプロマ・ポリシーに基づき</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1・2年次では、英語運用能力の基礎となる必修科目を中心に、海外留学も視野に入れ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能のスキルを高めるとともに、英語圏の文化の理解や、英語教育に関する基礎知識を習得するようにしている。 2. 3・4年次では、より高度な英語運用能力を習得するための必修科目とともに、文学や言語学などの各専門分野を学ぶ選択必修科目・選択科目によって、自らの関心や進路に応じて課題を発見し探究する主体的な学びの態度を養うようにしている。 3. 4年次では、それまで培った知識や思考力を発揮し、卒業研究などを通して、自らが設定したテーマに関して探究するようにしている。論理的な思考による問題解決能力だけでなく、国際化が進む社会で活躍するために必要な表現力を身につけるようにしている。 4. 英語教育に関する理論と実践的な教授法を学ぶ科目を2年次から4年次に配当し、英語教員資質の養成に備えるようにしている。
文化財学科	<p>文学部・文化財学科のディプロマ・ポリシーに基づき</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次では、専門諸分野の基礎となる文化財に関する知識や歴史・地理などの初年次教育を行う。また、各分野に必修概論4科目を開講し、2年次の進路選択の幅広い知識・理解を深めるように編成している。 2. 2年次では、各専門分野（史科学・考古学・建築史学・地理学）を選択し、分野別の実習と文化財調査の基本技能を身につけるようにしている。 3. 3・4年次では、演習科目でフィールドワークを実施して専門性を深め、調査・分析を踏まえた思考・判断能力を身につけるようにしている。 4. 4年次では、卒業研究を実施し、社会における文化遺産に対する認識や問題解決に活躍できる力を修得する。また、同級生や下級生の前で成果（卒研を含む）発表を行い、多方面からの指導を受けながら4年間の学びの集大成を行うようにしている。

■ 理工学部

<p>理工学部のディプロマ・ポリシーに基づき、社会人として必要な一般的な知識や態度を身につけ、自立協同の精神にのっとり地域や組織で適切な役割を担える能力を修得するため多くの授業を配置している。理工系の教育は、概して積み上げの色合いが強く、専門技術習得のためには基礎的な数物化系科目の修得が必須である。そのために、1年次に高大連携の導入教育や基礎教育あるいは入学前教育や補修講義を準備している。2年次専門科目では、数物化系科目の高度な修得や、各学科の専門分野の知識や論理的な思考の修得及び体験型（実験・実習）を重視した授業を行っている。職業観・勤労観の育成は、インターンシップの奨励・指導等を通じて実施するように編成している。基礎及び専門科目では「ものづくりを通して人づくり」を主眼とする、職業教育の充実を目指した教育課程を編成方針としている。</p> <p>また常に変わる社会状況において新たに生まれる課題や問題を解決するため、生涯を通じて継続的に学習し、自らの能力を高め続けるための方法論を学び、効率的な修学習慣を身につける。さらに、大学において身につけた知識・技術を社会において活用し、社会の一員として十分な活躍ができるように、自己表現力、プレゼンテーション、コミュニケーションの能力を身につける。</p>	
機械創造工学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次では、数学・物理に関する共通専門科目・機械工学全般を浅く広く学ぶ科目、工作実習、製図などの各種工作機械の操作・材料の工作法・図面の読み方など製造に関する科目、コンピュータ関連の基礎科目を配置し、実習を通して協同作業を体得する。 2. 2年次から3年次にかけては、基礎的な設計能力を身につけるための材料・設計、熱流体、制御などの機械工学に関する専門科目、コンピュータ援用能力・システム化能力を身につけるための電気・電子に関する専門科目を配置し、機械工学の基礎を習得するとともに、物づくりに対する関心を高める。 3. 4年次では、各研究室において卒業研究プログラムを配置し、機械技術者に必要な論理的な判断力及び創造する能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力を身につける。 4. 技術の進歩と社会の変化に貢献できる柔軟な適応力を身につける。また、他分野との融合を図り、問題を解決できる総合的な能力を身につける。

電子情報工学科	<ol style="list-style-type: none"> 1.1年次では、工学の共通基盤である数学、物理学に加え電子・情報の入門となる専門科目と実験を配置し、基礎的な知識を幅広く身につけるとともに電子情報工学に対する関心を高める。 2.2年次では、ソフトウェア、ネットワーク、電気・電子回路などの専門科目を配置し、「電子工学」と「情報工学」の専門的知識を深め、基本的な設計能力、専門的知識を継続的に学習する能力を身につける。 3.3年次では、専門科目と実験及び演習を配置し、コンピュータとネットワークの仕組みが分かり、基本的な電子回路の製作法を修得でき、基本情報技術者試験に対応できる知識を身につけるとともに、ものづくりに適用してゆく能力を身につける。 4.4年次では、卒業研究を配置し論理的思考、率先して行動する姿勢、及び問題解決能力を身につける。 5.情報システム、情報応用に関する実験などの実践的科目を配置し、併せて体験支援などの課外活動を通じて能動的学修を促進し、協調しつつ相互のコミュニケーションに基づく共同作業を推進できる能力を身につける。 6.職業への理解を深めるキャリア教育科目を配置し、職業を通じた社会貢献に備える。
ナノ物質工学科	<ol style="list-style-type: none"> 1.1年次では、生命科学コースと材料科学コースの共通基盤である数学、生物学、化学、物理学に関する基礎的な知識を幅広く身につける。 2.2年次では、生命科学コースと材料科学コースに関する専門知識を習得し、両コースの共通基盤である定性・定量分析基礎技術、バイオ操作基礎技術、物理計測基礎技術を身につける。 3.3年次では、生命科学コースと材料科学コースの少なくとも一方の分野において専門科目を深く学び、様々な状態を精密に定性、定量的な解析を行い、現状や効果を適切に判別できる能力を身につける。 4.4年次では、卒業研究を配置し論理的思考、率先して行動する姿勢、及び問題解決能力を身につける。 5.社会や環境に潜む問題や課題を見つけ出し、これを解決する意欲を育むため、地域学を学び、連携に必要な能力を身につける。 6.問題や課題を解決するための能力と論理的な思考力を身につける。 7.大学において身につけた知識・技術を社会において活用し、社会の一員として十分な活躍ができるように、自己表現力、プレゼンテーション、コミュニケーションの能力、効率よく共同作業を行える能力を身につける。

■総合政策学部

<p>総合政策学部では、本学が掲げる建学の精神、教育目標と本学科の養成する人材像、ディプロマ・ポリシーに則り、教育課程の編成にあたっては、カリキュラム・ポリシーを策定し、教育課程を編成する。</p>	
総合政策学科	<p>教育課程の編成方針</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)第1年次には、複数の視点から分析を行うための基礎的知識を習得するために一般総合科目を置く。 (2)第1年次から第2年次において、社会科学の幅広い学問に通暁した知識を得るために専門分野の基礎的内容を教授、専門教育科目に「法学概論」「政治学概論」「経済学概論」「経営学概論」「社会学概論」を置く。また、複数の視点から社会の問題への適用力を身につけるため、「総合政策学概論」を置き、これらを必修科目とする。 (3)第2年次から第4年次にかけて、社会科学を実社会の問題に適用する知識をえるため、「ミクロ・マクロ経済学」「経営戦略論」「行政経営学」などの専門教育科目を置く。また、日本学術会議の分野別参照基準にいう「基本的素養」を教授する科目を設置する。 (4)第2年次後期には、「専門基礎演習」として、「卒業研究」にとりくむための、文献調査、社会調査、データ分析等の技術を学ぶ科目を設置する。第3年次から第4年次にかけて「卒業研究」にとりくませ、具体的な社会の問題を解決するために必要な総合政策を立案する能力を養う。 <p>教育内容・方法</p> <p>「調べ、考え、議論する、そしてそれを文章にまとめる」を教育のモットーとし、教育課程におけるすべての科目に適用する。つまり、「基本的知識を獲得する目的での講義」、「自身の知識の定着をはかる授業外学習（調べ・考え）」、「多様な価値観をもった人間同士が話し合うことで考え方の優劣を知るSGD (Small Group Discussion) (議論する)」、「その結果をレポートにまとめる」といった教育方法を有機的かつ効果的に組み合わせる。</p> <p>【学修成果の評価】</p> <p>知識の定着度合を評価する「筆記試験」、多様な考え方を持った者同士の議論の成果を含む「レポート」、その成果をさらに自分のものとして咀嚼する「プレゼンテーション」などの実技、など科目の教育目的に応じて組み合わせる。</p>
経営学科	<p>教育課程の編成方針</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)第1年次と第2年次に、広い視野で思考できる幅広い分野の教養として社会人としての素養を涵養するために「一般総合科目」を置く。 (2)第1年次と第2年次を中心に、幅広い基礎的知識技能を学修し、多面的・多角的な視点を身につけるため、経営、経済、会計、法律、総合政策、情報に関する「専門基礎科目」を置く。 (3)第1年次後期から、経営に関する専門的知識を体系的かつ段階的に学修できるように、経営、経済、会計、情報、キャリアに関する「専門科目」を置く。 (4)第1年次後期から、課題解決に必要な情報を収集・分析し、活用するために、データサイエンスの基礎から応用までの知識・技能を学ぶ科目を「専門基礎科目」と「専門科目」に置く。 (5)具体的な課題を発見・分析・解決する力、行動・表現・協同する力を身につけるための科目を「専門基礎科目」と「専門科目」に置く。 (6)地域社会や企業の抱える具体的な経営上の課題に対して、既修の知識技能を用いて問題解決を図る能力を養うための科目を「専門科目」と「卒業研究等」に置く。

■香川薬学部

到達目標に達するための教育課程

カリキュラム編成

本プログラムは6年制となっている。卒業までに必要な単位数は186単位以上で、以下の条件を満たす必要がある。一般総合科目19単位以上（人文科学関係科目，社会科学関係科目，自然科学関係科目より12単位以上。ただし，人文系，社会系，自然系はそれぞれ2単位以上を含むこと。），体育・スポーツ科目1単位以上，外国語科目（「英語」4単位を含め）4単位以上，文理学科2単位，および薬学専門教育科目167単位以上。

香川薬学部は，10項目のディプロマポリシー（DP）を実現するための教育プログラムを段階的かつ効率的に編成することにより，(1)医療人に必要な高い倫理観と使命感（DP1，2），(2)薬剤師に必要な専門的知識と技能（DP5），(3)医療現場でおこる問題を発見する能力とその解決能力（DP4），(4)能動的に行動する態度（DP3，10），(5)思考力・判断力・表現力等の社会生活で必要とされる能力（DP6，7），(6)生涯にわたって学び続ける自己研鑽力（DP3），(7)多様な人々との協働を可能とするコミュニケーション力（DP8，9）をもつ医療人を育成する。

学習内容・方法

カリキュラムは学年進行に伴って基本的スキルから医療従事者としての専門的スキルにレベルアップしていくよう構成されている。薬剤師として身につけるべき生命・医療倫理，チーム医療とコミュニケーション，薬剤師に関わる社会の仕組みおよび課題の発見能力・課題の解決能力を醸成するための科目は，6年間かけて修得できるようにすべての学年に教育プログラムを配置している。4年次に講座配属を行い，講座における研究を通して，最新の知見を知る重要性だけでなく，医療現場でおこる様々な課題を解決できる能力を培う。実務実習準備教育プログラム「実務実習事前教育1」及び「実務実習事前教育2」を履修することにより，5年次の病院・薬局実務実習に必要な知識・技能・態度を学修する。病院・薬局実務実習では，大学で学修したことを実践することにより，医療現場で起こる様々な課題に対する解決能力をより向上させる。

学修成果の評価方法

「知識・理解」に関する科目の学修成果は，筆記試験や口頭試問，課題レポート等によって能力を点数化し評価する。「技能・意欲・思考・判断」に関する学修成果はPBL科目における制作物と到達度評価，レポート，プレゼンテーション，「卒業実習」での卒業実習報告書と発表を点数化して評価する。自己研鑽力など学生個々の能力の醸成は，学生自身がどの程度獲得し達成できているかを5段階のルーブリック表で自己評価し，その結果をみながらチューターが個別指導を行う。また，1年次から6年次までに修得した知識の到達度は，6年次の「総合薬学演習」により総括的評価を行う。

これに加えて，1～6学年の全ての必修科目について，香川薬学部の10項目のディプロマ・ポリシー（DP）へ寄与する割合（DP配分）を設定している。各授業科目の評定時の試験の得点にDP配分を乗じて（単位数も乗じる）6年間にわたり修得全科目について積算したDP得点を算出し，これにより卒業までの総合的な学修成果（DP達成度）を測定する。（DP得点/DP累計＝DP達成度）

■保健福祉学部

授業科目を一般総合科目，専門教育科目としている。1年次は，幅広い教養を身につけ，医療・福祉の基礎を学び，2年次は，各科関連の技術を修得する。3年次，4年次は，臨地実習を行い理論と実践を統合させるとともに，自ら関心がある分野を発展させ，国家試験に向け学習する教育課程を編成している。

人間福祉学科	<p>人間福祉学科では，様々な福祉課題を持つ人びとの生活の質を向上させるため，人間と社会について多角的な視点から分析・理解し，課題の解決に取り組むための知識・技術を習得する，というディプロマ・ポリシーを実現するために下記の教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学年を通じて，社会福祉士及び精神保健福祉士のカリキュラムに準拠した専門知識・技能を学ぶための科目を配置する。資格取得のみにとどまらず，幅広い学問領域を学び広い視野を持ち，未知の問題に出会ったときに保有する知識を元に思考して解決に結びつける能力の醸成を目指す。 2. 学内での学びに加えて，学外の相談援助機関の関係者と緊密な連携のもと，外部講師の招聘及び相談援助機関の見学を行い，様々な福祉課題の実態について体験を通じて学ぶ実践教育の実現を図る。 3. 1年次は，社会福祉の意義や理念について概説し，社会福祉への学習意欲の向上を図る。また，対人援助に携わる者に求められる豊かな人間性と倫理観を習得するための基礎ゼミ，一般総合科目を配置する。 4. 2年次は，社会福祉のサービス・制度・社会的活動のあり方の理解に向けた科目を設定する。次に，相談援助演習を通して，相談者と専門家の視点を深め，相談援助機関での実習に向けたレディネスを確立する。 5. 3年次は，相談援助機関において実習を行い，これまで学習した基礎的な知識・技能を実践の場で活かすとともに，実践の場での経験から基礎的な学習の重要性を体得できるよう学習科目を配置する。加えて，実習報告会を実施し，実習の経験習得した技能を，簡潔にまとめてわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける機会を設定している。 6. 4年次は，4年間を通じて学習した専門知識を社会に出て活用できるよう，総合的な学習科目を設定している。特に学びの証として国家資格の取得に向けて，国家試験対策を重点的に実施し，確固とした専門知識・技術の習熟を図る体制を構築している。また，精神保健福祉士の資格希望者には，精神障がい者の社会復帰に係る相談援助機関において実習を行い，実践の場での経験を通して専門的・実践的スキルを習得する機会を確保する。
看護学科	<p>看護学科のディプロマ・ポリシーは，「1.生命を尊び，人間についての幅広い知識を身につけ，対象を全人的に理解して，人々の健康を支援することができる。」「2.看護の専門職者として必要な感性を磨き，基本的知識・技術を獲得して，さまざまな状況で活用できる。」「3.看護の専門職者として自己の責任を自覚し，医療チームの一員として協働活動に参加できる。」であり，これらを実現するために，次の教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職として必要な看護実践能力を確実に身につけるために，全学年を通じて，講義・演習・臨地実習の順序で，系統的に学習できるカリキュラムを構築している。とくに演習（技術演習）・実習（臨地）は重要で，卒業要件の総単位数の25%を占め充実させている。 2. 学生の発達段階や能力に応じて，順序だてて教育プログラムを編成している。1年次は「専門基礎分野科目」としておいて，看護実践に必要な基礎医学や保健医療福祉の基礎知識を学ぶ。2年次は「専門分野科目」を中心に看護職として必要な専門知識と技術を学び，3年次は「実習科目」とおいて，科学的思考に基づき計画的に看護を提供する能力を体得できるようにしている。4年次においては「がん看護論」「糖尿病看護論」「臨床薬理学」など特色ある多くの「臨床総合科目」を配置し，看護実践能力を高め統合できるように設定している。 3. 入学直後から，一般総合科目や「文理学科」，「ボランティア」，「援助的人間関係論」などを幅広く学び，豊かな人間性と良識をもつ社会人としての基礎力を養うよう設定している。1年次前期に開講する看護技術演習や病院実習など，早い時期から医療現場を体験することで看護に関心をもち，思いやりの気持ちを養い，医療人としての自覚を体得できるようにしている。 4. 充実した学内設備で基本的な看護技術を修得し，さらに刻々と変化する患者の状態を判断し行動する能力を養うために，高機能シミュレーターや生体モデルなどを用いて実践的で有効な学内演習を行っている。 5. 学んだことを応用する力を修得するために，県内外の地域医療機関と連携し実習を行っている。5～6名の少人数の学生に1名の実習指導者が，実習終了まで一貫して指導し，実習をとおして看護の専門職として自己の責任を自覚し，医療チームの一員として協働活動に参加できる能力を身につけるよう設定している。 6. 理学療法士，臨床工学士などを養成する保健福祉学部の特性をいかし，シミュレーション学習や実践的なチーム医療を体験しながら，お互いの職種の理解を深め，チーム医療の中で看護職の役割を体得できるよう設定している。

理学療法学科	<p>理学療法学科のディプロマ・ポリシーは、①健康に関連する専門職 (allied health profession) としての理学療法士として、専門分野の学問内容や知識・技術を習得する、②生命に対して畏敬の念を抱き、豊かな人間性、良識及び教養を身につける、③健康に関わる問題・課題に対して真摯に取り組み、科学的根拠に基づいて論理的・客観的な視点を持ち、適確な判断と行動がとれる、④健康に関わる他職種と連携を取り、協働し必要な支援・援助ができる、⑤理学療法の実践を通して積極的に社会に貢献できる、などである。これらを実現するために以下に挙げる教育内容を実践する。</p> <p>1. 理学療法に関する基礎的教育と幅広い分野・領域に対する包括的教育の提供 理学療法に関わる基礎的教育はもとより、広く保健・医療・福祉の分野・領域に関連する理学療法の知識・技術を習得する。また、理学療法で広がりを見せている分野 (特に呼吸・循環・代謝、健康予防、スポーツ、地域ケアなど)、関連分野 (社会学、保健学、社会福祉学、生活環境学など) について包括的教育を実践する。</p> <p>2. 円滑で継続的 (連続的) な教育カリキュラム設定 1～4年の学年進行に沿い、基礎科目・専門科目・実習科目などが円滑に継続的 (連続的) に学習できるような履修配置をしている。1年次では「専門基礎分野」として基礎医学、基礎理学療法など、2年次では「専門分野」として臨床医学、理学療法関連専門科目など、3年次では「理学療法専門分野」として疾患 (障がい) 別の理学療法 (実習を含む)、理学療法研究関連など、4年次では「臨床総合分野」として総合臨床実習、理学療法管理理学、理学療法総合演習、卒業研究などを配置している。</p> <p>3. 初年度からの継続的な臨床 (現場) 体験ができる実践重視の臨床実習カリキュラム設定 臨床 (実践) 現場を継続的に経験・体験するために、各実習を1年次 (医療機関での見学実習)、2年次 (障がい児・者、高齢者施設での見学実習)、3年次 (医療機関での評価実習)、4年次 (医療機関での総合臨床実習) に配置している。</p> <p>4. 身体 (運動) 機能解析のための先端研究機器の整備 (活用) 3次元動作分析装置、筋活動解析装置、呼吸・循環機能解析機器など客観的解析 (分析) に必要な先端研究機器の整備 (活用) によって、研究活動への導入 (実践) を行う。また、その他のリハビリテーション関連機器、理学療法に必要な機器 (道具) を整備 (活用) する。</p> <p>5. 関連する他学科 (他職種) との相互理解と連携 関連する他学科 (他職種) と共通する科目履修や機会を捉えた交流体験 (学内・学外での社会活動、調査活動など) を通して、お互いの職種の相互理解と連携の場を多く設定している。</p>
診療放射線学科	<p>診療放射線学科では、高度に進化した医療機器を操作するだけでなく、チーム医療の一員として協働活動に責任感と使命感を持って参加でき、専門職として常に探求心を持って医療に関わることができる診療放射線技師を養成する、という教育目標、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。</p> <p>1. 豊かな教養を持ち、放射線診療を的確に遂行できる医療人を養成することを第一の目標とする。</p> <p>2. 理系出身者のみならず文系出身者にも配慮した専門科目教育を目指す。</p> <p>3. 1年次は基礎教養科目を中心として学習するが、専門科目も数科目配置する。また将来の目標職種である診療放射線技師の業務を理解し、国家資格取得に向けた学習のためのモチベーションを高めるため、早期体験学習として近隣の大学院の放射線診療施設を、白衣着用して医療人の視点から見学・学習を行う。</p> <p>4. 2年次からは、より専門的な検査学や診断学についての放射線専門科目を中心として学習する。</p> <p>5. 3年次は学内実習や放射線を利用した実験が中心となる。学内に設置してあるCT装置やMRI装置を実際に学生が操作して実習・実験を行うことで、さまざまな放射線診療の目的を理解するだけでなく、各診断装置の操作方法を習得する。さらに高度に専門的な学習科目も授業に加える。</p> <p>6. 3年次後半から4年次にかけて担当教官の指導の下に卒業研究を行い、課題発見・問題解決能力を養う。そして研究成果を口述発表することでプレゼンテーション能力を養い、さらには論文にまとめることで文書化能力を高める。</p> <p>7. 4年次には実際の医療現場である臨床実習先病院において8週間の臨床実習を行う。この実習を通して実際の医療現場を体験するだけでなく、患者接遇、医療事故防止のための対策、医療倫理等についても学ぶ。</p> <p>8. 学力不足の学生には別に特別講座を設けて指導し、学力向上を目指している。また放射線に関係する国家資格取得を希望する学生には専門の講座を開設し指導を行っている。</p>
臨床工学科	<p>臨床工学科は、医療と工学の連携を円滑に図るための基礎知識や技能の習得に加えて進歩する高度医療機器及び新技術への柔軟な対応能力を備えた臨床工学技士を育成するとともに、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。</p> <p>1. 1年次では、専門への導入のための知識と一般教養を身につけるための一般総合科目、専門性にとらわれない幅広い視野と、豊かな人間性の育成を目指すために、形態機能学、医学用語、医用工学、早期医療体験などの科目を配置する。</p> <p>2. 全学年を通じて、医学系と工学系を融合する臨床工学の専門的な知識を学ぶための科目、臨床実習のための科目を配置する。</p> <p>3. 2年次以降では高度医療や新技術へ対応するための技能・技術を高めるとともに、それらの実践力を養い、また主体性、創造力及び課題発見・解決能力等の育成を目指す科目を配置する。</p> <p>4. 2年次からの専門科目の演習・実習・実験においては、学生が主体的に研究・発表を行い、基礎的及び実践的な知識を修得しながら、臨床現場での対応能力、コミュニケーション能力や、問題解決能力、さらには共同研究の進め方など、社会及び医療で必要となる適応力を養う科目を配置する。</p> <p>5. 3-4年次では、研究室配属をすることで長期間にわたる研究を通して、主体的学習、課題発見・問題解決能力を発展させ、先進的医療機器や新技術の開発が可能な能力を養う機会を設定する。</p> <p>6. 4年次には、3年間学んできた基礎知識、専門知識及び実務技能をもとに、医療施設における臨床実習を実施し、医療の現場に触れるとともに総合的・実践的な能力を深められるようにしている。</p>

口腔保健学科	<p>口腔保健学科のディプロマ・ポリシーは、「歯科衛生士に必要な基本的・知識・技能・態度の修得に加え、高度化・多様化する歯科医療の現場や地域の医療・保健・福祉システムの中で他の専門職種と連携して口腔保健の専門職としての役割を担うための知識・技能・態度を修得する」などであり、これらを実現するために下記の教育を実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高い専門性を持つ歯科衛生士として必要な実践能力を確実に身につけるために、基礎分野、専門基礎分野、専門分野と段階的な履修配置とし、全学年を通じて講義・演習・臨地（臨床）実習の順序で系統的に学修できるカリキュラムを構築している。また、コミュニケーション能力及び問題解決能力等を高めるために参加型授業やPBL、小グループ討議などを多く取り入れている。 1年次は主として一般教養科目を配置し、豊かな人間性と社会人として必要な一般教養を身につける。1年次後期にアーリーエクスポージャーとして「口腔保健臨床実習Ⅰ（早期体験実習）」を幼稚園及び高齢者施設で実施し、3年次に行く同じ施設での臨地実習と連動させ、人の成長発育及び老化や死について学ばせる。1年次後期から2年次前期にかけて、専門科目を学ぶ上で基礎となる専門基礎科目を歯科衛生士学校養成所指定規則の教育内容に沿った形で編成している。2年次後期から3年次前期にかけて、歯科衛生士業務を実践するうえで必要な専門的知識・技能・態度を修得する科目を配置し、充実した学内設備で行うファントムを用いた基礎実習ならびに歯科診療ユニットを使用する相互実習などに多くの時間を当てている。また、「高齢者口腔保健衛生学」、「摂食嚥下リハビリテーション学」、「口腔介護学」及び「歯科医療リスク管理学」などは授業に演習も取り入れ、有病者や要介護高齢者等に対応するための知識・技能・態度を修得させる。食物栄養学科の教員が分担する「食生活指導論」では個人及び集団に対して食事指導ができる能力を養成する。3年次後期から4年次にかけて、学外の臨地（臨床）実習及び卒業研究を配置し、大学病院、一般病院、歯科診療所、高齢者施設、幼稚園及び学校等で実践的な技能・態度を修得させる。特に病院で行う実習では専門外来での歯科臨床、周術期の口腔ケア、NST（栄養サポートチーム）の業務等を見学・体験させ、現場での多職種連携を学ぶ。卒業研究では科学的思考及び判断力と問題解決能力を修得させる。 学内の関連する他学科との専門職種間連携教育や学内外での交流体験及び臨地実習などを通して、医療・保健・福祉の現場での多職種連携を体得できるよう設定している。
--------	---

【短期大学部】

生活科学専攻	<p>生活科学専攻は、「ものづくり（ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アート）」業界で働くための教養と基礎知識、そして業界別の専門能力を養成するという教育目的、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年次 <ol style="list-style-type: none"> 社会に必要な知識と教養を身につけるために一般総合科目と、キャリア能力を養成する講義科目を配置する。 専門能力を養成するうえで基礎知識となる、ライフスタイルを学ぶ講義科目を配置する。 専門能力養成の重要な基礎技能である、デザインスキルとカラースキルを養成する講義や演習科目を配置する。 ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各専門業界における基礎知識や基礎技能を習得する講義や演習科目を配置する。 2年次 <ol style="list-style-type: none"> ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各分野では制作技能の向上を図る演習科目を配置し、卒業制作展で発表している。 パティシエのため、食品に関する専門的な知識を修得する講義科目を配置する。 ブライダルコーディネートではブライダルファッションショーの開催という共同作業を通じて、ブライダル業界の知識修得のみならず、社会における基本的思考能力や状況判断能力を養成するようにしている。
生活科学科	<p>食物専攻は、栄養士・食のスペシャリストを養成するというディプロマ・ポリシー実現のため、次の方針で編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> 社会人に必要とされる幅広い教養を身につけるため一般総合科目を配置し、「文理学」で調理の基礎や食文化を学ぶ内容を設定している。 1年次は、食品・栄養・調理に関する専門的な知識を理解するため、前期に講義を中心とした基礎的内容を学習し、後期に実験・実習で検証するよう設定している。 学生が幅広く関心のある科目を履修できるよう、栄養士の基礎科目及び専門科目に加えて、食品関係資格に通ずる科目、教職に関する科目を設置し、アクティブラーニングを積極的に取り入れている。 2年次は、基礎から応用につながるような講義と実験・実習を取り入れ、卒業時に応用・実践力をそなえた栄養士を育成するため、系統立てた教育内容を実施している。 向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を身につけるため、食品や栄養学的な知識を基にした調理技術、ライフステージおよび疾病に対応した献立作成能力、食育を行える栄養指導能力をつけるなど、多様な実験・実習科目を提供している。 2年後期の「給食運営管理実習（臨地実習）」では、集団給食施設において、これまで学習した専門的知識と技術を統合するとともに、チームの一員として役割を理解し、協調性を持ちかつ主体的な行動がとれるような育成を目指している。 2. 教育評価 <p>学習成果は、各科目シラバスに到達目標と成績評価方法を明記し、それに基づいて到達度を評価する。またGPAを算出し、総合成績評価を行っている。</p>

保育科	<p>保育科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している保育者として必要な能力を修得するために次の方針で編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2年間で、全学生が保育士資格及び幼稚園教諭2種免許状を取得することができる。 社会人として求められる幅広い教養を身につけ、心身ともに健康な人間を育成するために、一般総合科目を配置している。 保育者の養成科目について、順序性を考慮し編成している。 子どもの心身の発達について広く理解し、支援について学ぶために、子どもの心身の発達に関わる科目を配置している。 保育者の役割と倫理について理解し、保育・教育の意義や内容・方法についての理解を深めるため、専門知識・技術の修得に関わる科目を配置している。 保育現場での課題を発見し、新たな課題に対し自主的に問題解決に取り組むことができる柔軟で創造的な思考力を持った人材を育成するために、実習科目、保育・教職実践演習（幼稚園）を配置している。 学生の主体性と協働性を養うことを目的とし、保育セミナー、おとぎのくに、ペンギンクラブ、子育て支援体験などの学科行事に参加・推進する機会を設けている。 個々の学生の個性を伸ばし、表現力を養うことを目的として「音楽」等独自の科目や「おとぎのくに」など対外的な行事を設けている。 社会の一員としての自覚を持ち、地域の人々と良好な関係が築けるよう、子育て支援のボランティア活動への参加を、キャリア教育の一環として推奨している。
言語コミュニケーション学科	<p>言語コミュニケーション学科のカリキュラムは、次に挙げるディプロマ・ポリシーによる要件に連動させながら編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 言語に対する分析的な視点を形成するため、また、自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めるため、専門教育科目のうち「言語とコミュニケーション」と「日本語表現法」の履修を奨励し、「英米文化論」、「英米文学」、「異文化間コミュニケーション」、「日本文化論」、「日本文学」などを専門教育科目の核として設置している。また、英語の基礎・実践的英語力の養成分野においては、「英会話」や「実践英語」などの専門教育科目群を設置している。 読み解く技術を習得するため、また、相手を説得できる表現能力を養成するため、「プレゼンテーション演習」などの専門教育科目を軸に、学んだ事柄の実践的な運用ができるような訓練を繰り返す。 チームで働く力を養成するため、また、将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立するため、主に「キャリアプランニング」、「観光論」などの専門教育科目群を設置し、社会人としての基礎力を養う。
音楽科	<p>短期大学部音楽科は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●音楽療法コース <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（2種）養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。 2. 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。 3. とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論Ⅱ」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準（AMTA Standards of Clinical Practice）にもとづき、1) 紹介と受け入れ、2) アセスメント、3) 治療計画、4) 実施、5) ドキュメンテーション、6) 終結、という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。 4. 2年次の「音楽療法実習」では、「事前指導」を配置し、教員および学生間による援助を大きく受けながら、地域の病院、福祉施設等の高齢者のニーズを特定し、グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。 5. 2年次の「音楽療法実習」において、地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し、プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより、自らの探求する力、また音楽療法を他者に伝え、説明する力を養う機会を創出する。 ●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次は、音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に、音楽に対する学修意欲を高めるため、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。また、幅広い知識を身につけるための「一般総合科目」を配置する。 2. 一部の演習系科目と実技系科目においては、習熟度別のクラス編成を行い、一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。 3. 全学年を通して、「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」において、基礎的な内容から専門的な内容の科目まで、順次配置する。 4. 中学校教員免許（2種）を取得するため、また音楽指導者を目指すための科目として、全学年を通し、「教育系科目」を順次配置する。 5. 音楽療法士（2種）を取得するための科目として、全学年を通し、「音楽療法系科目」を配置する。 6. 2年次修了時には、卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し、2年間の研究成果を評価する。 7. 「卒業演奏会」を開催し、卒業試験における成績優秀者には発表する機会を提供する。
商科	<p>商科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している能力を習得するために次の方針で編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ディプロマ・ポリシーを実現するために5つの科目群を配することで、履修科目が特定領域に偏ることなく、社会人に求められる幅広い知識を身につけることが可能となる。科目群は「教養」、「キャリア能力」、「コミュニケーション能力」、「実務能力」、「専門能力」の5つである。 各科目群における科目の配置は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> 「教養」科目群には社会人として弁えるべき話法、礼儀やマナー、情報の取扱の基本、生活を規律する基本的な法律を1年次の科目として配置している。 「キャリア能力」科目群は、入学後1年足らずで就職活動が始まることに鑑み、社会人としてのキャリア形成や人生設計を自らの力で方向付けをするための科目を配置している。 「コミュニケーション能力」科目群には、コミュニケーション能力を育む科目を配置している。 「実務能力」科目群には、簿記やパソコン、医療事務やビジネススキルに係る科目を配置している。これらの科目は、ビジネス社会で能力評価の参考とされることが多く、資格取得により到達レベルの判定が可能である。 「専門能力」科目群には、経済、商業・経営、および法律系科目を配置している。広い視野で物事を考え、柔軟な発想のできる人材養成に繋がると考えている。 <p>なお、簿記とパソコンはビジネスの幅広い領域で必要とされることが鑑み、一部を必修科目としている。また、経営学および経済学も、社会の現状を捉える際の基本的領域と判断し、一部を必修科目としている。</p>

(3) 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学の教育は、明治28年の学園創立以来、建学の精神「自立協同」に基づき、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしています。

【求める人物像】

- ①教育理念及び教育内容に共感し、強い学びの意欲を有する人
- ②知識や技能を修得するために必要な基礎的学力など、大学教育を享受する備えができている人

【入学者受入指針】

各学部・学科でその専門となる内容を学ぶためには、広い視野と知識が求められます。このため、高等学校等で幅広く基礎的な勉強に励み、大学の授業を受ける土台を身につけた人を求めます。また、入学者選抜では、学力のみでなく、調査書や面接等とおして、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、問題を発見し、自ら問題を解決する姿勢を評価します。

【大学院】

研究科名	専攻名	博士前期課程	博士後期課程
薬学研究科 (4年課程)	薬学専攻	/	<p>求める人物像 医療・医薬品開発現場の中心的役割を担える薬剤師もしくは研究者になることを希望する学生を求めます。探究心と向上心、研究能力を備えた薬剤師としての独創性、さらには医療人としての広い視野と高い倫理観を身につけ、医療現場で薬物治療の専門職として指導的役割を果たす薬剤師、ならびに医薬品開発の中心的な役割を担える研究能力を備えた薬剤師もしくは研究者になることを希望する人材及び、人類の健康増進に奉仕し、地域社会の発展に貢献する希望を抱く人材を求めます。</p> <p>入学試験の基本方針 英語（生物）、英語（化学）において、研究能力としての英語力を評価します。面接において、研究能力や倫理観、志望動機などを評価します。</p>
文学研究科	地域文化専攻	<p>文学研究科は、地域社会の創造的発展に寄与しうる学識と研究能力、学問的客観性を体得した人材の育成を目指しています。地域文化専攻には「文化と地域」「言語・文学と地域」の二つの研究区分があり、それぞれの研究領域において、特別講義と演習を設定し、上述の目的を達成すべく教育と研究に取り組んでいます。本研究科は、専攻分野に必要な知識及び語学力を持ち、地域文化に深い関心と熱意を持って意欲的に学術研究を進めようとする人を求めます。</p>	
工学研究科	システム制御 工学専攻	<p>教育・研究 工学研究科では、高度な科学・技術教育を行います。専門テーマに沿った実験・実習を通して、未知への挑戦を含めた研究・開発の実践的かつ理論的能力をつけることを目指します。</p>	
	ナノ物質 工学専攻	<p>求める人物像 今日の高度な科学・技術に興味を持ち、自ら進んで新しい科学・技術にかぎらず何事へも挑戦する気概と実行力のある人。</p>	
人間生活学 研究科	人間生活学 専攻	/	<p>求める人物像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間生活学（臨床人間学・食生活学・生活環境学）の研究の基礎となる豊かな学識を養い、高度な研究能力を身につけたいと希望する人。 ・人間と生活に関する高度専門職業人・研究者となり、学芸の進歩に貢献したいという意欲のある人。
	・食物学専攻 ・生活環境情報学専攻 ・児童学専攻 ・心理学専攻 (臨床心理学コース)	<p>求める人物像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間生活をとりまく食物学・生活環境情報学・児童学・心理学に関する高度の専門性が求められる職業を担うための、深い学識と能力を培いたいと希望する人。 ・各専門分野の理論と応用を研究し、学芸の進歩と創造に貢献したいという意欲をもつ人。 	

看護学研究科	看護学専攻	<p>看護学研究科は、地域の保健医療福祉に貢献できる高度な看護研究者・看護教育者・看護管理者および看護ケア提供者の養成を第一義的とすることから、実務経験を有する看護職者を積極的に受け入れることを基本方針とします。</p> <p>求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 博士前期課程で看護実践者、看護教育者、看護管理者として学ぶ意欲のある人 2 自分の関心のあるテーマを探究して修士学位論文を作成し、修士（看護学）の学位取得を目指す人 3 博士前期課程修了後、各自の領域において研究マインドを持って課題解決に取り組む意欲のある人 4 博士前期課程修了後、博士後期課程に進学する意志のある人 	<p>看護学研究科は、地域の保健医療福祉に貢献できる高度な看護研究者・看護教育者・看護管理者および看護ケア提供者の養成を第一義的とすることから、実務経験を有する看護職者を積極的に受け入れることを基本方針とします。</p> <p>求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護系教育機関における教育者・研究者として創造的に教育・研究を推進し、新たな看護学の知識体系の構築、開発に取り組む意欲を持っている人 2 チーム医療の中核的存在として学際的にマネジメントできる能力と高度な研究能力を発揮し、看護管理者として研究開発できる意欲を持っている人 3 看護実践のフィールドにおいて課題解決を推進する中心的指導力を発揮し、高度看護専門職を育成する意欲を持っている人 4 看護学の学問発展に向かって自律した研究者として挑戦的に研究に取り組む意欲を持っている人
総合政策学研究科	総合政策学専攻	<p>総合政策学研究科は、法律、行政、経済、金融、企業経営に関する高度な研究や、政策実施現場での経験を通じ、地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材を養成することを目的とします。</p> <p>そのため、地方公共団体等の行政部門で活躍しつつ、高度な問題解決力を身につけようとしている人、地域の民間部門で活躍しつつ、地域の持つ特性や課題を分析しながら、地域の発展を支えようとする人、社会科学系学部だけでなく、理系、人文科学系などの様々な分野の学部を卒業して多様な基礎的知識を身につけた学部学生を広く求めます。</p> <p>求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまで長期にわたり、地域の行政部門や企業組織で活躍してきて、その活躍の場で明確な問題意識をもち、その解決策を考案し、研究を志す人 2 地域の問題を明確に意識し、それを理論的知識と結びつけて、解決策を導く意欲をもつ人 3 政策の実現に必要なとなる分析力、思考力及び表現力などの基礎的学力をもつ人 	

【専攻科】

音楽専攻科	<p>求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学部教育における知識や技術、研究の上に立ち、より専門性の高い学修、研究と実践に努めようとする強い意欲を持っている人。 2 音楽専攻科で学修、研究した専門性の高い知識や技術、能力を生かし、社会における様々な音楽活動、音楽療法実践に対し積極的な参画をしたいと考えている人。
人間生活学専攻科	<p>人間生活学専攻科は、人間生活学専攻と児童学専攻の2専攻からなり、人間生活学専攻では生活科学及びその隣接領域を、児童学専攻では児童学の分野を、それぞれ精深な程度において研究し、時代・社会の変化に対応できる高度な専門性をもった人材を育成しています。また、人間生活学専攻においては、養護教諭の専修免許状と中・高の家庭科専修免許状、児童学専攻では幼稚園及び小学校の専修免許状を取得できます。</p> <p>求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各専攻における内容に関して、学士課程卒業に相当する知識・技能を修得している人を求めます。 2 幸せな生活の追究や、教育の改善等について、常に課題意識をもち、その解決に向けて意欲的に取り組んでいくことのできる人を求めます。
助産学専攻科	<p>助産学専攻科は、高度な専門的知識や技術を持った助産師を育成するため、学士程度の学力と看護師資格を有する学生を受け入れることを基本方針とします。</p> <p>求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育を学ぶ上で基礎となる学力を持っている人 2 お互いを尊重し、協力しながら主体的に行動できる人 3 豊かな人間性と社会性、倫理感性を持った人 4 生命の誕生に責任を持って真摯に向き合える誠実な人

【大学】

■人間生活学部

<p>6学科それぞれで、人間生活に欠かせない学問分野を専門的に学び、豊かな生活が創造できる実践的な専門家（管理栄養士、幼・小・中・高教員、保育士、情報処理士、建築士、認定心理士など）を養成します。</p> <p>1 学部の求める人物像 (1)各学科に必要な基礎知識を有し、それを生活や勉学で生じる疑問や課題の解決に応用することに興味・関心のある人を求めます。 (2)継続的な努力のできる強い意志をもつ人を求めます。</p> <p>2 入学試験の基本方針 教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。 一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。</p> <p>3 各学科の求める人物像、高等学校等で修得が望ましい内容</p>	
人間生活学科	<p>求める人物像 衣食住や保健、家庭、環境などについて専門的に学び、幅広い知識と豊かな教養を身につけた人材を育成します。「家庭科教諭」や「養護教諭」に加え「二級建築士」「上級情報処理士」「フードスペシャリスト」などの資格取得を支援します。そのため、人と生活に興味・関心があり勉学に意欲のある人、他者と協働できる人を求めます。</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 幅広い基礎学力をバランスよく身につけ、主体的に学ぶ姿勢や自分の考えを他者に伝える表現力を備えていること。</p>
食物栄養学科	<p>求める人物像 将来、ヒトの健康維持や疾病の予防・治療に貢献したい明確な意志と目標をもった管理栄養士を養成します。そのため、しっかりした基礎知識や能力を身につけ、学習に対する意欲や継続性、また協調性や柔軟性のある人を求めます。</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 「生物基礎」または「化学基礎」を修めていることが望ましい。</p>
児童学科	<p>求める人物像 豊かな人間性と確かな実践力に裏付けされた高度な専門性をもつ保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の育成をめざしています。そのため、次のような人を求めます。 (1)主体的に学ぶ姿勢と旺盛な探究心があり、専門的知識や技能の修得に積極的に取り組むことのできる人 (2)教職や保育職に強い関心と意欲があり、子ども一人ひとりに愛情をもち、子どもの思いに寄り添うことができる人 (3)周囲の人たちと豊かな人間関係を築くことができる人 (4)ボランティア活動の経験があり、人のために役立つことに喜びを感じ、社会への積極的な貢献に取り組む意欲のある人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 各教科の基礎的学力をバランスよく修得し、明確な目的意識や熱意があること。</p>
メディアデザイン学科	<p>求める人物像 メディアテクノロジーを活用して、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を身につけた人材を育成します。そのため、情報メディアの活用に意欲・関心がある人を求めます。</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要な基礎学力(特に国語、数学)を身につけていること。</p>
建築デザイン学科	<p>求める人物像 建築デザイン学科では、豊かな暮らしを求め、住まいに関する知識また技術を基に、建築・デザインに興味を持ち創造への意欲のある方、そのうえ自らの考えを的確に表現をすることのできる人物を広く求めています。また、建築士や設計士はもとより、宅地建物取引士や中・高の家庭科教員を目指すなどの意欲のある方を求めます。</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要な基礎学力(特に国語、数学)を身につけていること。</p>
心理学科	<p>求める人物像 現代心理学の知見に基づく科学的な知識と思考(冷静な頭)と、臨床心理学の基本である他者への共感的理解(温かい心)をもった人材を育成します。また、児童生徒の心理に強い「養護教諭」、高い専門性で社会に貢献する「臨床心理士」、国家資格「公認心理師」取得の援助を行います。そのため、人の心や社会とのつながりを大切にし、積極的・自主的に学ぶ意欲のある人を求めます。</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要な基礎学力(特に国語、数学)を身につけていること。</p>

■音楽学部

<p>1 学部の求める人物像 (1)音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人 (2)音楽あるいは音楽療法を深く学び、社会に貢献したい人</p> <p>2 高等学校等で修得が望ましい内容 (1)音楽の基礎的知識や能力を身につけていること。 (2)部活動やボランティア活動に参加するなど、音楽活動に積極的に取り組む姿勢を身につけていること。 (3)自分の考えを他者に伝える基本的な表現力を備えていること。</p> <p>3 入学試験の基本方針 さまざまな角度から受験者の資質、能力や将来性を把握するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。特に実技、面接などでは、個人のもっている能力の可能性を評価します。</p>	
--	--

■薬学部

1 学部の求める人物像

薬学部では、医療人として「くすり」の専門家を担う薬剤師を養成します。チーム医療で必要な多職種間連携を実践する人間力を育てるために、最新の薬学を勉強するとともに、豊かな教養と人間性を身につけ、地域や国際社会に貢献できる資質を備えることが重要であると考えています。そのために、密度の高い日々の学習や研究活動への参加をとおして、より深い基礎学力、研究マインド（課題発見能力と問題解決能力）、コミュニケーション能力を養成します。このような薬学部での取り組みに共感し、薬学部の勉学に取り組みたいと強い意欲をもっている人を求めます。

2 高等学校等で修得が望ましい内容

- (1)薬学部での修学内容に対応可能な基礎学力を、高等学校等において修得している。
- (2)課題や問題に対し主体的に対応できる能力をもっていること。
- (3)豊かな人間性、協調性、コミュニケーション能力を有し、将来において医療人として活躍する明確な意欲をもっていること。

3 入学試験の基本方針

さまざまな角度から受験者の資質、能力や将来性を把握するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。

■文学部

3学科でそれぞれ、日本文化、英語圏の文化及び日本の文化遺産に関する幅広い教養と専門的な知識を身につけた、応用力のある思考と行動ができる人材を育成します。「自立協同」の建学精神に則り、教員と学生あるいは学生同士が議論を交わし、主体的に学びを深めようと望む人を求めます。

1 学部の求める人物像

- (1)感性に富み、問題意識を豊かにもつ、積極性のある人
- (2)目標をもち、継続的な努力ができる人

2 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、人物像に見合う意欲のある多彩な人を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

3 各学科の求める人物像、高等学校等で修得が望ましい内容

日本文学科	<p>求める人物像 日本文学・語学に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 国語における古文と現代文の履修をとおして、日本の文学作品を味読・分析するのに必要な読解力と文法力を身につけていること。</p>
英語英米文化学科	<p>求める人物像 英語や英語圏の文化に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 英語の履修をとおして、リーディングやライティングに関する基礎的な力を身につけていること。</p>
文化財学科	<p>求める人物像 文化財や歴史・地理に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 日本史や地理などの履修をとおして、文化財や遺跡の成立の背景となる歴史的・地理的事実や資料を読み解くための基礎的な力を身につけていること。</p>

■理工学部

人や地球に優しい先端科学の知識や技術を修得し、理工学的基礎の理解に加え、応用分野の知識を備えた、実践的な科学者・技術者を育成します。

1 学部の求める人物像

- (1)自分の夢や目標をもち、継続的な努力ができる人
- (2)柔軟な発想力をもち、積極的な取り組みができる人

2 高等学校等で修得が望ましい内容

- (1)数学や理科の基礎科目を修めていること。
- (2)自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。

3 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

4 各学科の求める人物像

機械創造工学科	ロボットや自動車など、機械や電子制御に興味をもち、多くの仲間と協働作業をして「モノ」を作り上げることができている人を求めます。
電子情報工学科	電子・情報技術、電子回路、電気・電子機器、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア）に興味があり、ものづくりが好きで精力的に取り組める人を求めます。
ナノ物質工学科	バイオ・医療あるいはナノ材料・ナノデバイスに興味をもち、地球環境の維持に貢献したい人や、未知への探求と未来への創造に積極的に挑戦したい人を求めます。

■総合政策学部

1 学部の求める人物像

- (1)主体性をもって多様な人々と協同して学ぶ態度を有する人
- (2)これまでの生活のなかで、価値観や意見の対立を克服した経験などをもとに、社会科学の基礎的知識を用いた問題解決策を立案する能力を身につけたい人

2 入学試験の基本方針

求める人物像の主体性をもって多様な人々と協同して学ぶ態度と、①思考力・判断力・表現力等の能力、②知識・技能を総合して判定を行う。学力試験だけでなく、調査書、志望理由書(作文)などの資料、面接試験での応答などを試験種別に応じて組み合わせる。一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを重点的に評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価する。

3 各学科の求める人物像、高等学校等で修得が望ましい内容

総合政策学科	<p>求める人物像 将来、企業社会、公共分野、国際社会といった実社会の問題を解決するために、多様な価値観や考え方を知り、広い視野を有するゼネラリストとして活躍したい人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 (1) 思考力・判断力・表現力等の能力 ① 一定量の日本語または英語の文章を読み、筆者の考え方をくみ取ることのできる基礎的能力 ② テーマを与えられて、自分の意見を的確に、一定の時間と分量で論理的に記述する能力 (2) 社会事象を分析・記述するための知識・技能 ① 社会事象を分析・記述するために必要な「数学」・「簿記」の知識 ② 現代社会に生じている課題や現代社会を支える制度についての基礎的知識 ③ 社会問題の発見のための自然科学や人文科学の基礎的知識</p>
経営学科	<p>求める人物像 地域社会や様々な企業・団体等が抱える問題を解決するために、経営学の専門的知識技能を用いて、他者と協同し多面的・多角的な視点で取り組む能力を身につけたい人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 (1) 思考力・判断力・表現力等の能力 ① 一定量の日本語または英語の文章を読み、筆者の考え方をくみ取ることのできる基礎的能力 ② テーマを与えられて、自分の意見を的確に、一定の時間と分量で論理的に記述する能力 (2) 社会事象を分析・記述するための知識・技能 ① 社会事象を分析・記述するために必要な「数学」の知識 ② 現代社会に生じている課題や現代社会を支える制度についての基礎的知識 ③ 社会問題の発見のための自然科学や人文科学の基礎的知識</p>

■ 香川薬学部

<p>1 学部の求める人物像 今日の高度に専門化が進んだ医療に携わる薬剤師には、専門職として薬及び病気についての深い知識だけではなく、患者に寄り添う豊かな人間性と高い倫理観が強く求められています。先進的なチーム医療において「薬のスペシャリスト（専門職）」として貢献でき、病気の苦しみを理解して医療にあたることのできる薬剤師を養成します。知識、技能と医療の心を身につけ、地域に密着して活躍する薬剤師をめざすため次のような人を求めます。 (1) 意欲、探究心が旺盛で明朗な人 (2) 医療に対して高い倫理観をもち、薬学分野で貢献したいという強い志をもつ人</p> <p>2 高等学校等で修得が望ましい内容 (1) 幅広い知識を構築する基礎科目に加え、薬学の基盤となる理系科目を修めていること。 (2) 文章の読解・作成等に必要の言語能力、及び表現力を身につけていること。 (3) 知識を総合的に関連づけて問題解決する能力を有すること。</p> <p>3 入学試験の基本方針 2の修得が望ましい内容(1)、(2)、(3)の観点から総合的に判断します。一般選抜では、(1)の観点から、各教科の基礎が身につけていることを重視します。学校推薦型選抜では(1)、(2)の観点に、総合型選抜では(2)、(3)の観点に重点を置き、高い学習意欲と明確な目的意識を評価します。</p>

■ 保健福祉学部

<p>人々の健康と福祉の向上をめざす、質の高い、社会に貢献できる有能な専門家（診療放射線技師、臨床工学技士、歯科衛生士、理学療法士、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士など）を育成します。</p>	
<p>1 学部の求める人物像 高等学校等で幅広い基礎学力を身につけ、保健・医療・福祉に興味をもち、継続的な努力ができる人を求めます。</p>	
<p>2 入学試験の基本方針 教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。 一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。</p>	
<p>3 各学科の求める人物像、高等学校等で修得が望ましい内容</p>	
人間福祉学科	<p>求める人物像 (1) 社会福祉に関する興味・関心が明確であり、将来社会福祉の専門職として実践の場で活躍できる人 (2) 社会福祉の支援において、他機関連携が非常に重要となっていることから、他者との協調性に富んだ人 (3) 他者への思いやりを大切にし、他者の希望を実現するために、継続的な努力ができる人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 (1) 福祉の諸問題に対し関心をもち、社会の状況を理解し、思考してまとめようとする姿勢を身につけていること。 (2) 自分の考え方を相手に伝えられる基本的な文章力と口頭表現力等のコミュニケーション能力を有すること。 (3) ボランティア活動等の社会活動への積極的な参加経験があること。</p>
看護学科	<p>求める人物像 社会に貢献できる有能な看護職を育成します。そのために、生命に対する倫理観をしっかりともち、入学後も豊かな人間性や論理的思考力・問題解決能力を培うために主体的に学び努力ができる人を求めます。 (1) 人に対する興味・関心をもち、人の尊厳や権利を尊重し実践できる人 (2) 広い視野をもち、自分自身を向上させるよう努力ができる人 (3) 保健・医療・福祉の課題に関心を持ち主体的に多様な人々と協働して学ぶことができる人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 (1) 「国語・数学・理科・英語」等の基礎的な科目全般を修めていることが望ましい。 (2) 自分の考えを他者に伝える基本的な文章力を備えていること。</p>

理学療法学科	<p>求める人物像 社会に貢献できる有能な健康に関わる専門職(allied health profession)を育成します。そのために、次のような人を求めます。</p> <p>(1)人間が好きで、生命に対する「倫理観」を備えている人 (2)入学前の生活全般の中で「何を経験し、何を考え、何を得たのか、将来に何を求めているのか」などを自覚し、それを実践(実現)していこうとする人 (3)医学(医療)に対する関心が高く、リハビリテーション(理学療法)分野に貢献したいという積極的な「意欲・情熱」に基づく「使命感」を備えている人 (4)他者の意見を聞き、自分の意見を他者に伝えるという「意思疎通(コミュニケーション)能力」を備えている人 (5)意思疎通に関わるプレゼンテーション経験等を多くもつ人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 (1)数学・理科・英語の基礎科目を修めていること。 (2)部活動やボランティア等さまざまな活動に、自ら積極的に取り組んでいること。</p>
診療放射線学科	<p>求める人物像 日々大きく進歩を続けている医療技術に対応し、質の高い画像診断や放射線治療をめざし、さらにチーム医療に貢献することのできる診療放射線技師を育成します。そのために、次のような人を求めます。</p> <p>(1)人間に対する深い思いやりと豊かな人間味がある人 (2)たゆまぬ努力と地道な自己研鑽を重ねることができると持続力と忍耐力がある人 (3)他者の意見を聞き、協調して物事を進めることができるコミュニケーション力がある人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 (1)数学や理科の基礎科目を修めていること。 (2)自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。</p>
臨床工学科	<p>求める人物像 日々進化する高度な医療技術を提供できる「臨床工学技士」の養成をめざし、「自立協同」の建学精神のもと、チーム医療を実践できる医療人を育成します。そのために、次のような人を求めます。</p> <p>(1)人間に対する深い思いやりと豊かな人間味がある人 (2)明確な目的意識と旺盛な学習意欲、何事にも自分の意見を持ち、発言できる積極性がある人 (3)主体性をもって他者と協調・協力してあらゆる問題解決にあたり、関わりをとおして成長することのできる人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 (1)数学や理科の基礎科目を修めていること。 (2)基本的な思考力・判断力を持ち、自分の考えを他者に伝える文章力と表現力を備えていること。</p>
口腔保健学科	<p>求める人物像 人々の健康増進の担い手としての使命感をもち、修得した口腔保健に関する高度な知識・技術及び問題解決能力を、保健・医療・福祉等の現場で多職種と連携して発揮できる、福祉のマインドをもった専門性の高い歯科衛生士を養成します。そのために、次のような人を求めます。</p> <p>(1)歯や口及び全身の健康に興味をもち、歯科の病気の予防に貢献したい人 (2)「一生口からおいしく安全に食べること」を支える口腔保健の専門職に就いて、健康長寿に貢献したい人 (3)コミュニケーション能力と協調性のある人 (4)医療や福祉などに興味・関心をもち、その課題解決に貢献したいと考える人</p> <p>高等学校等で修得が望ましい内容 (1)国語や理科、英語の基礎科目を修めていること。 (2)部活動やボランティア等さまざまな活動に、自ら積極的に取り組んでいること。</p>

【短期大学部】

<p>1 学部の求める人物像 (1)人間に対する深い思いやりなど豊かな心をもつ人 (2)旺盛な学習意欲があり、継続的な努力のできる人 (3)明確な目的意識をもち、自分の意見を発言する積極性がある人 (4)主体性をもって他者と協調・協力してあらゆる問題解決にあたり、関わりをとおして成長できる人</p> <p>2 高等学校等で修得が望ましい内容 自分の考えを他者に伝える基本的な表現力を備えていること。</p> <p>3 入学試験の基本方針 (1)教科の履修と達成度を直接測る一般選抜 (2)教科の履修と達成度に加えて、思考力・判断力・表現力等を測る学校推薦型選抜 (3)体験授業をとおして、多くを学び取る能力を測る総合型選抜入試体験型 (4)何かに挑戦した実績と、その発表をとおして表現力を測る総合型選抜入試自己アピール型 (5)継続的な努力のできる能力を測る総合型選抜入試課題提出型 (6)資格を踏まえ、より高度な内容を学ぶ意欲と能力を測る総合型選抜入試資格利用型</p> <p>4 各学科・専攻の求める人物像</p>		
生活科学科	生活科学専攻	(1)感性が豊かで、表現することに強い興味・関心がある人 (2)パティシエとして創作の基礎とその美的センスを磨きたい人 (3)ブライダルやデザインなどに興味・関心がある人
	食物専攻	(1)人とのつながりを大切にし、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人 (2)健康や栄養、調理に興味・関心があり、食に関する学習に継続的に取り組むことができる人 (3)各種資格取得に励み、食の専門家をめざす人
保育科	(1)保育者をめざして努力できる人 (2)マナーを尊重し、他者とコミュニケーションをとりながら良好な人間関係を築くことができる社会性のある人 (3)子どもの保育及び教育に関心をもち、子どもに対し豊かな感性と温かい愛情をもって接し、人のために役立ちたい人	
言語コミュニケーション学科	(1)観光ビジネス業界、航空ビジネス業界などに興味のある人 (2)英語学習に興味のある人 (3)文学・音楽・絵画・動画などを通じた異文化理解に興味のある人	
音楽科	(1)音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人 (2)音楽あるいは音楽療法を深く学び、社会に貢献したい人	
商科	(1)社会で必要とされる各種資格取得に励み、就職に活かしたい人 (2)政治や経済などに興味・関心をもつとともに、自分の適性に相応しい進路を模索したい人 (3)他者とコミュニケーションを図り、良好な人間関係を築くことができる社会性のある人	

4. 就職状況

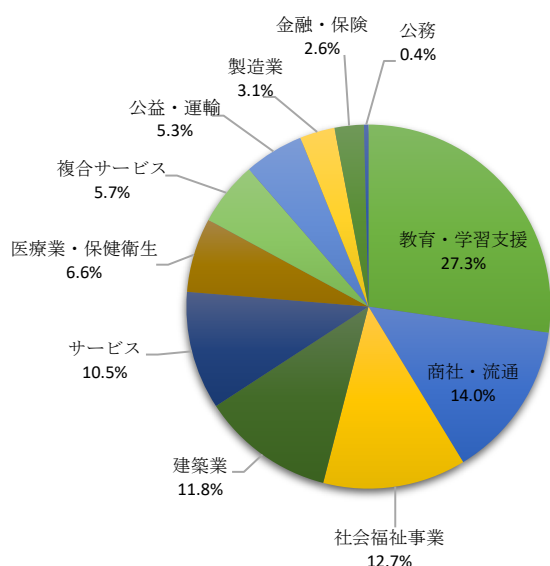
(1) 就職率

令和6年度卒業生	【大学】 98.6%	【短期大学部】 98.1%
令和5年度卒業生	【大学】 98.8%	【短期大学部】 98.1%
令和4年度卒業生	【大学】 99.0%	【短期大学部】 100.0%

(2) 学部別・業種別就職先

令和6年度卒業生（令和7年5月1日現在）

【人間生活学部】



■人間生活学科

愛媛県教育委員会、沖縄県教育委員会、学校法人唐子学園 唐子幼稚園、香川県教育委員会、高知県教育委員会、上板町役場、徳島県教育委員会、コーセー化粧品販売株式会社、コンサーン株式会社、株式会社Poppy、株式会社エコリース、株式会社スズキ自販徳島、株式会社テクノスモトキ、吉野川衛生有限会社、徳島県国民健康保険団体連合会、日亜化学工業株式会社

【進学】 鳴門教育大学大学院高度学校教育実践専攻科 等

■食物栄養学科

とよみ生協病院、医療法人すずき歯科、医療法人杏林会 北上駅前病院、医療法人協和会、医療法人社団正順会 イノルト整形外科、医療法人芯聖キースおとなこども歯科、医療法人仁和会 カナザキ歯科、医療法人明和会 たまき青空病院、社会福祉法人岡山博愛会 岡山博愛会病院、小豆島中央病院企業団、上島町立岩城小学校、徳島県教育委員会、社会福祉法人いづみ野福祉会、社会福祉法人大久保学園、社会福祉法人白寿会、社会福祉法人梁和会、株式会社コスモス薬品、株式会社ザグザグ、株式会社ドラッグストアモリ、株式会社レディ薬局、イオンリテール株式会社、エムサービス株式会社、リクロー株式会社、株式会社LEOC、株式会社さわ、株式会社東洋食品、協同食品株式会社、香川ヤクルト販売株式会社、日清医療食品株式会社、富士産業株式会社、株式会社 トラストィフード、asian relaxation villa 徳島店、かぶと興業有限会社、愛媛総合警備保障株式会社、株式会社 建匠、株式会社エム・エス経営企画（サンヨー薬局グループ）、株式会社マーキュリー、株式会社マックスガイ、株式会社四国銀行、株式会社秦商事、株式会社徳島大正銀行、香川県農業協同組合（JA香川県）、高島屋ファイナンシャル・パートナーズ株式会社、徳島トヨタ自動車株式会社 等

■児童学科

愛媛県教育委員会、沖縄県教育委員会、京都府教育委員会、香川県教育委員会、高知県教育委員会、寝屋川市教育委員会、神奈川県教育委員会、徳島県教育委員会、福岡県教育委員会、みらいく西大泉園、医療法人あさがお会 保岡クリニック論田病院、学校法人空華学園 なかざわこども園、学校法人原学園、学校法人松山学園 松山認定こども園星岡、学校法人村崎学園 徳島文理大学附属幼稚園、株式会社アインホールディングス、株式会社ニチイ学館、社会福祉法人 ハート福祉会 エクセレント羽ノ浦こども園、社会福祉法人 高須福祉会 高須保育園、社会福祉法人つくし福祉会、社会福祉法人ハート福祉会 エクセレント南部こども園、社会福祉法人もとしろ会 もとしろ認定こども園、社会福祉法人わかば会、社会福祉法人金光福祉会 光花保育園、社会福祉法人小羊会、社会福祉法人南但愛育会 くれよん、社会福祉法人菱野団地子どもセンター やまぐち保育園、社会福祉法人悠林舎 田宮シーズ認定こども園、社会福祉法人和田島福祉会 あいずみ保育園、西宮市役所（保育関連）、石井町教育委員会、大洲市役所（保育関連）、天理教婦人会 天理託児所、東かがわ市役所、特定非営利活動法人美千会 ぼかぼか保育園、豊中市役所、SMS いーちスクール、コンサーン株式会社、スマートキッズ株式会社、社会福祉法人育世会 児童養護施設淡路学園、エコトラスト株式会社、はしもと歯科、株式会社エイブル、株式会社コラボハウス、株式会社レオマユニティー、四国名鉄運輸株式会社、日亜化学工業株式会社、有限会社コラソン

【進学】香川大学教職大学院教育学研究科高度教職実践専攻、徳島文理大学大学院人間生活学研究科児童学専攻 等

■メディアデザイン学科

株式会社アイティ・コミュニケーションズ、株式会社魚伊、株式会社VRAIN Solution、株式会社エクストランス、エナジーサプライ株式会社、MXモバイルリング株式会社、コンピューターマネジメント株式会社、株式会社四国銀行、竹虎株式会社山岸竹材店、株式会社TOWATECHNO、株式会社NECT、株式会社ハローズ、株式会社ヨコタコーポレーション 等

■建築デザイン学科

株式会社阿波設計事務所、株式会社池下設計、ニタコンサルタント株式会社、株式会社新井組、株式会社鍛冶田工務店、株式会社合田工務店、白石建設工業株式会社、大旺新洋株式会社、株式会社大興建設、東建コーポレーション株式会社、西松建設株式会社、日本国土開発株式会社、株式会社増岡組、ライト工業株式会社、株式会社ヴィータ・デザイン、株式会社ウェルプラスハウス、株式会社 建匠、株式会社ケントホームズ、セキスイハイム東四国株式会社、有限会社南光、株式会社松島組、ヤマト住建株式会社、ライフデザイン・カバヤ株式会社、ハウスコム株式会社、株式会社明豊プロパティーズ、株式会社ランドネット、株式会社イタミアート、有限会社エヌ・ケイ・シー、株式会社テクノアーク、株式会社HAL、株式会社フェイスグループ、丸井産業株式会社、株式会社モスフードサービス西日本

【進学】崇城大学大学院 等

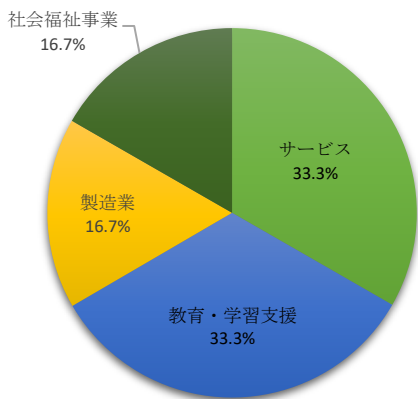
■心理学科

SOMPOケア株式会社、医療法人 佐伯皮ふ科・形成外科、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、株式会社 ミカリ、株式会社 東洋医研、株式会社アデランテ、株式会社高德、社会福祉法人田島童園、いの町教育委員会、愛媛県教育委員会、沖縄県教育委員会、学校法人村崎学園、株式会社わらべ館、香川県教育委員会、大分県教育委員会、兵庫県教育委員会、株式会社クラ・ゼミ、株式会社福崎インター自動車学校、KDDI Sonic-Falcon株式会社、ダイワロイネットホテルズ株式会社、ネットヨタ高松株式会社、リポット株式会社、一宮運輸株式会社、株式会社アカカベ、株式会社ウィルオブ・ワーク、株式会社エクストランス、株式会社ジェイテクトメタルワークス、株式会社タカヤ、株式会社ベルパーク、株式会社ホテルニューアワジ、株式会社マリーゴールドホールディングス、株式会社阿波銀行、株式会社丸和運輸機関、株式会社高知システムズ、株式会社高知銀行、株式会社石橋楽器店、香川県農業協同組合

(J A香川県)、高知県農業協同組合 (J A高知県)、三井住友海上エイジェンシー・サービス株式会社、三協商事株式会社、四国電気工業株式会社、徳島バス株式会社、有限会社 大島商事、有限会社T.O. FUTURE PLAN

【進学】香港理工大学大学院経営研究科、徳島文理大学大学院人間生活学研究科心理学専攻、鳴門教育大学大学院学校教育研究科人間教育専攻 等

【音楽学部】

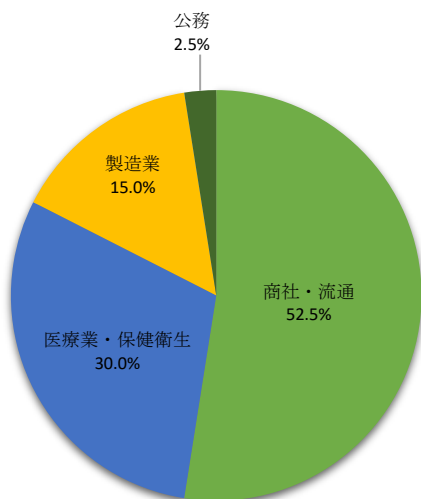


■音楽学科

徳島県教育委員会、株式会社理想実業、エポックワン有限会社、株式会社リーガル・ホープ、株式会社四国シキシマパン

【進学】徳島文理大学音楽専攻科器楽コース 等

【薬学部】

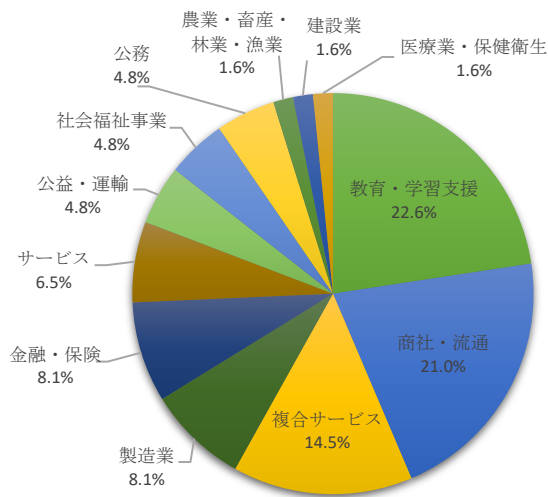


■薬学科

株式会社大塚製薬工場、大塚製薬株式会社、第一三共株式会社、帝國製薬株式会社、高知県・高知市病院企業団 高知医療センター、国立大学法人徳島大学病院、地方独立行政法人徳島県鳴門病院、徳島県庁、独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター、日本赤十字社 徳島赤十字病院、(公財)大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院、社会医療法人近森会 近森病院、医療法人倚山会 田岡病院、SMS GROUP (ひかり薬局グループ)、イオンリテール株式会社、株式会社Yell Pharmacy、株式会社アインファーマシーズ、株式会社アカカベ、株式会社アルカ、株式会社ウィーズ、株式会社クリエイトエス・ディー、株式会社サンコーファーマシー、株式会社サンドラッグ、株式会社スギ薬局、株式会社セガファーマ、株式会社ハッピーファーマシー、株式会社レデイ薬局、株式会社共生バックアップシステム、総合メディカル株式会社、ヒラオカ薬局株式会社

【進学】 徳島文理大学大学院薬学研究科 等

【文学部】



■日本文学科

愛媛県教育委員会、沖縄県教育委員会、学校法人三幸学園、香川県教育委員会、高松市役所、高知県教育委員会、兵庫県教育委員会、インシップス株式会社、うま農業協同組合 (JAうま)、キャスコ株式会社、学校法人村崎学園、株式会社トーカイ、株式会社四国シキシマパン、株式会社築地ばんや、香川県農業協同組合 (JA香川県)、四国興業株式会社、社会福祉法人琴浦町社会福祉協議会、晴れの国岡山農業協同組合、日本年金機構、龍泉寺 等

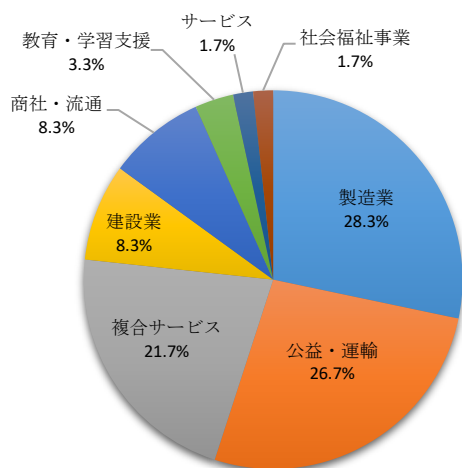
■英語英米文化学科

高松市役所、高知県教育委員会、独立行政法人国立病院機構 中国四国グループ、Bell tree株式会社、UTエフサス・クリエ株式会社、アラオ株式会社、ダイオエンジニアリング株式会社、株式会社mihaku、株式会社クスリのアオキ、株式会社ベルパーク、株式会社穴吹工務店、三菱重工株式会社、四国医療器株式会社、社会福祉法人長尾福祉会、朝日生命保険相互会社、日本エネルギー総合システム株式会社 等

■文化財学科

株式会社ネオピエント、葵機工株式会社、株式会社トラベルビジョン、株式会社村上製作所、株式会社麵棒、株式会社百十四銀行、株式会社四国銀行、株式会社伊予銀行、株式会社サクセス、倉敷市役所、株式会社IDOM、いすゞ自動車中国四国株式会社、株式会社サニックス、株式会社味のちぬや、株式会社アロートラストシステムズ、日本海ケーブルネットワーク株式会社、株式会社アグリ大和、株式会社エースワン、株式会社フジ 等

【理工学部】



■機械創造工学科

オーケー株式会社、株式会社カナック、株式会社タダノ、株式会社ヒューテック、株式会社マキタ、株式会社メイテックフィルダーズ、株式会社村上製作所、三井造船特機エンジニアリング株式会社、日本証券テクノロジー株式会社 等

■電子情報工学科

NDIソリューションズ株式会社、オークラ情報システム株式会社、テック情報株式会社、株式会社K・システムソリューション、株式会社SIG、株式会社アクセスネット、株式会社アット東京、株式会社インタークエスト、株式会社セリオラ、株式会社ソフテック、株式会社ユニーク、株式会社百十四システムサービス、三井E&Sシステム技研株式会社、株式会社デジタルテクノロジー四国、株式会社アルトナー、株式会社テクノプロ テクノプロ・IT社、株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社、株式会社フォーラムエンジニアリング、株式会社太陽技報堂、四変テック株式会社、大隆精機株式会社、東洋電装株式会社、廣瀬製紙株式会社、株式会社きんでん、株式会社鴻池組、株式会社四電工、三菱電機プラントエンジニアリング株式会社、株式会社アーク・ジオ・サポート、香川県教育委員会、日本郵便株式会社、クワハラ食糧株式会社

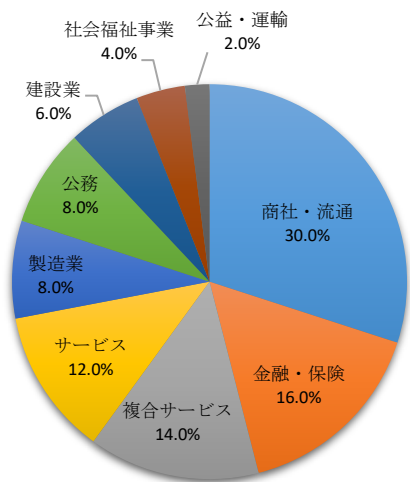
【進学】 神戸情報大学院大学、徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻 等

■ナノ物質工学科

SBペイメントサービス株式会社、イーウォレット株式会社、トヨタ自動車北海道株式会社、ニチエイステール株式会社、株式会社ヤマダホールディングス、株式会社吉田石油店、株式会社湘南ゼミナール、株式会社太陽技報堂、株式会社大一器械、合同会社ロジェ、讃岐化学工業株式会社、四国化工株式会社、瀬戸運輸株式会社

【進学】 徳島文理大学大学院工学研究科ナノ物質工学専攻 等

【総合政策学部】

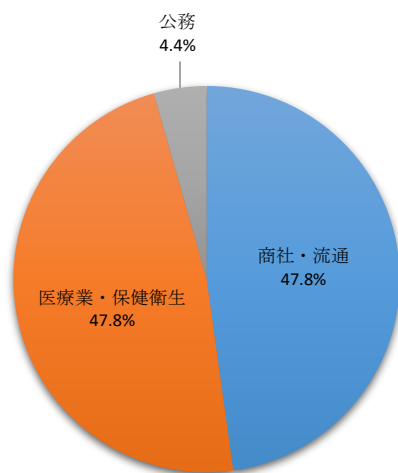


■総合政策学科

徳島県警察本部、徳島県庁、鳴門市役所、株式会社かんぼ生命保険、株式会社スリーエム、株式会社阿波銀行、株式会社高知銀行、株式会社徳島大正銀行、株式会社百十四銀行、税理士法人前田会計事務所、徳島信用金庫、サンコー株式会社、株式会社カネシロ、株式会社グリムス、株式会社メディック、株式会社大一器械、株式会社東名トスメック、喜多機械産業株式会社、大久保産業株式会社、株式会社アルス製作所、株式会社ケントホームズ、株式会社フジみらい、株式会社朝日工業社、株式会社エイブル、JLLリテールマネジメント株式会社、ALSOK大阪株式会社、インベントグループ株式会社、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社、マスエージェンツグループ、一般社団法人徳島県歯科医師会、株式会社DEITA、株式会社グラート、高知市農業協同組合（JA高知市）、社会福祉法人由寿会、東洋テック株式会社、日研トータルソーシング株式会社、日本郵便株式会社、株式会社スズキ自販徳島、西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）、一富士フーズサービス株式会社、株式会社クスリのアオキ、株式会社コスモス薬品、株式会社ハローズ、株式会社フジ、徳島トヨタ自動車株式会社、ホーネスト株式会社、株式会社ユキオー、株式会社社長峰製作所、日亜化学工業株式会社

【進学】 広島大学大学院人間社会科学研究科人文社会科学専攻 等

【香川薬学部】

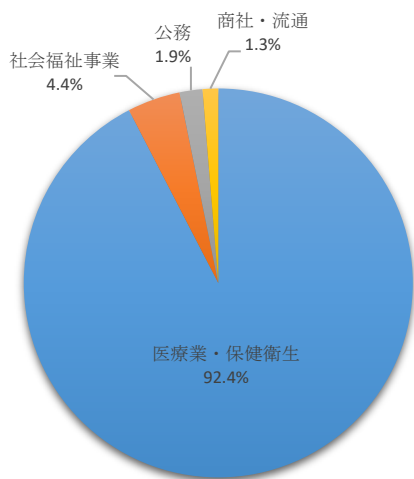


■薬学科

香川大学医学部附属病院（2名・国立）、高知大学医学部附属病院（国立）、香川県立中央病院（香川県職員）、国立病院機構 近畿グループ（国立）、三豊総合病院（2名・準公務員）、香川県済生会病院（社会福祉法人）、錦秀会病院（大阪）、大雄会病院（愛知・社会医療法人）、同愛会 博愛病院（鳥取・社会医療法人）、天馬会 チクハ外科・胃腸科・肛門科病院（岡山）、アインファーマシーズ、日本調剤、サンドラッグ、総合メディカル、イオンリテール、レデイ薬局（イオン・ツルハグループ 3名）、ホリスティック、南日本薬品、栗林公園前薬局 等

【保健福祉学部】

徳島キャンパス：人間福祉学科、看護学科、理学療法学科、口腔保健学科



■人間福祉学科

社会福祉法人池田博愛会、医療法人互生会 筒井病院、佐川町役場、株式会社ジンス、医療法人青松会、社会福祉法人徳島県社会福祉事業団、徳島県庁 等

■看護学科

国立大学法人大分大学 大分大学医学部附属病院、沖縄県立病院、香川県病院局、社会医療法人協和会 加納総合病院、神戸市民病院機構 神戸市立医療センター西市民病院、神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院、国立大学法人神戸大学 医学部附属病院、独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター、国立大学法人滋賀医科大学 医学部附属病院、(独)地域医療機能推進機構 りつりん病院、徳島県病院局、徳島市民病院、国立大学法人徳島大学病院、医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院、独立行政法人 国立病院機構 長崎病院、兵庫県立 西宮病院、町田市民病院、三豊総合病院、国立大学法人山口大学 医学部附属病院、医療法人尼崎厚生会 立花病院、医療法人倚山会 田岡病院、医療法人社団エミナル(エミナルクリニック)、(公財)大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 京都済生会病院、学校法人北里研究所 北里大学病院、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、学校法人近畿大学 近畿大学奈良病院、社会医療法人敬愛会 中頭病院、医療法人社団慈恵会 新須磨病院、医療法人湘美会 湘南美容クリニック、公益社団法人地域医療振興協会 東京ベイ・浦安市川医療センター、徳島健康生活協同組合 徳島健生病院、徳島県厚生農業協同組合連合会 阿南医療センター、徳島県厚生農業協同組合連合会 吉野川医療センター、医療法人徳洲会 中部徳洲会病院、西新町二丁目クリニック、日本赤十字社 大阪赤十字病院、日本赤十字社 高知赤十字病院、日本赤十字社 静岡赤十字病院、日本赤十字社 高松赤十字病院、日本赤十字社 徳島赤十字病院、日本赤十字社 松山赤十字病院、学校法人兵庫医科大学 兵庫医科大学病院、医療法人明和会 たまき青空病院、医療法人養生園 TAOKAこころの医療センター

【進学】徳島文理大学助産学専攻科 等

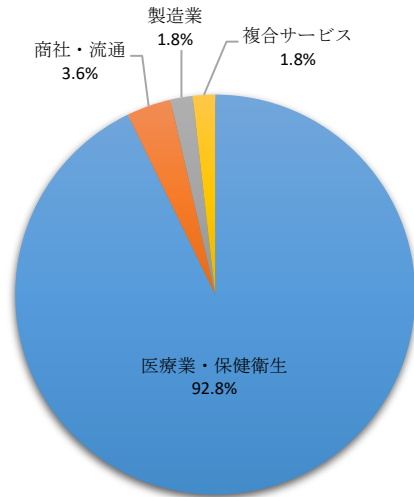
■理学療法学科

独立行政法人国立病院機構 九州グループ、独立行政法人国立病院機構 近畿グループ、独立行政法人国立病院機構 中国四国グループ、国家公務員共済組合連合会 高松病院、(独)地域医療機能推進機構(JCHO)、学校法人兵庫医科大学 兵庫医科大学病院、社会福祉法人愛心会 介護老人保健施設ロイヤルヘルスケア、ケアプラス株式会社、特定非営利活動法人どりーまサービス、社会医療法人養生園 リハビリセンターグリーンズ六、医療法人愛生会 兼松病院、医療法人社団淡路平成会 平成病院、医療法人倚山会 田岡病院、医療法人いちえ会 伊月病院、医療法人栄寿会 天満病院、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、医療法人社団KNI 北原国際病院、医療法人社団研宣会 広瀬病院、医療法人健和会 奈良東病院、医療法人三愛会 埼玉みさと総合リハビリテーション病院、医療法人慈愛会 梶浦病院、医療法人松風会 江藤病院、医療法人慈和会 吉田整形外科病院、医療法人仁寿会 石川病院、医療法人仁寿会 東洋病院、医療法人社団鎮誠会 季美の森整形外科、医療法人ひなた 末広ひなたクリニック、社会医療法人スミヤ 角谷整形外科病院、医療法人すまれ会 羽ノ浦整形外科内科病院、医療法人整形外科つばさクリニック、医療法人せいふう会 川西リハビリテーション病院、医療法人せいふう会 阪神リハビリテーション病院、医療法人清和会 協立病院、医療法人高川会 虹の橋病院、医療法人社団有史会 高島病院、医療法人道志社 小松島病院、医療法人徳寿会 鴨島病院、医療法人篤友会 関西リハビリテーション病院、医療法人ひまわり会 中洲八木病院、医療法人芳越会 ホウエツ病院、医療法人社団松本会 松本病院、医療法人社団明芳会 イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院、医療法人孟仁会 撰南総合病院、医療法人吉栄会 吉栄会病院、医療法人吉栄会 吉川病院、洛和会ヘルスケアシステム、医療法人社団和風会 橋本病院、モンドジャコモ株式会社 等

■口腔保健学科

医療法人隆盛会 たかしデンタルクリニック、倉敷医療生活協同組合、おおくぼ歯科、医療法人研富歯科医院、医療法人社団 英幸会 蒲田駅前歯科・矯正歯科、医療法人周健歯会 藤岡歯科、医療法人藍想会三谷ファミリー歯科クリニック、医療法人横山歯科医院、益井歯科医院、医療法人 みどりの歯科医院、倉敷医療生活協同組合、医療法人ぬまたデンタルクリニック、医療法人山本歯科医院、医療法人社団小西歯科医院 等

香川キャンパス：診療放射線学科、臨床工学科



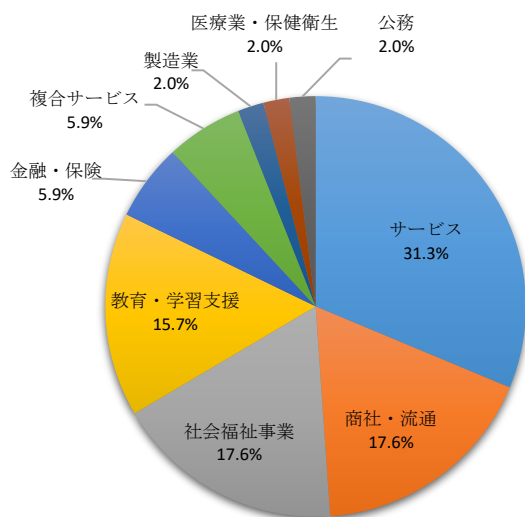
■診療放射線学科

国立大学法人岡山大学 岡山大学病院、国立大学法人高知大学 高知大学医学部附属病院、公立小浜病院組合、独立行政法人国立病院機構 中国四国グループ、日本赤十字社 高松赤十字病院、公立学校共済組合 四国中央病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 滋賀県病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 松山病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 中和病院、一般社団法人瀬戸健康管理研究所、やすはらクリニック、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、医療法人臼井会 田野病院、医療法人社団 宝樹みやの会 人工透析センター宮野病院、医療法人恕泉会 リハビリテーション病院すこやかな社、医療法人芳越会 ホウエツ病院、医療法人倚山会 田岡病院、社会医療法人近森会 近森病院、社会医療法人真泉会 今治第一病院、社会医療法人仁愛会 浦添総合病院、社会医療法人生きる会 瀬戸内海病院、社会医療法人同心会 西条中央病院、社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院、宗教法人在日本南ブレスピテリアンミッション 淀川キリスト教病院、特定医療法人財団竹政会 福山循環器病院、尼崎医療生活協同組合 尼崎医療生協病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、香川県病院局、徳島県病院局、徳島県立中央病院、市立柏原病院 等

■臨床工学科

IMSグループ（板橋中央総合病院グループ）、医療法人協和会、医療法人五尽会 岡山ハートクリニック、医療法人社団豊南会 香川井下病院、医療法人澄心会 豊橋ハートセンター、医療法人名古屋澄心会 名古屋ハートセンター、医療法人明和会 たまき青空病院、香川県厚生農業協同組合連合会 屋島総合病院、社会医療法人川島会 川島病院、静岡県厚生農業協同組合連合会 遠州病院、日本赤十字社 高松赤十字病院、日本赤十字社 成田赤十字病院、武田病院グループ、医療法人社団紀洋会 岡本病院、愛媛県立中央病院、香川県立中央病院、株式会社ムトウ、島津メディカルシステムズ株式会社、フクダ電子四国販売株式会社、株式会社サンメディカル、株式会社太子屋 等

【短期大学部】



■生活科学科生活科学専攻

MPH株式会社、オリエントホテル高知株式会社、株式会社イング、株式会社オンワード樫山、株式会社コーエン、株式会社コスモス薬品、株式会社セノン、株式会社メディビューティー、株式会社ワイ・ジー・ケー、株式会社温故知新、株式会社池田時計店、就労移行支援事務所 サスケ・アカデミー徳島 等

■生活科学科食物専攻

ミートショップ ふじおか、株式会社 双葉愛保育園、株式会社メフォス、株式会社東洋食品、株式会社日本ユニテック、日清医療食品株式会社、日本ゼネラルフード株式会社

【進学】徳島文理大学人間生活学部食物栄養学科 等

■保育科

ミアヘルサ株式会社、阿南市役所（保育関連）、一般社団法人 Miracle、株式会社木下の介護（木下グループ）、社会福祉法人 ハート福祉会 エクセレント羽ノ浦こども園、社会福祉法人 島田会、社会福祉法人かもめ福祉会 鴨島かもめ子ども園、社会福祉法人はつき会 さくら太田保育園、社会福祉法人蒼生会、社会福祉法人悠林舎 田宮シーズ認定こども園、社会福祉法人揺籃福祉会 幼保連携型認定こども園めだかのこころ、城南こども園、美馬市役所

【進学】徳島文理大学人間生活学部児童学科 等

■言語コミュニケーション学科

徳島健康生活協同組合 徳島健生病院

【進学】徳島文理大学人間生活学部心理学科 等

■音楽科

医療法人たかがわ 虹の橋クリニック、ヤマハミュージックリテイリング、株式会社四国舞台テレビ照明、株式会社ウェルフェア虹の橋、社会医療法人川島会 川島病院、社会福祉法人もみじ会、地域密着型介護老人福祉施設 くりのみ土居、徳島トヨタ自動車株式会社、株式会社Total Beauty FIRST

【進学】徳島文理大学音楽学部音楽学科 等

■商科

OKスポーツクラブ株式会社、SMS GROUP（ひかり薬局グループ）、TBCグループ株式会社、ルートインジャパン株式会社、株式会社グリーンエナジー&カンパニー、株式会社コスモス薬品、株式会社レンタルのニッケン、株式会社川六、株式会社徳島大正銀行、税理士法人マスエージェント、土佐くろしお農業協同組合（JA土佐くろしお）、東ビルエンタープライズ株式会社、徳島トヨタ自動車株式会社、徳島市農業協同組合（JA徳島市）、徳島信用金庫、防衛省 海上自衛隊

【進学】徳島文理大学総合政策学部総合政策学科 等

5. 管理運営の概要

(1) 管理運営

法人の管理運営は、「寄附行為」「理事会規則」「常任理事会規則」及び「評議員会規程」に基づき、適切に行っている。

大学の円滑な運営を図るため、学園本部、教学部門及び事務部門の連絡調整機関として部局長会を設置し、大学の運営に関する重要事項の審議及び連絡調整を行っている。教育研究に関する重要事項を審議する場としては合同教授会を設けている。また、各学部には教授会があり、教授会は教育研究に関する事項を審議するとともに、学長に意見具申を行っている。

本学は徳島キャンパスと香川キャンパス（高松駅キャンパス、志度キャンパス）を有しているが、効率化と負担軽減を図るため合同教授会にオンラインシステムを活用するなど、両キャンパス相互の連携・協力機能の保持に配慮した運営を行っている。

(2) 自己点検・評価

本学では、自己点検・評価について、大学全体として次のような取り組みを行っている。

教育と研究水準のさらなる向上をめざし、また、管理運営の健全化を図ること等を目的に平成4(1992)年7月、「自己点検・自己評価に関する規程」を制定した。平成19(2007)年10月、同規程を改定し、「自己点検・評価に関する規程」及び「自己点検・評価に関する細則」を設けた。これに基づき設置した自己点検・評価委員会を中心に自己点検・評価を実施し、教育研究活動ならびに大学運営の改善・向上に努めている。平成27(2015)年10月に、自己点検・評価実施委員会を立ち上げ機能的に自己点検評価活動を行っている。

第3期認証評価(平成30(2018)年～令和6(2024)年)においては、内部質保証を重点評価項目として自己点検・評価の実施が求められており、本学でも中間年にあたる令和3(2021)年度に自己点検・評価を実施した。自己点検・評価結果については、報告書にまとめるとともにホームページに公開している。また、令和5(2023)年度に、「自己点検評価書」の作成を行い、令和6(2024)年度には、自己点検・評価実施委員会が作成した「自己点検評価書」を自己点検・評価委員会で承認し、評価機関に提出した。

第4期認証評価(令和7(2026)年～令和13(2031)年)においては、内部質保証の機能性の向上が求められており、自己点検・評価実施委員会において新たな評価項目のチェックリストを作成して自己点検・評価を行うとともに、今後取り組むべき課題を明らかにした。

(3) 情報公開

情報の公開は、私立学校法第137条ならびに学校教育法施行規則第172条の2に基づき、財務、経営情報および教育情報を大学ホームページにより公表している。

財務情報については「財務情報の公開に関する規程」等を制定し、学園本部に備え置き、学内関係者やその他の利害関係者からの閲覧請求に対応するとともに、学内通信「徳島文理大学通信」に掲載している。

(4) 施設設備

本学は徳島市と香川県高松市及びさぬき市にキャンパスを展開している。

全てのキャンパスは校地・校舎ともに大学設置基準を十分に満たした面積を有している。耐震化は既に完了しており、施設設備の計画的な改修等を行い、適切な維持、管理に努めている。

(5) 認証評価

平成16(2004)年4月1日からすべての大学、短期大学及び高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、政令で定める期間(7年以内)ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関(「認証評価機関」)の実施する評価を受けることが義務付けられている。(学校教育法第109条第2項)

本学では、令和6(2024)年度に文部科学大臣が認証する公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、令和7(2025)年3月13日付で、「評価の結果、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定された。指摘された「改善を要する点」については、「改善報告書」を令和9(2027)年7月までに評価機関に提出する予定である。

また、徳島文理大学短期大学部は一般財団法人大学・短期大学基準協会から、令和7(2025)年3月14日付で、「徳島文理大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、適格」と認められている。

一方、分野別評価として、令和4(2022)年3月には保健福祉学部理学療法学科が一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査を受審して認定され、令和7(2025)年度にも審査を受けた。また、令和2(2020)年2月に、香川薬学部が一般社団法人薬学教育評価機構の6年制薬学教育評価を受審し、適合とされた。同じく、令和5(2023)年3月に、薬学部が一般社団法人薬学教育評価機構の6年制薬学教育評価を受審し、適合とされた。令和5年(2023)年度に教職課程自己点検・評価を行い、令和6(2024)年1月26日付けで一般社団法人全国私立大学教職課程協会より、事業の完了を認定された。

6. 中期目標・中期計画

(1) 計画期間

令和2年1月1日～令和8年3月31日

(2) 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部中期目標・中期計画

○育成する人材像

本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、次のような人物を育成することを目的とする。

大学は、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成する。

短期大学部は、一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し、中正穏健な人格を涵養するとともに、我が国文化の高揚と地域の発展に貢献する有為な人材を育成する。

大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、もって、文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することのできる人物を育成する。

項目	中期目標	中期計画
教育研究	○教育研究の質の向上	
	(1) 教育課程の体系化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの一体性、整合性が確保されているか検証し、必要に応じ見直しを実施します。 ・ディプロマポリシーに沿った体系的な教育課程を編成するため、ナンバリングおよびカリキュラムツリーの活用等による順次性のある体系的なカリキュラムへの改定を推進します。 ・本学に相応しい教養教育のあり方について検討を行い、専門教育とバランスのとれた教育課程を実施します。
	(2) 教授方法の工夫改善を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間履修登録単位数の上制限の適正化や、シラバスの記載内容の見直し、学生の事前事後学修の検証を行う等、単位の実質化を図ります。 ・安心できる教育を実現するため、FDの取り組みを強化し、教育内容および教育方法等の改善を行います。 ・総合大学の特性を生かした文理融合の教育を充実し、各学部学科間の交流の拡充に取り組みます。
	(3) 学修成果の点検・評価を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切かつ効果的な方法で情報を収集・把握し、学修成果の可視化を図ります。 ・国家資格を目指す学部・学科等において、国家試験の合格率を向上・維持します。 ・教員採用試験、公務員試験等を目指す学生が在学する学部学科等において、合格者数を増やすための指導を充実します。
	○教育研究環境の充実	
	(1) 教育研究組織を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的要請に積極的に応えるため、教学組織の見直しを随時行います。 ・本学の研究力の向上および研究活動の活性化を推進します。
	(2) 教育研究の施設設備を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の土地や施設を有効活用し、安全で快適な教育研究環境を提供します。 ・ファシリティマネジメントの体系的な推進を図り、教育研究施設の維持・管理を徹底します。
	(3) 研究活動を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費を含む外部研究資金確保に努めます。 ・研究活動にかかる不正行為防止に取り組むため、研究倫理を確立します。
	○大学運営組織の充実	
	(1) 入学定員を確保します。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の状況、高校生の進学希望等を見極め、各学科の魅力を発信することにより入学定員を確保します。 ・高校生・保護者・教員をはじめとするステークホルダーに興味関心を持ってもらうため広報活動の充実を図ります。
(2) 内部質保証を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究活動の質と学生の学修成果の水準等の内部質保証のため、自己点検・評価委員会を中心に自己点検・評価を推進します。 ・PDCAサイクルの仕組みを確立し、内部質保証システムを構築します。 	
大学運営		

項目	中期目標	中期計画
大学運営	(3) 学生支援体制を整備します。	・充実した大学生活のために入学前教育、新入生導入教育等の改善に取り組みます。
		・学生からの意見・要望を生かし、学修支援、学校生活、学習環境等の充実に取り組みます。
		・学生一人ひとりの多様なニーズに対応するため、学生の心身に関する健康相談、生活相談等に取り組みます。
		・学生一人ひとりのキャリア形成および就職活動支援の充実を図り、進路選択の満足度を高める取り組みを行います。
		・学業成績および人物が優秀な学生、または経済的に就学が困難となった学生等に対する奨学金制度を整備します。
		・図書館における学術情報資源を充実させるとともに、利用方法の周知など利用の促進を図ります。
大学運営	(4) 管理運営体制を整備します。	・円滑に大学運営業務を遂行するため、学内規程の整備を進めるとともに、大学に求められる社会的責任を果たすため、コンプライアンス体制を整備します。
		・大学運営に関わる教職員の知識および技能等の修得、ならびに能力および資質等の向上を目的として、SDを推進します。
		・組織の活性化を図るため、人材の流動性を高め、教職員の適切な配置を行います。
		・緊急時の危機管理等、幅広いリスクマネジメント体制の確立を図ります。
(5) 安定した財政基盤を確立します。	・安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保を図るため、中長期的な財務計画を設定します。	
(6) 広報活動を強化します。	・教職員との連携を密にし、多様な広報媒体により情報発信を図ります。 ・高等教育機関としての社会的説明責任を果たすため、教育研究活動等の情報の公表を促進します。	
入試制度	○入試制度改革	
	(1) アドミッション・ポリシーの検証を行います。	・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合性を図りながら、アドミッション・ポリシーにおける養成したい人材像や必要な素養について検証します。
	(2) 新しい入試制度を整備します。	・高大接続改革に対応した入試制度を構築するため、継続的な見直し・検討を行います。 ・アドミッション・ポリシーに即して、資質の高い学生を受け入れることができるように、入試選抜方法別に選抜方法の適切性を検証します。
国際化	○国際化の推進	
	(1) 海外大学等との連携を推進します。	・学術交流協定、高大連携協定等に基づく海外大学等との各種プログラム等を通じた連携を推進します。
	(2) 国際交流を促進します。	・学生にグローバル人材としての知力・感性を付与し得る環境と機会を提供します。このため、留学生の受入れを促進するとともに、海外留学・研修制度／留学相談の充実強化を図ります。 ・海外からの留学生受入れを促進するため、留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制を整備します。
ICT化	○ICT化の推進	
	(1) ICTによる教育・学修の支援を行います。	・学生が情報を適切に活用する技術を習得するとともに、情報モラルや情報に対する責任を持つ態度を身につけることに取り組みます。
	(2) 情報セキュリティ管理を行います。	・組織としての情報セキュリティ対策を確立します。
地域貢献	○地域連携の推進	
	(1) 地域社会との連携を推進します。	・多彩な教育・研究をともに行い、研究成果を社会に還元するため、産学官連携を推進します。
		・各キャンパスが地域の拠点として貢献できるように、地域連携事業を推進します。
・高校生の学習・進学に対する意欲向上、および大学の学びへの接続を目的として、高校生のための公開講座を充実します。		

(3)進捗状況

1)教育研究の質の向上

「自立協同」の建学の精神のもと、文化の創造と世界の発展に貢献することのできる人材育成を目指し次の取り組みを行った。

- ・総合大学の強みを生かして他学部他学科との相互連携を図り多職種連携講義を実施
- ・産学官連携による研究活動の拡充推進
- ・学生に対する教育の充実を図るための全学授業アンケート及び学修状況アンケート等の実施
- ・教育のさらなる質保証のため、f-GPA制度の活用
- ・学生の学修改善のための電子化した学修ポートフォリオの活用
- ・学習成果の可視化を図るため、卒業生にディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を発行
- ・学生の効果的な履修を可能とするため、年間履修登録単位数の上限を緩和

2)教育研究環境の充実

学生に高度な知識技術を身につけさせるため、教育研究を行うための頼りになる教職員組織、最先端の研究設備を整備するため以下の取り組みを行った。

- ・新規採用及び学科間・事務局内等の人材交流による教職員組織の整備
- ・SD推進基本方針に基づく校内外の研修会への参加促進
- ・施設設備の調査、効率的な資金配分による施設設備の整備
- ・施設設備の修繕・改修時期の明確化並びに施設設備の効率的運用・管理
- ・科学研究費を含む外部研究資金確保支援のための情報提供
- ・研究活動にかかる不正行為防止のための研究倫理の確立

3)大学運営組織の充実

急速に変化する時代や複雑化する社会からのニーズに対応した大学運営を行うとともに、学生が「安全・安心」に学べる環境を整備するため以下の取り組みを行った。

- ・令和6年度の認証評価の結果を踏まえた改善策の検討
- ・事前・災害発生時の危機管理体制を整備(危機管理マニュアルの改訂)
- ・公正・公平な業務遂行のためのコンプライアンス体制の整備
- ・財務基盤の確立と適正な会計処理の確立、経費削減の実施
- ・18歳人口の動向、社会のニーズや入学状況等を踏まえた入学定員の適正化
- ・積極的な本学の魅力発信のため、Webオープンキャンパス、HPやSNSを活用した広報活動の強化

4)学生支援体制の整備

学生からの学習、生活、就職における様々なニーズに対応した支援体制を整備するため以下の取り組みを行った。

- ・大学での学びに円滑に繋がる入学前教育、新入生導入教育の実施
- ・学生からの意見要望を生かしたより良い支援を行うための「学生生活に関する学長との懇談会」の実施
- ・本学独自の奨学金制度「徳島文理大学短期大学部修学支援制度」の導入
- ・在学中を通して就職活動を支援するキャリア推進プログラムの実施
- ・徳島キャンパスと高松駅キャンパス両図書館の連携による電子コンテンツの効率的な導入
- ・障がいのある学生への合理的配慮の提供への取組促進

5)国際化・ICT化・地域貢献の推進

複雑化する国際社会、急速に進展する情報社会で活躍する人材を育成するために国際化・ICT化を推進するとともに、地域の拠点として地域社会に貢献するために以下の取り組みを行った。

- ・国際社会での知力・感性を身につけることができる海外留学・研修制度の提供
- ・コロナ禍において導入したオンラインによる海外研修、交流のプログラムの継続・充実
- ・機能の充実とスマートフォンによる操作性向上のため導入した新学生ポータルサイトの検証改善
- ・新教職員グループウェアの導入による大学事務業務におけるICT化の推進
- ・高松駅キャンパスのBYODによる授業に関する教育効果の検証と改善
- ・地域の拠点として貢献するため、本学の教育力を活かした地域連携事業の推進

7. 特長ある取り組み

(1) 物価高騰等により経済的に困窮する学生への支援

1) 「100円朝食」「100円カレー」「50円うどん」の提供

物価高騰等により経済的に困難な状況に陥っている学生を支援するため、保護者会から支援をいただき、徳島・高松駅両キャンパスの食堂で「100円朝食」「100円カレー」「50円うどん」の提供を実施している。通常300円の朝食を100円、410円のカレーライス(ミニサラダ付き)を100円、210円のうどんを50円で提供している。



2) 無料コピー機による支援を継続

学生支援の一環として、学生支援課前に学生が無料で使用できるコピー機を設置している。令和7(2025)年度の使用実績は232,230枚であった。



(2) 教育活動

1) 新入生導入教育等

平成19(2007)年度より新入生導入教育として理事長、学長等による「文理学」を開講している。また、教育目標の達成のために、年度初めに学生に履修ガイド、要覧を配布するとともに、オリエンテーションを実施し、教育課程の編制方針、学生にとって卒業に必要な単位数、履修科目について説明を行っている。低年次に一般総合科目・専門導入科目の履修を取り入れた、くさび型の教育課程を編成している。また、先輩が後輩をサポートするSA (Student Assistant) 制度や学科教員が個別にサポートする担任チューター制度の充実を図っている。

2) シラバス

学生が授業科目・授業内容について、キャンパスガイド及びWeb上で公開されたシラバスにより常時確認できる体制を整えている。特に、学生に時間外学習を促すための授業形態と授業時間外学習の明示や学生からの相談に対応するための「オフィスアワー」記載、実務経験を活かした指導内容の記載など学生目線で分かりやすくするための内容を工夫している。また、作成においては、すべての教員に周知できるよう第三者によるチェック体制を構築している。

3) f-GPA

令和6(2024)年度よりf-GPA (Functional Grade Point Average) 制度を導入し、教育のさらなる質保証に努めている。

f-GPAは、各科目の成績(100点法)を0~4.5の数値(0.1点刻みの値:グレード・ポイントという)に置き換え、該当科目のグレード・ポイントにその科目の単位数を乗じて、その合計値を総履修単位数で除した値であり、学生は学修成果を総合的に判断する指標として、自分の学修到達度を客観的かつ的確に把握することができている。

成績通知書には、その学期に履修した科目のみについて算出した「当期f-GPA」と当該年度の「年間f-GPA」、入学後全ての学期で履修した科目について算出した「累積f-GPA」の3種類を記載する。学科ごとにf-GPAによる個別指導基準(学科・学年毎の下位1/4f-GPA値程度)を定め、成績下位の学生に対して指導・助言している。

4) クォーター制の導入

平成26(2014)年度から一部科目においてクォーター制を導入した。本学では、科目の特性によりクォーター制とセメスター制を併用している。クォーター制では、講義が週2回行われるため、学修に集中ができ、講義毎の理解度を向上させることができる。また、定期試験が分散し一度に行われる試験科目が減少するため、学生は一科目への取り組みを強化することができる。

5) ディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)の発行

令和4(2022)年度の卒業生(全学部・学科)から、ディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を学科ごとに発行し、学修成果の可視化を図っている。令和5(2023)年度からは社会人基礎力の測定を行っており、社会人基礎力育成の指導に役立っている。令和7(2025)年度からは1年次の早いうちから、ディプロマ・サプリメント(ディプロマポリシーの達成状況)をポータルサイトにて確認できるようにしたことで、学生の主体的な学びに繋げている。

6) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

文理を問わず全ての学生にこれからのデジタル社会において必要とされる「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的な知識や技術を身に付けさせるため、令和5(2023)年度から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」を大学、短期大学部の全学科において、さらに理工学部と人間生活学部において、応用基礎レベルのプログラムを実施し、令和6(2024)年8月に、リテラシーレベルと応用基礎レベルの両プログラムの認定を受けている。その後、令和7(2025)年度には自己点検・評価により理工学部と人間生活学部における応用基礎レベルのカリキュラムを見直すなど、本プログラムのさらなる充実を図っている。

7)3大学医療連携事業

本学が代表校となり平成20(2008)年度に採択された文部科学省戦略的大学連携事業「香川総合医療教育研究コンソーシアム」をさらに発展させた事業で、本学、香川大学、香川県立保健医療大学の3大学が連携して、地域に密着したチーム医療を实践できる高度な総合医療人の養成に継続的に取り組んでいる。令和7(2025)年度は、香川大学と徳島文理大学を結んでの遠隔配信授業や交互の学生の授業見学のほか、香川大学医学部を会場として学術交流会を実施し、教員の講演と各大学の学生による研究内容表を行い、交流を深めた。

(3) 研究活動

1) 特色ある教育・研究

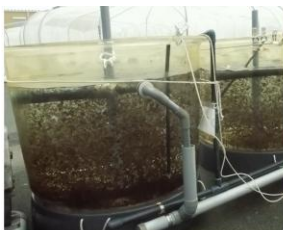
本学は科学研究費補助金、各種財団の研究助成金を獲得することを奨励しているが、それらの研究資金を補完するため大学独自の「学内競争資金制度」を有している。平成7(1995)年度より、若手教職員の育成、外部資金の獲得支援ならびに業務基盤の強化等を目的に、教職員を対象に学内公募を行い「特色ある教育・研究」に取り組んでいる。

令和7(2025)年度は、(1)学部・学科間共同による教育の充実(多様化する学生の意識と実態を踏まえ、退学防止に向けて学生の自立心・社会性・生きる力などを育成するための学部学科間共同による教育・学習方法等の改善並びに、学生の生活指導及び支援の取組など)、(2)共同研究事業(応募者が主体となって、学部・学科・研究科等にまたがるもの)あるいは学外(国内外の大学・産業界等)の研究者と行う共同研究)、(3)高大連携・地域活性化・社会貢献事業(高大連携、地場産業振興、社会貢献、学生と地域の協働企画など地域活性化・地域支援につながる取組など)に加え、新たに、(4)継続支援を要する事業(これまでの取組の中で、継続支援を要する事業)の4つの事業内容で学内公募を行い、合計45件の応募があった。厳正な審査の結果、それぞれ1件、8件、12件、3件の合計24件が採択された。

また、令和7(2025)年9月11日(木)に全学発表会を開催し、令和6年度終了研究者による研究成果が口頭発表された。さらに、終了研究者の中から参加者による投票により優秀研究を選出し、2件の研究が表彰された。

2) 特別研究事業：藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション

「藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション」の活動は、令和7(2025)年度、社会実装に向けて大きく前進させることができた。これまで取り組んできたあおさ海苔の陸上養殖に加えて、絶滅危惧1種のアサクサノリにおいても新規培養技術(単孢子分化誘導法)の開発に成功し、試験養殖レベルながらも、世界に先駆けて陸上養殖できることを実証した。次年度(令和8年度)内には、データと研究知見を整えて、徳島県と共同で記者発表する予定である。また、これまで継続してきた海藻養殖に関わる一連の活動は、持続可能な食料生産技術に繋がる研究事業として高く評価され、大阪・関西万博のベストプラクティスの受賞に加えて、令和7(2025)年10月に開催された関西パビリオン期間にも特別講演する機会を頂戴し、国際メディア(The Japan times)等でも紹介された。その他、海藻養殖に関わる研究は、食科学分野における優れた研究業績として、安藤スポーツ・食文化振興財団から令和8(2026)年3月に第30回安藤百福賞優秀賞を受賞した。



アサクサノリ陸上養殖試



大阪関西万博テレビ取材



安藤百福賞授賞式

3) 特別研究事業：大豆の水耕栽培

令和7(2025)年4月に大豆の国内使用実績最大手のマルコメ株式会社と共同研究協定を締結し、旧志度キャンパスを活用して大豆の水耕栽培という新たな農業技術(アグリテック)の開発を開始した。養液条件の最適化と植物成長ホルモン制御技術を応用することで生殖成長効率を向上させ、露地栽培と比較して最大約3倍の収量増加を完全無農薬条件で達成した。本研究は、その後、徳島県が主宰する「徳島イノベーションHUBプロジェクト」に採択され、徳島発の先端農業技術として社会実装に向けた検証を進めている。本研究は大豆の安定供給と国内自給率向上に資する持続可能な生産モデルとして期待され、令和7(2025)年11月には、徳島県に訪問された内閣府特命担当の黄川田仁志大臣をはじめ内閣官房地域未来戦略局の方にも本研究を説明する機会を頂戴した。今後は自然交配による大学独自のブランド品種を開発を目指すと共に、栽培規模を拡大し四国発の新たな大豆生産技術として社会実装に繋がりたいと考えている。



マルコメ株式会社と共同研究協定

大豆水耕栽培試験

内閣官房地域未来戦略局会議

4) 徳島文理大学薬学部の研究者が世界トップ2%科学者にランクイン

薬学部には、世界の科学コミュニティにおいて高い影響力を持つ研究者が複数在籍している。今年公開された研究インパクトを示す国際的な基準の一つ「世界のトップ2%の科学者リスト」に、本学から以下の教員が選出された。これは、日々の研究活動が世界水準で評価されていることを示す非常に名誉ある成果である。

・浅川 義範 教授 (生薬研究所)

天然物の化学的探索と機能性物質の研究を長年にわたり継続してきた第一人者。

特に蕁苔類(コケ植物)に含まれる天然化合物の構造解析や生理活性評価において、多数の国際論文と53か国での国際学会特別講演、10回の国際賞受賞実績がある。

・深田 俊幸 教授 (病態分子薬理学研究室)

必須微量元素である亜鉛に着目し、細胞機能や免疫、骨代謝などの生命現象を分子レベルで解明する研究を長年にわたり展開してきた研究者。亜鉛トランスポーターの異常による病気を発見するなど、亜鉛の研究分野で国際的に高い評価を受けている。

・吉田 昌裕 教授 (薬化学研究室)

精密有機合成と反応機構に立脚した反応開発を通じて、複雑分子の高効率合成法を確立し、創薬研究に資する新規合成戦略の創出を目指している。



浅川教授



深田教授



吉田教授

5) LED点滅光を使ったワカメの栽培促進

理工学部ナノ物質工学科アグリバイオ研究室は、世界で初めて、星あかり程度の明るさで、特定の時間周期で強度が変動している光(特殊光)が、植物の生育を促進することを見出し、その仕組みを明らかにした(Maeda et al., Journal of Physics and Chemistry Research 6(2), 2024(172))。当研究室では、この結果を用いて、プランクトンなどの微細藻類の高性能育苗装置を実用化している。

今回、新たに、徳島県水産課と共同で、徳島県産ワカメ陸上育苗試験をおこなった。その結果、特殊光を育苗期間にのみに照射することで、苗の葉長が無照射に比べて1.9倍に伸長することを確認した(図1左)。次に、陸上育苗を屋外水槽に移して、太陽光のみで2か月養殖した。その結果、無照射に比べて、ワカメの全長は1.9倍、重量は6.7倍と、さらに大きく成長した。徳島県内のワカメ水揚げは、近年の海水温度上昇により減少傾向にある。今回の結果は、特殊光を用いた陸上育苗工程がワカメの増産に効果があることを実証し、藻場の再生など海洋環境の保全にも応用できることを示したものである。今後は、徳島県水産課と共同で、ワカメ陸上育苗技術の徳島県内普及を推進して、ワカメ増産に貢献していきたい。

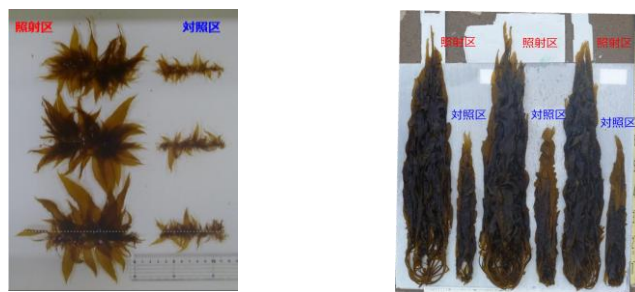


図1 食糧増産光によるワカメの生育結果。
育苗終了時(左)と陸上養殖2か月後(右)
(写真提供：徳島県水産研究課)

(4) 教職員の職能開発

1)FD(Faculty Development)

平成19(2007)年度にFD(Faculty Development)研究部会を設置し、学生の声を授業の改善に反映させることを目的に平成20(2008)年度後期から年2回、全学授業評価アンケートを実施している。平成21(2009)年度より卒業生予定者を対象とした大学生生活満足度アンケートを実施し、授業改善をはじめ大学生生活全般についても改善に向け取り組んできた。なお、令和元(2019)年度からはWeb上でアンケートに回答できるよう改善を行い、名称も全学授業アンケートと変更した。令和7(2025)年度は、FD研究部会を5回開催し、高松駅キャンパス移転にもなって在学生対象・学修状況アンケートと大学生生活満足度アンケートの質問事項の改善を行った。また、全学FD研修会では「シラバスの役割、作成、そして授業改善への実践ガイド」の動画を視聴し、授業改善に役立てた。

2)SD(Staff Development)

高等教育機関としての教育機能の質的向上を支援するため、SD推進委員会(3月)のもと年度計画を立て教職員等の能力開発等の研修を実施している。令和7(2025)年度は、新任教員研修会(4月)、防火・防災管理委・自衛消防隊合同研修会(8月)、全学防災訓練(11月)、全学SD研修会(1月)、ハラスメント防止委員・相談員合同研修会(8月)、人権教育・ハラスメント講演会(2月)などを実施した。

3)四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)

平成20(2008)年度の文部科学省戦略的・大学連携支援事業としてスタートしたSPOD(四国地区の35の高等教育機関が加盟)に参画し、FDとSDという2つの事業の効率化、高度化、実質化を行い、教育の質の保証を図り、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的な力量をもった高等教育のプロフェッショナルの育成に取り組んでいる。

(5) 学生支援

1)入学前教育

総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試合格により、早くから本学への入学が内定している高校生を対象に、学習意欲の維持、高校レベルの学習の貫徹を目的に、一般総合科目の教科書、参考書、書籍等の配布、レポート提出等を実施し、e-ラーニング学習補助教材も導入している。さらに、学科の教員に個別相談ができるようメールアドレスを発行している。これらの取組は、入学後に必要となる文章読解能力やレポート作成能力を助け、大学に入学する心の準備を促している。

2)学習ポートフォリオの電子化

本学では、従来の紙媒体ではなく、電子化学習ポートフォリオを導入し、学生のモチベーションと学修到達度を高める体制を整えている。ここでは、学生が自宅等での学修やアルバイト等に費やした時間も調査して分析し、担任やチューターによる指導に役立てている。

3)学生と企業等との交流会

就職活動が早期化する中、新規卒業予定学生の就職促進を図るため、昨年度に引き続き「学生と企業等との交流会」を令和8(2026)年1月31日(土)及び2月1日(日)に開催した。今年度は会場を徳島キャンパスの体育館とし、高松駅キャンパスの学生も合流する形式とした。

1月31日は一般企業を中心に140社の事業所が出展され、徳島・高松駅両キャンパス合わせて303名の学生が参加した。2月1日は病院・薬局等を中心に71の事業所が出展され、両キャンパス合わせて208名の学生が参加した。出展事業所数、参加学生数ともに昨年度を大きく上回ることができた。

(6) 国際交流

本学は、アメリカの有名なマサチューセッツ工科大学と協定を結んだ日本で最初の大学である。以来、教員の国際交流がいろいろな学術領域で活発に行われている。

同様に、本学は、日本でも早期に音楽療法を導入した。これに際しては、音楽療法の先駆者であるマイケル・ローバッカー博士に師事した教員が教育に当たっている。また、ローバッカー博士は定期的に来日し、特別講義やモデルセッションの直接指導を行っている。

これらの国際学術交流を基に、現在、北米各地、欧州、オセアニア、及び、アジア各地の32大学と大学間の学術交流協定を結び、留学生の受け入れ、共同研究などの交流を積極的に推進している。

学生が将来真のグローバルセンスを体得するためには、大学時代からの人材教育が最も重要であると捉え、語学研修・異文化体験を目的として海外留学の機会を積極的に提供してきた。特に、令和6(2024)年度からは中山医学大学との学科間交流プログラムを開始するなど、学生の専攻に直結した留学機会の確保にも取り組んでいる。

また、新型コロナウイルス感染症禍に代表されるような交流活動実施の危機においても他大学に先駆けて正常化を図るなどに取組んだ。さらに、コロナ禍で渡航が困難になったことをきっかけに導入したオンラインによる海外研修、交流のプログラムについては留学プログラム催行後も、継続実施している。

また、本学で受け入れている留学生を主対象とした史跡・文化研修を企画しており、特に令和5(2023)年度以降、1泊2日で美波町の日和佐八幡宮の例大祭に参加し、地域住民との交流を行っている。このプログラムについては、日本人学生も参加し学生間の交流活動としても成果を挙げた。

各プログラムの令和7(2025)年度の状況は、以下のとおりであった。

1) 主な国際交流研修等

① 派遣

(7) カナダ・ランガラ大学夏期英語短期留学

カナダの協定校であるランガラ大学が、8月の約3週間に実施している英語・異文化理解研修。研修中はカナダ人家庭でホームステイを経験し、英語力のみならず国際理解の精神を養う。令和7(2025)年度は本学から6名の学生が参加した。

(4) 韓国・檀国大学校夏期短期留学

韓国の協定校である檀国大学校が、8月の約3週間実施している韓国語・韓国文化研修。本学学生は多様な国々の学生と共に参加する。研修中は檀国大学校の学生寮に滞在し、各国の学生と生活を共有する。令和7(2025)年度の夏期短期留学に8名の学生が参加した。

(9) オーストラリア・グリフィス大学夏期及び春期英語短期留学

8月及び2月から3月にかけての約2週間又は約3週間、オーストラリアの協定校であるグリフィス大学で英語・異文化理解研修を実施している。グリフィス大学の5つのキャンパスのうち、ゴールドコースト校でホームステイをしながら、各国の学生と共に英語を学びながら英語力のみならず国際理解の精神を養う。令和7(2025)年度は夏期8名、春期5名の学生が参加した。

(5) ウィーン国立音楽大学(Isa-INTERNATIONAL SUMMER ACADEMY)

オーストラリアの協定校でウィーン国立音楽大学が主催する演奏指導プログラムであり、一時、中止されていたが、令和7(2025)年度に再開された。音楽学部の学生2名が、参加費本学負担で派遣された。

(8) 中山医学大学秋期短期留学

9月の約1週間、近傍のホテルに滞在し、中山医学大学学生や近傍に所在する高大連携校新民高級中学の生徒と交流を実施した。令和7(2025)年度は1名が参加した。なお、このプログラム実施時期は、口述する看護学科等の学科間交流と合わせている。

(6) 中山医学大学看護学科・理学療法学科研修プログラム

令和6(2024)年度から開始した中山医学大学との学科間交流プログラムで、派遣については9月の短期留学と同じ時期に計画した。令和7(2025)年度は看護学科2名、理学療法学科8名が参加した。

(3) 中国・広東省外語芸術職業学院 秋期中国語短期留学

令和元(2019)年度に新設した、広東省外語芸術職業学院における中国語・中国文化研修。研修中は同学院の学生寮に滞在し、中国の学生と交流する。新型コロナウイルス感染症収束後、再開したが令和6(2024)年度、令和7(2025)年度と2年連続応募者がおらず未催行となった。

(7) 韓国春期短期留学

韓国の協定校である檀国大学校が、2月の約10日間実施している韓国語・韓国文化研修。本学学生は多様な国々の学生と共に参加する。研修中は檀国大学校の学生寮に滞在し、各国の学生と生活を共有する。令和7(2025)年度は応募者がおらず未催行となった。

(ク)台湾・淡江大学春期中国語短期留学

台湾の協定校である淡江大学が、3月の約2週間実施している中国語・中国文化研修。令和7(2025)年度は応募者がおらず未催行となった。

(コ)台湾・義守大学春期短期留学参加者

3月の約4週間、台湾の協定校である義守大学の学生寮に滞在し、中国語学修及び学生交流を行う留学である。令和7(2025)年度は2名が参加した。

(カ)香港・香港伍倫貢学院(旧香港城市大学専上学院)春期英語・中国語短期留学

香港の協定校である香港伍倫貢学院、2月～3月の約10日間実施している英語及び中国語研修。令和7(2025)年度は応募者がおらず未催行となった。

(シ)令和7(2025)年度交換留学(韓国檀国大学校及び水原大学校)

令和7(2025)年3月から12月に韓国檀国大学校及び水原大学校にそれぞれ1名、計2名を派遣した。

②オンラインプログラム

(7)台湾中山医学大学オンライン台湾留学

台湾中山医学大学と本学学生の2日間交流のプログラムであり、令和8(2026)年2月に計画したが応募者がおらず未催行となった。

コロナ感染症禍に開始して以降、常に10名以上の参加者がいたにもかかわらず、応募者なしとなった理由は、それまで8月に計画していたものを2月に変更した結果と推定される。令和8(2026)年度については、8月に計画するとともに、9月の派遣プログラムとも一部連動させ、より意味をもたせたプログラムにする予定である。

(イ)フィリピンSDGsオンライン海外研修

現地のストリートチルドレン支援のNGOの報告、ゴミ山問題の現地中継レポートや現地のオンライン家庭訪問を行うほか、現地学生との意見交換会を企画している。また、このプログラムの一部(現地学生との意見交換会以外)は、人間生活学科2年必修の「コミュニティデザインⅡ」、言語コミュニケーション学科選択・児童学科の教員免許中二種(英語)取得希望者の必修「異文化間コミュニケーション」の一部として利用している。令和7(2025)年は9月に実施し19名が参加、うち1名が授業外の参加であった。現地学生との意見交換会については希望者が5名未満であったため実施に至らなかった。

③受入

(7)中山医学大学学科交流プログラム

台湾中山医学大学との学科交流プログラムとして、7月6日間、看護学科及び理学療法学科が6名ずつ計12名を、12月4日間、人間福祉学科が4名の学生を受け入れた。授業の見学・一部聴講参加に加え、看護学科では病院見学、人間福祉学科では施設見学なども計画した。なお、人間福祉学科の交流プログラムは、今回の受入が最初であり、派遣については令和8年度に計画実施することとしている。

(イ)夏期日本語・日本文化研修

毎年、7月の10～14日間、台湾及び韓国並びに香港及びイタリアの交流協定校より留学生を受入れ日本語・日本文化研修を実施している。徳島キャンパスにおいては、台湾及び韓国の協定校を対象に大学生コースと高校生コースを開催している。令和7(2025)年度は、高校生コースについても実施した。徳島キャンパスでは、大学生10名(韓国6、台湾4)、高校生30名(韓国10、台湾20)、高松駅キャンパスでは、2名(イタリア)を受け入れた。

(ウ)令和7(2025)年度交換留学

以下のとおり受け入れた。

令和7(2025)年度前期、台湾義守大学から1名、台湾中山医学大学から1名、広東省外語芸術職業学院から6名、韓国檀国大学校から2名

令和7(2025)年度後期、台湾義守大学から2名、台湾中山医学大学から1名、台湾逢甲大学から1名、広東省外語芸術職業学院から2名、韓国檀国大学校から2名

④海外からの受入れおよび海外派遣

令和7(2025)年度(留学生の数は、5月1日現在)(人)

		大学	短大	計	備考
ア)学生受入	留学生	63	0	63	
	招致学生	78	2	80	短期研修を含む
イ)海外派遣	学生	48	1	49	
	教員	0	0	0	

令和6(2024)年度（留学生の数は、5月1日現在）（人）

		大学	短大	計	備 考
ア) 学生受入	留学生	67	0	67	
	招致学生	62	4	66	短期研修を含む
イ) 海外派遣	学生	33	5	38	
	教員	0	0	0	

令和5(2023)年度（留学生の数は、5月1日現在）（人）

		大学	短大	計	備 考
ア) 学生受入	留学生	77	0	77	
	招致学生	54	2	56	短期研修を含む
イ) 海外派遣	学生	30	2	32	
	教員	0	0	0	

2) 留学生文化・史跡研修

従来、日帰りのバス旅行として史跡研究を実施していたが、令和5(2023)年度から、一泊二日で日和佐八幡宮の例大祭に本格的に参加するという形式で実施している。令和7(2025)年度は、学生19名、うち留学生15名、日本人学生4名が参加した。

例大祭では、男子学生は「ちょうさ」と呼ばれる太鼓台の担ぎ手として、また女子学生は子供神輿の引手・担ぎ手として地域住民とともに参加した。このプログラムにより、留学生は日本の伝統的な文化を体感するとともに、過疎地域における伝統文化の継承にかける地域住民の思いにふれ、直面する課題を理解するなど、貴重な機会となった。

(7) 地域・社会貢献

大学における地域・社会貢献と言え、まず人材育成、とりわけ地元社会に貢献できる人材を育成することである。したがって、ただ単に地元イベントを提供するという姿勢だけでは不十分だと考えている。地域・社会貢献は、目的であると同時に、学生を育むための手段として位置づけられるべきである。すなわち、当初は教職員が何らかの誘導を行うものの、やがて学生たちが自ら学び育つ、つまり地域・社会貢献が学生の成長の場となることを意識している。

1) 地域連携センターの主な活動

① 地域学

地域の魅力を知り、課題を発見し、その解決能力を身につけた人材育成を目的として実施している。

- (ア) 今後の学びや研究、活動の推進を目的として徳島キャンパスの1年生全員に、前年度に顕著な地域貢献活動を行った本学学生による「地域貢献取組発表会」、広島大学大学院歯科診療医による「私の考える地域貢献」と題した講演会などを実施した。
- (イ) 今後の学びや研究、活動の推進を目的として高松駅キャンパスの1年生全員に、さぬき市津田地区を拠点として地域の活性化に取り組んでいる株式会社ゲンナイ代表取締役による「まちづくりとローカルキャリア」と題した講演会を実施した。
- (ウ) 地域の方々との交流を行うことで、地域活性化やまちづくり・創業などについて学ぶ、地域学スタートアップコース「万代中央ふ頭フィールドワーク」、「文化の森博物館探訪!」「徳島市のまちづくり探訪!」と地域学アドバンストコース「徳島市中心市街地で防災×文化×SDGsを体験しよう!」を実施した。
- (エ) 徳島の活性化や魅力の再発見を目指し、徳島を再考・再興・最高・最幸にするための活動を学ぶ、とくしまサイコー塾「アスリートのセカンドキャリアで地域を元気に」、「徳島の食文化シラス編」、「学生団体編」を実施した。
- (オ) 地域連携活動を行う「レインボーの会」等の取組を支援している。香川県警の「防犯キャンペーン活動」や「防犯パトロール」、高松市の「学習支援活動」などに取り組んだ。

② 防災・減災

- (ア) 地域と考える防災講座「東日本大震災の教訓から考える、地域と個人の防災力」を実施し、地域住民や学生が参加した。
- (イ) 災害時に車いすを使用する要配慮者等を安全に避難場所へ移動支援ができる技術を身につけることを目指し、「車いす避難サポーター養成講座」を徳島県・和歌山県で実施し多くの学生及び一般受講者の避難活動における意識の高揚につながった。
- (ウ) 平成27(2015)年度からスタートした減災科学プロジェクトは、国際的地震学者や能登半島地震の水循環開発者などを講師に迎え、学生や一般の方の聴講によるセミナーの開催や三好市「ウマバSDGsアカデミー」において、レトルト防災備蓄食品の開発などについて、企業や行政などの聴講生を対象に学生が活動発表を行った。

③ 自治体等との連携

- (ア) 徳島県消費者協会と連携した消費者生活啓発講座の実施、徳島県生活環境部と連携し、消費者まつりへのエシカル消費とジビエ料理に関するパネル展示及び「あおサブレ」の試食ブース出展、徳島国際消費者フォーラム2025へのアオサノリの陸上養殖、エシカル消費とジビエ料理に関するパネル展示などを行い、消費者生活の啓発を行った。
- (イ) 「上板町STOPフレイル! With徳島文理大学」を上板町と連携して開催し、理学療法学科、口腔保健学科、人間福祉学科、音楽学科音楽療法コース、短期大学部生活科学科食物専攻が講演や体験活動等を行い地域の健康啓発に努めた。
- (ウ) 徳島県大学連携課との連携により、「とくしま政策研究センター委託調査研究事業」では、保健福祉学部が「こども家庭ソーシャルワーカー」指定研修を開講し、専門人材の養成を行った。また「大学・地域連携課題解決フィールドワーク事業」では、学生が鳴門市のコワーキングスペース視察や移住者へのインタビューを通じ、将来の働き方を考える活動を行った。
- (エ) 徳島県文化の森総合公園内にある3施設(県立博物館、県立近代美術館、県立鳥居龍蔵記念博物館)の常設観覧料が無料となる「徳島県キャンパスメンバーズ制度」を平成30(2018)年度より実施しており、令和4(2022)年度64人、令和5(2023)年度74人、令和6(2024)年度138人、令和7(2025)年度112人が利用した。
- (オ) 高松市健康づくり推進課との連携により、健康問題に関する知識を身につけ、プレコンセプションケアについての知識を深めることを目的として、「おとな力アップ講座」を開催し、学生・教職員が受講した。

- (カ) 高松市との連携協定により、高松市長と学生との意見交換会（まちづくりタウンミーティング）に学生29名が参加し、市の政策について提案や要望等を行った。また、サンポート高松・中央通り等一斉清掃や高松クリーンデーなどの美化活動に学生・教職員が参加した。
- (キ) 土庄町との連携協定により、瀬戸内海タートル・フルマラソン全国大会の運営補助員として、令和5(2023)年度7人、令和6(2024)年度7人、令和7(2025)年度14名の学生が参加し、参加賞の受付やゴールでの給水などを行った。
- (ク) 東かがわ市域学連携事業の一環として、相生ふるさと協議会及び本町コミュニティ協議会のイベントに学生・職員が参加し、物品販売や和菓子作りなどを行った。
- (ケ) 栗林公園、県立ミュージアム、玉藻公園などの公共施設に無料で入園・観覧できる「香川県キャンパスメンバーズ制度」及び「高松市キャンパスメンバーズ制度」に加入しており、新入生セミナーなどで活用した。「高松市キャンパスメンバーズ制度」は、令和6(2024)年度93人、令和7(2025)年度437人が利用した。
- (コ) 大学・地域共創プラットフォーム香川主催「産学官連携交流会～なんがでつきょんな香川」において、「地域課題を産学官で考える」をテーマにした自治体のプレゼンテーションや懇親会に学生・教職員が参加し自治体や企業等との交流や情報交換を行った。

④ 他大学等との連携

- (ア) 「とくしま産学官連携プラットフォーム」に参画し、高等教育機関の魅力の共同発信、高校生への共同講義、共同でのFD・SDの開催等を実施した。
- (イ) 「コンソーシアムとくしま」に参画し、遠隔授業コンテンツの作成、単位互換科目受講生の募集、就業体験型インターンシップへの参加等を実施した。
- (ウ) 「大学・地域共創プラットフォーム香川」に参画し、進学・教育部会幹事として高等教育機関の魅力の共同発信、保護者を対象とした合同大学等説明会、共同でのFD・SD研修の開催等を実施した。
- (エ) 「海外大学とのオンライン交流事業」において、「持続可能な未来へつなぐ、エシカル消費の“実践”～「宣言」から「提言」へ～」をテーマに、昨年度作成したハンドブックの実践状況の報告とエシカル消費の達成度向上に向けた、各国の現状及び解決策についての意見交換を行い、個人や社会が取り組むべき課題等について、消費者庁長官に提言を行った。
- (オ) 高松駅キャンパスでの大学祭「文理祭」を活用して、県内大学等で学ぶ外国人留学生や日本人学生を対象とした「国際交流会」を実施し、本学生7人が参加してお茶席体験やグループワーククイズなどを通して親交を深めた。
- (カ) 香川県内の小学生等を対象とした講座を令和元(2019)年度から「徳島文理こども大学」として実施しており、令和7(2025)年度は他大学・短大と連携して、高松駅キャンパスの6学科が「香川わくわく子ども大学」として8講座を開講し、親子78組（小学生85人、中学生7人）が参加した。

⑤ 公開講座等

- (ア) 地方創生を担う人材育成を目的とした公開授業(集客交流産業論)や思春期ピアカウンセラー養成講座を実施し、地域住民及び本学学生が受講した。
- (イ) 地域と考えるSDGs講座「ロールモデルカフェ～キャリア形成を考えよう～」、「音楽でつながろう！ひびきあうせかい」及び「子どものウェルビーイングとひびきあう」を実施し、地域住民及び本学学生等が受講した。
- (ウ) 地域貢献の推進を図ることを目的に「地域連携型出張講義プログラム」を実施しており、本学が有する人的資源及び教育・研究を広く地域の学校に還元し、地域の学校に有用な情報を発信している。令和7(2025)年度は78講座を実施した。

2) 茶道文化貢献賞

幼稚園から大学院までを擁する総合教育機関である村崎学園では、日本の伝統文化に触れる機会を教育の重要な柱と位置づけ、幼稚園年長児は週一回のお茶のお稽古、小学校では全校児童による全校茶会、中学校・高校・大学では部活動を通して茶の湯を情操教育の一環として幅広く展開し、園児から大学生までが礼儀作法や豊かな心を育む環境を提供している。

こうした取り組みを通して、茶道文化の普及と継承に熱心に取り組んでいる点が高く評価され、「茶道文化貢献賞」の受賞に至った。授賞式は令和7(2025)年11月14日に京都市内で執り行われ、裏千家の千宗室家元より、村崎学園の功績が讃えられた。

村崎学園は、今後も心豊かな人材の育成を目指し、地域社会への貢献とともに茶道文化の普及に尽力していく。



3) 徳島音楽コンクール

第17回徳島音楽コンクールを令和7(2025)年10月11日(土)に徳島キャンパスにおいて開催した。本コンクールは、音楽学習者の能力を育み、さらに音楽に対する理解と関心を高めることを目的に、会長本学理事長、顧問徳島県知事、徳島新聞社理事社長をはじめとする本学実行委員会が主催し、徳島新聞社共催、徳島県と四国放送の後援により毎年開催している。審査部門は、ピアノ、声楽、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、電子楽器、邦楽器の8部門で、今回は全国から195人(組)の参加があった。また11月8日(土)には、むらさきホールにおいて「徳島音楽フェスティバル」を開催し、各部門の全金賞受賞者が演奏した。審査の結果、グランプリ1名、徳島新聞社賞1名、部門最優秀賞6名、未来賞1名を選出した。



4) 高大接続セミナー2025

高大接続改革の一環として、高校生に大学で学ぶ学問の魅力に触れてもらうことを目的として開催している。令和7(2025)年度は、徳島・高松駅両キャンパスで7講座を開催し、50名の高校生や保護者が参加した(前年度は15名)。また、新たな取組として、高校1年生の参加を促進するため「文理選択はどう決める? 文系・理系を考える際のポイント」と題した講座を開講し、保護者に向けては日本学生支援機構奨学金の概要やポイントを詳しく解説する説明会も開催した。今後は、高校生が思考力・判断力・表現力などを育み、主体的な学びにつながるようセミナーの内容を検討したい。また、重要なステークホルダーである保護者の動員もはかれるような取組も充実させていきたい。



5) 『UNIVAS』 大学スポーツプロモート優秀取組賞

本学が企画した「徳島文理大学キッズスポーツフェスタ2025 マルチスポーツ体験会」が『UNIVAS AWARDS 2025-26』の「大学スポーツプロモート優秀取組賞」部門において、優秀賞を受賞した。本受賞は、四国地区の大学では初受賞となる。

令和7(2025)年12月20日(土)に、本学の体育館で開催したこのイベントは、地元の3つのプロスポーツ団体と連携し、ジュニアコーチや元選手を招き、サッカー、野球、バスケットボールの複数種目を一日で体験できるというプログラムであった。公募した小学1年生から3年生までの男女79名が参加し、各種スポーツを体験した。

本学の体育会系学生が主体となり、受付から競技指導まで積極的に取り組み、参加した子どもたちからは、「お兄さん、お姉さんと遊べて楽しかった」という喜びの声があった。今回のイベントを通じ、地域における本学の役割を再認識するとともに、学生にとっても貴重な社会貢献の機会となった。



6) 学内ライトアップ

平成18(2006)年度から、地域の住民の方に大学に親しみを持ってもらい、地域と共に発展する大学となることを目的に、キャンパス内をLEDによるイルミネーションでライトアップしている。令和7(2025)年度は教職員と学生による点灯式を12月1日に高松駅キャンパスで、12月5日に徳島キャンパスで行った。点灯後は高松駅キャンパスでは、軽音フリーミュージック部による演奏、ダンス部によるパフォーマンス、徳島キャンパスでは、音楽学部の学生やダンス部、沖縄県人会によるパフォーマンスで盛り上がった。徳島キャンパスでは約27万球のLEDがむらさきホール前のメインストリートを中心に、高松駅キャンパスでは約3万球のLEDが公開空地を中心に1月末までキャンパスを彩った。長年この催しを行っているので認知度も上がり、この時期の観光スポットになっている。冬を楽しもうと多くの一般客がキャンパスに足を運んでくれた。



7) とくしまボランティアパスポート

令和8(2026)年2月4日、徳島キャンパス学長室において「とくしまボランティアパスポート(中級編)」を修了した学生7名に学長から表彰状が授与された。この制度は、本学と徳島県が連携して、『次代を担う人材の育成と若者の社会参加の促進に資すること』を目的に平成28(2016)年4月から始まり、今年で10回目となる。今回の表彰は学生の皆さんが入学後、県内各地域でボランティア活動に積極的に取り組み、累計80時間以上ボランティア活動に参加したことが認められての表彰となる。

8) 全学地域清掃ボランティア活動

「ゴミゼロの日全学地域清掃ボランティア活動」を令和7(2025)年5月30日、12月1日の2日、授業が始まる8:00から8:40までの時間、徳島キャンパス内とその周辺道路、歩道で行った。早朝にもかかわらず、学生、教職員100名以上で活動した。「掃除をすることで、気づく人になれる」という側面も期待される。



9) 徳島C保健福祉学部・薬学部：「わくわく子ども大学」

小学生から医療分野に触れ将来の職業選択の一助となるように、わくわく子ども大学を開催した。医療系の保健福祉学部（看護学科、理学療法学科、人間福祉学科、口腔保健学科）と薬学部が合同でイベントを行った。応募のあった小学生の親子35組に対して、大学教員と大学生、フレイルサポーターが一丸となって、子どもたちの学びたいを大切に、楽しく職業体験できる機会を設定した。子どもたちの将来の夢につながる学びの場となることを目指して、引き続き開催していきたい。



10) 『障害者の生涯学習支援活動』に係る文部科学大臣表彰

音楽学部音楽学科音楽療法コースが、令和7年度文部科学大臣表彰「障害者の生涯学習支援活動奨励活動表彰」を受賞した。

本コースは徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターと協働し、とくしま共生アートプロジェクト推進事業のひとつとして、音楽療法の視点を活かした以下の活動を行っていることが評価された。

①ローバッカー名誉博士夫妻の援助を得て開催した、障がい者とその家族を対象とした音楽活動体験ワークショップ、②舞台芸術「みんなのはっぴょうかい」の支援、③さらなる大学の使命として、地域や福祉施設で芸術文化活動を支援する人材の育成である。

令和7(2025)年12月9日に文部科学省において文部科学大臣臨席のもと表彰式が執り行われた。



11) 思春期ピアカウンセラー養成講座

思春期ピアカウンセリングとは、同年代の仲間（ピア）による傾聴・共感を通して、性=生（命）に関する正しい知識を伝えるカウンセリングである。その養成講座を受講し、カウンセリング手法を学んだ学生を「思春期ピアカウンセラー」と呼ぶ。本学では思春期ピアカウンセラー養成講座を開講し、思春期ピアカウンセラーを育成するとともに、ピア活動を実施している。令和7(2025)年度は、その一環として、徳島県内の中学校、高等学校、視覚支援学校など5校でピアエデュケーションを実施した。

また、徳島保健所が主催し、県内の養護教諭と思春期ピアカウンセラー認定講師が参加する「思春期ピア活動検討会」が毎年開催されており、思春期ピア活動の支援体制が整えられている。これらの取り組みは高い評価を受けており、一般社会にも活動が広く認知されている。ピアエデュケーションを希望する中学校・高校も多く、今後も行政と連携しながら思春期ピア活動を継続していく。



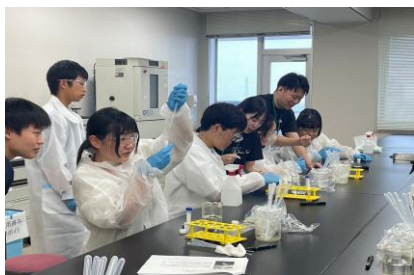
12) 車いす避難サポーター養成講座

令和元(2019)年度からスタートした「車いす避難サポーター養成講座」が、着実に広がりを見せている。中学生や高校生から、地域の自主防災会、企業の方々まで、世代や職種を超えた多くの方が「災害時の支え手」として学んでいる。令和7(2025)年度は四国3県(徳島・香川・高知)と和歌山県にて計22回開催し、578名の新たなサポーターが誕生。延べ受講者数は2,798名となった。講座では理論だけでなく、検証データに基づいた確かな技術を「実技中心」で身につけて貰った。誰もが安心して暮らせる地域づくりのため、これからも教育機関や各組織と手を取り合い、防災の輪を広げていく。



13) ひらめきときめきサイエンス

令和7(2025)年度科学研究費助成事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」として、令和7(2025)年8月8日、体験実験プログラム「食品中に混入しているヒ素を分析してみようー調理の工夫によるヒ素の低減方法の紹介ー」を徳島キャンパス薬学部で開催した。本プログラムには中学生9名、高校生6名の計15名が参加し、「食品中に混入しているヒ素と調理後の濃度変化」をテーマにした体験実験に取り組んだ。実際には本プログラムにおいて、1. 食品に有害金属物質が含まれていること、2. その化学形態と照合し、金属の形態によりヒトへの毒性が著しく異なること、3. 調理の工夫により、有害金属を低減できる方法について、ヒ素を題材として実験活動を行った。科研費による研究内容を踏まえた実験と講義を通して知ることにより、環境化学物質に対する正しい知識(リスク)を習得してもらうことができたと考えられる。本プログラムの実施により、参加した中・高校生が薬学の中にある環境学・衛生学に興味をもって頂けた。



14) 地域農産物などを活用したフェーズフリー商品「防災すごろくカレー」の開発

総合政策学部が、三好市の産学官団体と協働し「防災すごろくカレー」を開発した。令和7(2025)年6月から試行錯誤を重ねた本作は、地域の農産物(ごうしゅいも)やブランド産品(阿波尾鶏)を活用しつつ、日常から防災を意識する「フェーズフリー」の視点を導入。パッケージには、南海トラフ地震から命を守るための知識や行動を問う48問のクイズを掲載。「ゲームの面白さと教材の質のバランスに苦勞した」と学生が語る通り、遊びながら実践的な防災知識が身につく画期的な製品。今後は高校生や大学生を対象にゲーム体験会を通じた製品の改良を図っていく。



15) 地域農業の振興を目指し全国的にも珍しい「きゅうりビール」の開発

総合政策学部が、那賀川町商工会、日和佐ビール、美波御塩と連携し、阿南市那賀川町産の「きゅうり」を使用し全国的にも珍しいクラフトビールを開発した。爽やかさに加え、メロンに似た風味がある「きゅうりビール」を令和8(2026)年2月にJA東とくしまの産直市「みはらしの丘 あいさい広場」で販売したところ、当日用意した70本のビールが1時間で完売した。今後とも地域と連携しながら、学生たちが主体的に課題解決に取り組む、「実践知」を習得する機会として強化していく。



16) 「2025年度デコリメイクチャレンジ展」において関西ファッション連合理事長賞を受賞

SDGsの概念である環境問題の解決として、古着や廃棄の副資材等を使用し再生するリメイクファッション制作・提案のコンテストに毎年参加している。学生が自由な発想でアイデア溢れる独自の作品を企画・制作する「デコリメイクチャレンジコンテスト」に出品、令和7(2025)年度は2作品が「関西ファッション連合理事長賞」と「コンテスト入賞」を受賞した。この「関西ファッション連合理事長賞」は、全国からの応募中の3位にあたる。この受賞を励みに、今後もSDGs概念を重要視し、学生達が衣服のあり方や価値観等を見直し、より衣服に対する知識を深め、制作意欲の向上に図ることを期待している。



関西ファッション
連合理事長賞作品



コンテスト
入賞作品

17) 上勝町におけるローカルSDGsの実践2025ー地域の宝と持続可能な地域づくりへの考察ー

人間生活学科では、上勝町の上勝阿波晩茶を未来につなごうプロジェクトの一環として、令和7(2025)年8月2日に徳島県上勝町において上勝阿波晩茶づくりを行った。この阿波晩茶づくりの活動は、令和4(2022)年度から継続している活動であり、阿波晩茶文化を継承する取り組みとして行っている。上勝町の高齢化比率は近年50%を超え、集落の過疎高齢化により晩茶農家の急減が課題となっている。こうした地域の現状を理解するため、上勝萱葺き学校ワークショップや上勝町のフィールドワークを行っている。上勝阿波晩茶づくりでは、4年前より「桶オーナー制度」(主催：一般社団法人上勝阿波晩茶協会)に参加し、茶摘み、舟擦り、桶入れ、茶干し等一連の行程を行い、完成した茶葉は「にんにんの阿波(our)晩茶」としてオープンキャンパスや地域イベント等で提供している。この活動を通して、持続可能な暮らしの魅力や地域文化の継承意義について学び、その活動や成果を学科インスタグラムに掲載し発信している。また、学生の学ぶ意欲や考え抜く力の向上を目指して、一連の地域課題解決についての検討会や発表会を実施している。



18) 徳島の伝統「阿波藍」を使ったドレス制作

令和7(2025)年度卒業生が、卒業研究論文・作品制作として「阿波藍染のドレス」を制作した。作品テーマ「藍の舞」。論文題目は「阿波藍染を施したドレスの制作研究」、徳島県産の藍の葉を発酵させて作る天然染料「すくも」を使用した「阿波藍染」の魅力や特徴・歴史を研究し、さらに素材や立体造形技法にこだわり、阿波藍染特有の深みのある色の中に感じる明るさや輝きを活かし、藍の上品さと奥深さを大切にドレスをデザインした。「藍の舞」ドレスは、板野町文化の館、藍住町歴史館 藍の館、美馬市立図書館、徳島県庁議会ホール等に展示を行った。作品が好評のため美馬市立図書館の要望で令和8(2026)年7月にも展示予定。このような展示は初めての取り組みであり、学生の考える研究・制作活動の発信は、学生のモチベーションを高め向上に繋がると期待している。



徳島県庁1階議会ホールにて展示

19) 産官学連携による地域活性化・健康増進のための牟岐町特産品の販売

食物栄養学科「もちっとむぎゅっとの会」では、学生が牟岐町産の「もち麦」と「モリンガ」の認知度向上・地産地消促進を目的に、以下の活動を行った。

① イベントでの物産販売

第20回食育推進全国大会 in TOKUSHIMA では、牟岐茶の試飲会に加え、もち麦、モリンガパウダー、ジュレ（ドレッシング）、ゆず茶などを牟岐町の特産品を販売した。もちっとむぎゅっとカフェでも、同様の牟岐町の特産品を販売した。

② 「もち麦」「モリンガ」料理の提供

山城祭では、もち麦うどんを、また、もちっとむぎゅっとカフェでは、もち麦入りビビンバ、モリンガパウダー入りのガトーショコラ、牟岐茶を提供し、お客様から美味しいとの評価を得た。

③ 「もち麦」「モリンガ」の健康性に関する啓発活動

第7回牟岐町にぎわい産業祭では、地域住民に対し「もち麦」と「モリンガ」の栄養的な魅力等をパネルを使って紹介するなど情報発信した。「もち麦」「モリンガ」を活かしたレシピ作成、商品開発、物産販売に取り組むことで、参加学生には学びを深めるとともに、地域住民の健康づくりや地域の活力に貢献しているというやりがいにつながっている。



20) 情報発信ウォッチャー

人間生活学部メディアデザイン学科は、徳島県警との間に「情報発信ウォッチャー」事業での連携を結んでいる。

令和7(2025)年10月29日(水)、本学にて委嘱状を行い、代表してメディアデザイン学科4年生の学生が委嘱状を受け取った。

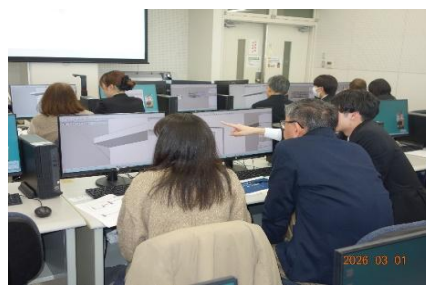
今後、「情報セキュリティ論」の授業の中で徳島県警が開設しているHPのセキュリティやモニタリング、効果的に情報発信を行うための改善点等をレポートにまとめ提言し、利便性の高いHP作成に協力する。



21) 建築設計業務担当者を対象にした3Dプリンタによる建築模型製作講座

建築デザイン学科では、従来より3Dプリンタによる建築模型の製作を取り組んできた。こうした3Dプリンタによる精巧な建築模型を製作する技術的ノウハウは建築業界では、未知の分野であり、設計業務に携わる建築士からも高い関心が寄せられていた。本講座は、公営社団法人徳島県建築士会男女参画委員会の依頼により、本学科で3Dプリンタによる建築模型の製作に関する講座を実施した。第1回目の開催には、徳島県建築士会会長をはじめ10名の建築士たちが参加し、修了時には受講修了書が交付された。

講座の内容は、技術を習得している建築デザイン学科3年生が講師となり3DCADによる製図と3Dプリンタによるプリントまでの技術的な内容を講義した。さらに卒業生による実際に企業による3Dプリンタの導入についての効果と問題点について講義も行った。参加した建築士からは高評価をいただき、次回開催の要望も出された。



22) 「広げよう！音楽の輪」～人に寄り添い、地域とつながるプロジェクトの発信～

○上野耕平スペシャルセミナーシリーズ

高松駅キャンパス

令和7(2025)年6月14日(土)14:00-16:00

徳島キャンパス

令和7(2025)年6月15日(日)オープンキャンパス「講演・コンサート」

セミナーでは、「音楽の楽しみ方」をテーマに、上野耕平本学客員教授による演奏とともに、音楽と真摯に向き合う姿勢や、世界で活躍するまでのエピソード、音楽に込めた思いについて語られた。会場は熱気と感動に包まれ、学生や参加者にとって非常に貴重な時間となった。



○千住明客員教授による特別講座「言葉から音楽へ」

令和7(2025)年9月29日(月)

現代音楽をはじめ、TVドラマ『VIVANT』など数多くの映像作品の音楽も手掛ける世界的作曲家、千住明 客員教授による特別講座をプロの視点を通じて創作プロセスを深く学んでもらうことを目的として開講した。

テーマは「言葉から音楽へ」。

千住客員教授は、言葉や詩に含まれるリズムや抑揚、そして概念をどのように聴衆の心を打つ音楽へと具体的に創り上げていくのか、その緻密な思考プロセスについて語った。またAIを単なるツールとしてだけでなく、自身の創造性を深めるために活用し、自らも学習し続けることの重要性が述べられた。



23) 讃岐漆芸美術館：学生が英訳・作成した英語版リーフレットの贈呈式

英語英米文化学科では選択科目「Studies in English CI (観光英語入門)」の一環として、讃岐漆芸美術館の英語版リーフレットを作成した。同館が常備しているリーフレットの英訳に加え、漆芸に詳しくない外国人観光客にも楽しんでもらえるよう、漆芸の3技法—蒔摺(きんま)、存清(ぞんせい)、彫漆(ちょうしつ)—に関する説明を追加した。リーフレットの完成後、令和7(2025)年4月24日(木)に讃岐漆芸美術館にて贈呈式が行われた。本学学生にとってたいへん大きな学びとなった。



24) 短期大学部・保育科の地域貢献

①第42回おとぎのくに

学生が自分たちで創作したミュージカルやブラックシアター、ハンドベルなどを近隣の保育所や附属幼稚園の幼児と保育者を招待して上演する行事である。令和7(2025)年度は11月の2日間にわたり開催し、約1,000人に観覧していただいた。保育所等に就職した卒業生が子どもたちの引率として参加するケースも増えており、「おとぎのくに」を通じた絆が深まっていることを実感している。在学生にとっても、保育者としての実践力や表現力を高めるとともに、保育を目指す意欲をより強くする機会になっている。



②第21回保育セミナー

学生と保育者が共に学ぶ機会として開催している。第21回となる令和7年度は、保育者や子どもに人気のある二人組ユニット「ケロポンズ」を講師として招き、6年ぶりに対面で実施した。本学の学生、保育関係者、高校生を合わせて265名が参加し、盛況のうちに終えることができた。また、第1部では学生が手遊び歌やパネルシアターなどの実技発表を行った。子どもの発達や興味・関心を踏まえて工夫された作品や、舞台上での堂々としたパフォーマンスには大きな拍手が送られ、学生にとって大きな自信につながった。



③ペンギンクラブ子育て支援イベント

主に未就園の子どもと保護者を対象とした子育て支援イベントである。教員が指導する運動遊びやリズム遊びなどの他、学生がスタッフとして参加して絵本の読み聞かせや手遊びを行っており実践的な学びの機会となっている。令和7(2025)年度は126組282人の親子が参加した。本学の口腔保健学科や音楽療法コースの教員・学生の協力も得て、毎回子育てに関連の深い内容で開催しており、好評である。学生にとっても他学科の学びに触れ視野を広げる機会となっている。



25) 短期大学部・生活科学科の地域貢献

①SDGsの視点から取り組む「あおさのりスイーツ」の開発

令和4(2022)年以降の取り組みであるあおさのりスイーツ開発について継続して活動を行っている。

商品化できた「あおサブレ」は地域社会からの認知度も高まり、令和7(2025)年11月には那賀町からの要請により「ナカまと減塩フェス」においてブース出展を行った。その他、毎年参加している徳島県主催の「消費者まつり」にも参加した。令和7(2025)年は新たなスイーツとして「あおさブッセ」「あおさバスクチーズケーキ」「あおさメレンゲクッキー」を企画し令和7(2025)年10月の短大フェスタにおいて披露することができた。令和8(2026)年3月には外部協力者を交えた関係者会議を開き、あおさスイーツの今後の方向性を協議した。これからも、徳島文理大学発の産官学連携スイーツとしてさらに発展させたい。



ナカまと減塩フェス



消費者まつり



2025年度開発商品

②エシカル消費～シカ肉を使ったレシピ開発と普及活動の実施～

短期大学部生活科学科食物専攻は、平成28(2016)年から地域連携フィールドワーク講座に参加してきた。野生鳥獣による農産物の食被害に対し捕獲された野生鳥獣の有効活用として、エシカル消費を目指し、学生たちは様々な活動に取り組んでいる。シカ肉を利用したレシピを学生が考案し、学生食堂での提供を令和7(2025)年度も継続した。学生が考案した献立提供は、TFTとのコラボレーションを行い大学食堂パウゼにおいて4回販売、カフェロティではシカ肉ソーセージと「あおさのり」ソースを使用したジビエドッグを3回販売、提供した献立はいずれも予定数を完売した。また1月には学内教員向けにシカ肉ソーセージの販売を行った。

令和7(2025)年度は、6月に第20回食育推進全国大会 inTOKUSHIMAへ出展し販売を行った。令和6(2024)年から開発に着手していたシカ肉タコライス(タコミート)を新たに商品化し、11月にとくしまビジネスチャレンジメッセに出展・販売を行って食物専攻の活動を紹介した。また那賀町のイベント「ナカまと減塩フェス」でも出展・販売し、エシカル消費活動の実践による地域の活性化にも貢献している。



26) 短期大学部・コミュニティカレッジ講座

① 生活科学科

令和7(2025)年度から開始したコミュニティカレッジ講座は、学外の方々に本学をより身近に感じていただき、開かれた学びの場として認識していただくことを目的に開講したものである。また、本講座は大学および学科の教育内容や特色ある学びを理解していただく貴重な機会にもなっている。

令和7(2025)年度は生活科学専攻で計7講座を開催し、満席となる人気講座も多く、地域住民の関心の高さがうかがえた。当専攻はものづくりを特色とする専攻であり、講座を通してその楽しさや魅力を地域の方々に体験していただくことができた。

講座内容は以下のとおりである。

- ・ 8月 「ジェルプリント」 1講座
- ・ 10月 「レッスンバッグ」 2講座
- ・ 2月 「シルバーリング」 1講座 「水性木版画」 3講座



ジェルプリント



レッスンバッグ



シルバーリング講座



水性木版画講座

② 保育科

保育科では令和7(2025)年8月に「歌は世界をめぐる～西洋から日本へ、日本から西洋へ～」と題した講座を行った。学生から高齢者まで音楽を愛好する幅広い年齢層の方が受講した。保育科教員によるレクチャーとピアノ演奏、音楽科非常勤講師による歌唱とともに、専門的でありながら興味深い内容であり、参加者からも高い評価を得た。



(8) 徳島文理中学・高等学校、小学校、附属幼稚園の活動

1) 徳島文理中学・高等学校の教育

- 建学の精神 : 「自立協同」
教育方針 : 「進学指導を中核とした人間形成」
「品位と知性に富む豊かな人間性の育成」
「21世紀をリードする国際人の育成」

-真にゆとりある私立中高一貫教育-

- ① 豊富な授業時間と6年間の継続的・系統的な指導によって、受験科目については6年間の内容を5年間で終える先取り学習を実施している。
- ② 高校3年生では類型別コースで志望する大学・学部・学科に応じた難易度の科目を自由に選び、「ゆとり」を持った受験対策によって顕著な難関大学合格実績を上げている。
- ③ 中学2年生より「応用」「発展」の習熟度別クラス編制とし、高校2年生からは文系・理系別に「難関」「応用」「発展」クラスに細分化して、習熟度に応じた効果的な指導を行っている。
- ④ 最新の耐震基準に基づく環境に優しい安心・安全な本館と広々とした運動場、本格的な日本庭園を有し、本校の教育環境は理想的なものとなっている。
- ⑤ 中学校入試では前期・後期入試を実施している。高校入試では推薦選抜と一般選抜を実施するなどして生徒募集に努めている。少子化の中、令和8年4月から実施される高校無償化を追い風として、目標とする入学生を確保するためになお一層努力したい。
- ⑥ 私学魅力アップ事業を活用して、卒業生による全校生徒対象の「トップ講演会」を開催したり、大学教授等を招き、医歯薬系、工学系、文系の分野別講演会を高1、高2生対象に年3回実施している。
- ⑦ 代々木ゼミナール講師（英数国）を招いた中3生対象の各教科50分4コマの講演会は、96～100%の生徒が「勉強の仕方を学ぶ上で参考になった」と答えるなど好評だった。駿台予備学校講師（英数国）を招いた高2生対象の「特設スーパー講座」と題した各教科50分4コマの講義は、90～97%の生徒が「受験勉強の参考になった」と答えるなど好評だった。
- ⑧ オーストラリアキララ校での語学研修と同校との相互訪問は軌道に乗り、令和7年度は、本校中3生29名が訪問した。令和8年度は本校中3生34名が訪問し、キララ校からは34名が来校することになっている。授業や各種アクティビティで交流し、多文化社会やグローバル社会を肌で感じるよい機会となっている。
- ⑨ 県内外の強豪チームを招いた小中学生対象の本校主催「第18回文理杯争奪剣道大会」には、県内外から小学生の部に38チーム、中学生女子の部に18チーム、男子の部に30チームが参加し熱戦が繰り広げられた。また、フェンシング部は、毎年中学生、高校生共に全国大会に出場するなど活躍している。サッカー部やソフトボール部も活躍している。
- ⑩ 「いじめに関する調査」や「学校評価アンケート調査」を実施し、関係者で分析し、冊子にまとめ、公表し、今年度の反省と次年度の組織づくりに反映させた。多くの項目で改善が見られた。
- ⑪ 様々な分野の講師を招き、教職員、生徒、保護者対象の各種講演会、研修会を開催して、「大学入試」「人権教育」「生徒理解」などについて理解を深めた。
- ⑫ 村崎学園創立130周年記念徳島文理中学・高等学校ホームカミングを本校とホテルを会場に開催し、延べ1000人近い卒業生と家族が集い、楽しく交流した。10年ごとに開催するホームカミングは、卒業生と学校・学園との絆を深める良い機会となっている。
- ⑬ ICT環境整備に努め、タブレットを中学校で1人1台、高校で必要数購入し、電子黒板機能を備えたプロジェクターを各教室に設置した。調べ学習や課題研究、日々の教育活動に積極的に活用している。各教科におけるデジタル教材の効果的活用が目下の課題である。



2) 徳島文理小学校の教育

建学の精神

「自立協同」

校訓

「正しく 強く 美しく」

めざす子ども像

- ①思いやりのある美しい心をもった子ども（自他の尊重）
- ②なかよく助け合い協力できる子ども（連帯と協調）
- ③よく考え、正しい行いのできる子ども（自主・自立の精神）
- ④苦しいことに負けずに努力する子ども（強い意志）
- ⑤じょうぶな体をもった子ども（健康と安全の習慣）
- ⑥あいさつのできる礼儀正しい子ども（礼節・品位）
- ⑦学習に力いっぱいがんばる子ども（旺盛な学習意欲）

① 充実した授業内容

文理小学校の6年間では、国公立小学校より約900時間多くの授業時間数を設定している。授業時間数にゆとりを持たせ、独自のカリキュラムを編成し教育内容を充実させ、児童一人一人に行き届いた教育を実践している。また、基礎基本はもとより、応用・発展にも十分踏み込んでいく。さらに、3年生以上で国語と算数も教科担任制を導入したり、全学年で一人一台のタブレットを使ったICT活用教育等を行ったりして、指導方法にも工夫をしている。1年生では、「架け橋プログラム」に基づいたスタートカリキュラムを実施して、スムーズな学校生活を開始している。低学年・中学年・高学年の発達段階に応じたステージで、個別指導・先取り学習・6年生の補習等を実施して、成果をあげている。

② 学習の基盤としての国語力の育成

読書入門の1～3年生までは、親子読書会をとおして読書に興味と親しみを持たせ、読書への意欲づけと習慣化する態度を育てている。また、各学年毎に課題図書「これだけは読もう20冊」の奨励を契機とし、読後の感想文を校内・全国各分野コンクールへ応募し、優秀な成果をあげている。低・中・高学年別の3つの図書室に、国の基準冊数の約5.5倍の蔵書を誇っている。さらに、国語科を重視するとともに、毎日の日記指導・適宜の作文指導を充実させるとともに、豊かな言語活動を展開して、国語力を高めている。

③ 伝統文化の尊重

- ・日本の伝統文化にふれ、作法を体験してお茶の心を学ぶため全校茶会を行っている。
 - ・古典等の音読を行い、日本の伝統文化に慣れ親しむ。
- 1年（俳句） 2年（詩歌） 3年（論語） 4年（百人一首） 5年（古典） 6年（自作短歌）

④ 一味会

むらさきホールにて、日頃の音楽成果を発表する学習発表会を行っている。

4年生では、学級ごとに英語力を活かした英語劇を披露している。

⑤ 遷都学習

5～6年生の2年間で首都変遷の歴史をたどり史実を確かめる臨地学習を行っている。

5年生で飛鳥・奈良、6年生で京都・東京に行き、特に、東京では国会見学をしている。

⑥ 英語教育

昭和59(1984)年の開校以来、教科として特設された英語の時間では、1年生から6年生まで段階的・発展的な授業を展開している。各学年とも週に2時間の授業があり、高学年(5、6年生)ではそのうち1時間をネイティブスピーカーの教師が指導している。6年間で学習する単語数も約1500語となっており、国公立小学校が目指す約600～700語を大きく上回っている。英語になれ親しみ、将来において使える英語の基礎をつくること、広い視野をもつ子どもを育てることを目標として、聞く・話す・読む・書くの4技能を生かした先進的な指導を行っている。

⑦ ICT活用教育・デジタル化の推進

ICTを効果的に活用でき、学習の基盤として、情報モラルを含めた情報活用能力を育成している。次の4つの柱を定めて取り組んでいる。欠席や自宅待機時に、オンライン授業も実施している。校内のWiFi環境等も整備済で、校務もデジタル化を進めている。

- ・目的に応じた情報活用のための技能・実践力を高める。
- ・電子黒板・書画カメラ・デジタル教科書等を利用して、各教科等でのICT活用を図る。
- ・プログラミングツールを活用して、その理解と論理的思考力を育成する。
- ・情報社会で適正に活動できるように、情報モラル・セキュリティ力を身につける。

校内ネットワークを高速化・大容量化するとともに、一人一台の最新高機能タブレット端末を活用して効果をあげている。



3) 附属幼稚園の教育

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、その事を教職員全員が自覚した上で、環境を通じた教育に当たっている。また、優秀な教員の援助と助言のもと、一人ひとりに寄り添い、幼児期にふさわしい生活を展開している。

① 教育方針

【健康】自分のことは自分でできる、心身ともに健康な子どもに

【知性】ものをよく認識し、よく思考し、理性的に行動できる子どもに

【徳性】優しさと思いやりがあり、お友達と仲良くできる子どもに

② 7つの特色

(ア) 一貫教育体制

徳島文理小学校、徳島文理中学校、徳島文理高等学校と強い連携を保っている。

(イ) 教育環境の充実

・運動場を拡張し芝生を張り、園児が思いきり遊び、のびのびと活動できる環境、また、菜園や花壇を広げ季節の野菜や草花の栽培、うさぎの飼育を行い、自然や動物とふれあえる環境となっている。

・安全面や衛生面には配慮し、床暖房、指つめ防止用ゴムパッキン、アクリルガラス窓、滑り止め、各教室には冷暖房等を備え、園内の各所に防犯カメラを設置している。

・衛生面ではトイレとシャワールームを2つの保育室の間に設置し、「安心感」「清潔さ」「使いやすさ」に留意している。

(ウ) 大学・短期大学の学生との連携

徳島文理大学・短期大学の学生と接することで、多様な経験を豊かにし、幼児の人間関係の発達を促している。

(エ) 特設保育の設定

通常保育のプラスαとして、専門の指導員のもと、音楽や英会話、絵画・造形、体育遊び、茶道などの特別な教育を通じて、感性や感覚を養う情操教育を目的としている。

(オ) 大学内の施設・設備の利用

大学イベントへの参加、構内施設・設備の利用により、多様な環境体験を積み、豊かな知性を養っている。また、地震・津波の避難訓練では学生と園児が手を取り合って避難を行うなど、園児が安心して参加できる避難訓練を実施している。

(カ) 子育て支援体制

望ましい子育てのあり方や、育児不安の解消のために、随時、子育て相談を実施している。また、平成25(2013)年10月から3歳の誕生日を迎えた子どもの入園を開始した。

(キ) 預かり保育の実施

園内の教室にて預かり保育を実施している。専任教諭による保育を行い、制服から普段着に着替え、子ども達がリラックスした雰囲気の中で過ごせるよう努めている。(月～金曜：保育終了後～18:30 春・夏・冬休み：8:00～18:30)

③ 令和7(2025)年度の特長ある取り組み

安全管理の実施

「子どもの育ちのためにすべきこと」を熟慮し、安心・安全な環境を整えるため、侵入者を防ぐ玄関オートロック・東側外壁防犯フェンスを設置した。また、耐震補強としてロッカーを固定し、子どもたちの安全確保に努めた。

情報発信

HPをリニューアルし、Instagramを駆使して、広く敏速に園行事や保育内容について発信することで、保育の「見える化」につなげ、多くの方に園の魅力を理解していただけるよう努めた。

給食開始

徳島文理小学校の給食を幼稚園用にして配送し、給食をいただいた。安心安全かつ美味しい給食を通して子どもたちの食育につなげている。

小学校との連携・接続

一年間を通して、徳島文理小学校1年生児童と年長組幼児が交流を行った。一緒に活動することにより、小学生に憧れを持ち、自身の成長を喜び、小学校という施設、児童、先生を身近に感じられるようになった。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムが連動できるように円滑な接続となるよう取り組んだ。



Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

1) 貸借対照表の状況と経年比較

(百万円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	88,633	89,074	89,462	88,812	86,052
流動資産	9,729	9,257	8,164	7,392	7,139
資産の部合計	98,362	98,331	97,626	96,203	93,191
固定負債	1,605	1,604	1,568	1,601	1,702
流動負債	1,346	1,184	1,026	1,366	1,549
負債の部合計	2,951	2,789	2,594	2,967	3,250
基本金	111,133	117,736	126,034	139,579	138,502
繰越収支差額	△ 15,722	△ 22,194	△ 31,001	△ 46,342	△ 48,562
純資産の部合計	95,411	95,542	95,033	93,237	89,940
負債及び純資産の部合計	98,362	98,331	97,626	96,203	93,191

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2) 財務比率の経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産構成比率	90.1%	90.6%	91.6%	92.3%	92.3%
有形固定資産構成比率	49.1%	54.5%	61.9%	76.8%	77.1%
特定資産構成比率	40.9%	35.9%	29.5%	15.3%	15.1%
流動資産構成比率	9.9%	9.4%	8.4%	7.7%	7.7%
固定負債構成比率	1.6%	1.6%	1.6%	1.7%	1.8%
流動負債構成比率	1.4%	1.2%	1.1%	1.4%	1.7%
内部留保資産比率	47.6%	42.2%	34.9%	19.5%	19.0%
運用資産余裕比率(年)	5.6	5.0	4.0	2.2	1.8
純資産構成比率	97.0%	97.2%	97.3%	96.9%	96.5%
繰越収支差額構成比率	-16.0%	-22.6%	-31.8%	-48.2%	-52.1%
固定比率	92.9%	93.2%	94.1%	95.3%	95.7%
固定長期適合率	91.4%	91.7%	92.6%	93.6%	93.9%
流動比率	722.7%	781.6%	795.7%	541.3%	460.9%
総負債比率	3.0%	2.8%	2.7%	3.1%	3.5%
負債比率	3.1%	2.9%	2.7%	3.2%	3.6%
前受金保有率	837.6%	874.4%	917.3%	659.0%	689.4%
退職給与引当特定資産保有率	99.7%	99.7%	102.1%	99.9%	94.0%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%
減価償却比率	68.6%	64.8%	60.6%	53.9%	55.7%
積立率	78.2%	68.3%	55.3%	32.7%	31.1%

(2) 事業活動収支計算書関係

1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(百万円)

科目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	6,706	6,708	6,440	5,923	5,959
	手数料	82	74	62	69	64
	寄付金	25	36	45	60	37
	経常費等補助金	1,207	1,272	1,080	1,045	1,646
	付随事業収入	126	106	115	104	113
	雑収入	248	200	336	278	191
	教育活動収入計	8,393	8,395	8,077	7,479	8,010
	事業活動支出の部					
	人件費	4,558	4,537	4,824	4,776	5,001
	教育研究経費	3,753	3,633	3,584	4,068	5,131
	管理経費	599	645	643	837	1,159
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	8,910	8,815	9,051	9,682	11,291	
教育活動収支差額	△ 517	△ 420	△ 974	△ 2,203	△ 3,281	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	621	492	446	381	286
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	621	492	446	381	286
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0	
教育活動外収支差額	621	492	446	381	286	
経常収支差額	104	71	△ 528	△ 1,821	△ 2,995	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	55	77	43	34	25
	特別収入計	55	77	43	34	25
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	10	17	25	9	28
	その他の特別支出	0	0	0	0	299
特別支出計	10	17	25	9	327	
特別収支差額	44	60	18	26	△ 302	
基本金組入前当年度収支差額	149	131	△ 509	△ 1,796	△ 3,297	
基本金組入額合計	△ 759	△ 6,609	△ 8,300	△ 13,547	△ 315	
当年度収支差額	△ 611	△ 6,478	△ 8,809	△ 15,343	△ 3,612	
前年度繰越収支差額	△ 15,114	△ 15,722	△ 22,194	△ 31,001	△ 46,342	
基本金取崩額	4	6	2	2	1,392	
翌年度繰越収支差額	△ 15,722	△ 22,194	△ 31,001	△ 46,342	△ 48,562	
(参考)						
事業活動収入計	9,069	8,963	8,566	7,895	8,321	
事業活動支出計	8,920	8,832	9,076	9,691	11,618	

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2) 財務比率の経年比較表

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	50.6%	51.1%	56.6%	60.8%	60.3%
人件費依存率	68.0%	67.6%	74.9%	80.6%	83.9%
教育研究経費比率	41.6%	40.9%	42.1%	51.8%	61.9%
管理経費比率	6.6%	7.3%	7.5%	10.7%	14.0%
借入金等利息比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率	1.6%	1.5%	-5.9%	-22.7%	-39.6%
基本金組入後収支比率	107.4%	375.2%	3410.3%	-171.4%	145.1%
学生生徒等納付金比率	74.4%	75.5%	75.6%	75.4%	71.8%
寄付金比率	0.4%	0.6%	0.8%	1.1%	0.7%
経常寄付金比率	0.3%	0.4%	0.5%	0.8%	0.4%
補助金比率	13.8%	14.8%	12.8%	13.3%	19.8%
経常補助金比率	13.4%	14.3%	12.7%	13.3%	19.8%
基本金組入率	8.4%	73.7%	96.9%	171.6%	3.8%
減価償却額比率	19.0%	16.9%	15.6%	19.1%	21.6%
経常収支差額比率	1.2%	0.8%	-6.2%	-23.2%	-36.1%
教育活動収支差額比率	-6.2%	-5.0%	-12.1%	-29.4%	-41.0%

(3) 資金収支計算書関係

1) 資金収支計算書の状況と経年比較

(百万円)

収入の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金収入	6,706	6,708	6,440	5,923	5,959
手数料収入	82	74	62	69	64
寄付金収入	25	38	47	55	39
補助金収入	1,252	1,328	1,099	1,053	1,651
資産売却収入	0	0	0	0	14
付随事業・収益事業収入	126	106	115	104	113
受取利息・配当金収入	621	492	446	381	286
雑収入	250	246	354	316	253
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,126	1,015	843	1,049	988
その他の収入	2,492	8,277	9,822	16,740	3,395
資金収入調整勘定	△ 1,262	△ 1,386	△ 1,344	△ 1,195	△ 1,274
前年度繰越支払資金	9,153	9,430	8,879	7,736	6,912
収入の部合計	20,571	26,327	26,762	32,232	18,399

(百万円)

支出の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	4,567	4,583	4,879	4,780	4,880
教育研究経費支出	2,172	2,246	2,267	2,389	2,960
管理経費支出	489	546	544	657	892
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	442	6,502	8,043	11,521	189
設備関係支出	320	345	258	3,762	208
資産運用支出	1,505	1,505	1,505	1,005	805
その他の支出	1,822	1,878	1,710	1,519	1,853
資金支出調整勘定	△ 175	△ 156	△ 180	△ 313	△ 200
翌年度繰越支払資金	9,430	8,879	7,736	6,912	6,812
支出の部合計	20,571	26,327	26,762	32,232	18,399

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2) 活動区分資金収支計算書

(百万円)

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,395	8,441	8,095	7,508	8,072
教育活動資金支出計	7,228	7,375	7,690	7,826	8,732
差引	1,167	1,066	404	△ 318	△ 660
調整勘定等	89	△ 184	△ 250	160	76
教育活動資金収支差額	1,257	882	154	△ 157	△ 584
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	672	6,484	8,021	15,112	520
施設整備等活動資金支出計	2,261	8,347	9,801	16,283	1,197
差引	△ 1,590	△ 1,862	△ 1,780	△ 1,171	△ 677
調整勘定等	1	△ 12	39	134	△ 119
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,588	△ 1,874	△ 1,741	△ 1,038	△ 796
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 332	△ 992	△ 1,587	△ 1,195	△ 1,380
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,269	2,107	2,008	1,693	2,829
その他の活動資金支出計	1,661	1,665	1,565	1,321	1,549
差引	609	442	443	371	1,280
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	609	442	443	371	1,280
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	277	△ 550	△ 1,144	△ 824	△ 100
前年度繰越支払資金	9,153	9,430	8,879	7,736	6,912
翌年度繰越支払資金	9,430	8,879	7,736	6,912	6,812

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

3) 財務比率の経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支差額比率	15.0%	10.4%	1.9%	-2.1%	-7.2%

2. その他

(1) 資産運用の状況

ア. 運用目的

資産の適正かつ効率的な運用の実施を図り、健全経営に資することを目的とする。

イ. 運用目標

運用資産は特定資産中の運用可能資産の3分の2までか、総金融資産の2分の1までのいずれか低い方を上限とする。

収益状況は年間300百万円程度を目途とする。

ウ. 運用方針(基本ポートフォリオ含む)

資金運用は安全性及び元本返還の確実性を第一とする。

当面現状残高を維持する。

エ. 資産運用に関するガバナンス体制

理事長、法人事務局長、総務部長、経理部長、その他理事長の指名する者で構成する資金運用会議において、出席者全員の合意のもと、理事長が承認する。

常に市場リスクその他運用に関する情報収集に努め、適時適切に管理するものとする。

金融商品による運用状況を定期的に理事長に報告しなければならない。

オ. 運用体制

運用担当部は経理部とする。

カ. 本年度の運用の概況

有価証券の状況

(単位：千円)

種 類	当 年 度 (令 和 8 年 3 月 31 日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	6,500,000	6,218,470	△ 281,530
株式	85,256	350,469	265,213
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合計	6,585,256	6,568,939	△ 16,317
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	6,585,256		

(2) 学校債の状況

該当事項なし

(3) 寄付金の状況

令和7年度の状況

(単位：千円)

	予 算	決 算	差 異
特別寄付金	15,000	18,510	△ 3,510
一般寄付金	18,250	18,240	10
施設設備寄付金	2,000	1,944	56
現物寄付	17,569	18,681	△ 1,112
合計	52,819	57,375	△ 4,556

(4) 補助金の状況

令和7年度の状況

(単位：千円)

	予 算	決 算	差 異
国庫補助金	1,286,980	1,308,449	△ 21,469
地方公共団体補助金	335,816	333,392	2,424
学術研究振興資金	4,500	4,500	0
合計	1,627,296	1,646,341	△ 19,045

(5) 収益事業の状況

該当事項なし(寄附行為上)

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

(1) 経営状況の分析

教育活動収支において、学生数が微減に留まったことにより、学生生徒等納付金収入はほぼ前年並みとなり、事業活動収入が4億2,636万円増加しました。

事業活動支出については、減価償却費の増加などが主要因となり、19億2,733万円の増加となった結果、経常収支差額は29億9,451万円の支出超過となりました。

純資産構成比率については96.5%と、引き続き高い水準を維持しており、財務状況は安定しています。

(2) 経営上の成果と課題

令和7年4月の香川キャンパスの移転・高松駅キャンパス開学により、教育環境の充実がより図られ、今後の学生数の増加は十分に期待できます。

他方で、学生の選択肢を減らさないように、現在の学部・学科を維持し、必要に応じて定員の調整などを検討してまいります。

今後、新校舎建設に伴う償却負担増加や光熱水費の上昇等の課題に対し、引き続き適正な経費管理を実施し、安定的な経常収支を確保することが重要な経営課題となっています。

(3) 今後の方針・対応方策

18歳人口が減少するこの状況においても、学生募集強化を継続し、学生数の増加を図ることで、学生生徒等納付金を主体とした収入の安定化を目指します。

予算執行にあたっては、教育の質の向上を目指すと同時に、その必要性を十分に考慮し執行することで、健全な財務状況を維持いたします。

IV. 学校法人の業務の適正化を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

1. 関係する決議の概要

学校法人村崎学園理事会（令和7年3月25日開催）において、評議員会の意見を聞いた上で、業務の適正化を確保するための体制の整備に関し、「学校法人村崎学園内部統制システム整備の基本方針」を策定・決定した。

2. 体制整備及び運用状況の概要

(1) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

理事会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、学校法人村崎学園寄附行為（令和7年4月1日施行）に基づき、適切に保存及び管理している。

(2) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

次の規程等に基づき運用している。

- ・学校法人村崎学園危機管理規程（平成22年1月1日施行）
- ・徳島文理大学危機管理マニュアル
- ・学校法人村崎学園個人情報保護方針及び個人情報保護規程（平成17年4月1日施行）
- ・徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部防災規程（昭和51年12月14日施行）
- ・徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部公的研究費の取扱いに関する規程（平成27年4月1日施行）
- ・徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部研究活動における不正行為への対応に関する規程（平成27年4月1日施行）
- ・徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部利益相反マネジメント規程（平成29年4月1日施行）

(3) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・改正私立学校法に基づき、学校法人村崎学園寄附行為（令和7年4月1日施行）を変更した。（令和6年10月15日理事会において決定）
- ・学校法人村崎学園役員及び評議員に対する報酬等の基準に関する規程（令和7年6月1日から適用）を制定した。（令和7年7月1日理事会において決定）
- ・寄附行為の変更に基づき、学校法人村崎学園理事会規則及び常任理事会規則（令和7年4月1日から適用）を改正した。（令和7年9月16日理事会において決定）
- ・私立学校法の改正及び寄附行為の変更に伴い、「私立大学・短期大学ガバナンスコード」を策定した。（令和7年9月16日理事会において決定）

(4) 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

- ・私立学校法の改正及び寄附行為の変更に伴い、「私立大学・短期大学ガバナンスコード」を策定した。（令和7年9月16日理事会において決定）

(5) 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

次の規程等に基づき運用している。

- ・学校法人村崎学園監事監査規程（令和2年4月1日施行）
- ・学校法人村崎学園内部監査規程（平成22年4月1日施行）

附属明細書

特記事項なし

監査報告書

令和8年5月15日

学校法人 村崎学園
理事会 御中

学校法人 村崎学園

監事 新見 延安

監事 竹内 圭三

私たち監事は、私立学校法第52条及び学校法人村崎学園寄附行為第28条第1項に基づき、学校法人村崎学園の令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）における財産目録及び計算関係書類（貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書及び附属明細書）並びに事業報告書を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の職務の執行の状況について監査を行いました。

1. 監査の方法及びその内容

理事会、評議員会、部局長会、合同教授会等、重要な会議に出席し、理事長及び幹部職員等から業務執行について説明・報告を聴取するとともに、重要な決裁書類等を閲覧しました。また、会計監査人から、その独立性に関する事項、会計監査に関する法令及び学内諸規程の遵守に関する事項、会計監査に係る契約に関する事項、会計監査人の職務の遂行が適正に行われるための体制に関する事項等について報告を受けました。

2. 監査の結果

- (1) 会計監査人の監査の方法及び結果は相当であると認めるとともに、会計監査人の職務の遂行が適正に実施されることを確保するための体制は、相当であると認めました。
- (2) 事業報告書は、法令及び寄附行為に従い、学園の状況を正しく示しているものと認めました。
- (3) 学校法人の業務及び財産並びに理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監査報告書

令和8年5月15日

学校法人 村崎学園
評議員会 御中

学校法人 村崎学園

監事 新見 延安

監事 竹内 真三

私たち監事は、私立学校法第52条及び学校法人村崎学園寄附行為第28条第1項に基づき、学校法人村崎学園の令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）における財産目録及び計算関係書類（貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書及び附属明細書）並びに事業報告書を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の職務の執行の状況について監査を行いました。

1. 監査の方法及びその内容

理事会、評議員会、部局長会、合同教授会等、重要な会議に出席し、理事長及び幹部職員等から業務執行について説明・報告を聴取するとともに、重要な決裁書類等を閲覧しました。また、会計監査人から、その独立性に関する事項、会計監査に関する法令及び学内諸規程の遵守に関する事項、会計監査に係る契約に関する事項、会計監査人の職務の遂行が適正に行われるための体制に関する事項等について報告を受けました。

2. 監査の結果

- (1) 会計監査人の監査の方法及び結果は相当であると認めるとともに、会計監査人の職務の遂行が適正に実施されることを確保するための体制は、相当であると認めました。
- (2) 事業報告書は、法令及び寄附行為に従い、学園の状況を正しく示しているものと認めました。
- (3) 学校法人の業務及び財産並びに理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上